

第七十五回 帝國議會院

所得稅法改正法
律案外三十件 委員會議錄(速記)第十四回

會 議	會 議
昭和十五年三月二日（土曜日）午前十時四十 七分開議	
出席委員左ノ如シ	
委員長 堀切善兵衛君	理事小笠原三九郎君
理事小山倉之助君 理事河野密君	理事立川平君
理事木村淺七君 理事濱野徹太郎君	豐田收君
理事高橋熊次郎君	森田福市君
伊藤五郎君	川崎末五郎君
船田中君	川崎克君
道家齊一郎君	内藤正剛君
青木作雄君	渡邊玉三郎君
佐竹晴記君	田万清臣君
内閣總理大臣 大藏大臣	鈴木英雄君
米内光政君	松永義雄君
幸雄君	西川貞一君
出席國務大臣左ノ如シ	小見山七十五郎君
出席國務大臣左ノ如シ	トシテ永江一夫君ヲ議長ニ於テ選定セリ
出席國務大臣左ノ如シ	三月二日委員佐竹晴記君辭任ニ付其ノ補闕
出席國務大臣左ノ如シ	武田德三郎君
出席國務大臣左ノ如シ	宮本雄一郎君
出席國務大臣左ノ如シ	山川賴三郎君
出席國務大臣左ノ如シ	藤本捨助君
出席國務大臣左ノ如シ	北勝太郎君

所得稅法改正法律案（政府提出）第 七號	外貨物特別稅法案（政府提出）（第八號） 特別法人稅法案（政府提出）（第九號） 配當利子特別稅法案（政府提出）（第十 一號） 外貨物特別稅法案（政府提出）（第十二 號） 相續稅法中改正法律案（政府提出） （第二號） 建築稅法案（政府提出）（第一三號） 鑛區稅法案（政府提出）（第一四號） 臨時利得稅法中改正法律案（政府提 出）（第一五號） 營業稅法案（政府提出）（第一六號） 地租稅法案（政府提出）（第一七號） 涼飲料稅法案（政府提出）（第一八號） 酒稅法中改正法律案（政府提出）（第 一九號） 糖消費稅法中改正法律案（政府提 出）（第二〇號） 物消費稅法中改正法律案（政府提 出）（第二一號） 發行稅法中改正法律案（政府提出） （第二二號） 第二稅法中改正法律案（政府提出） （第二三號） 通行稅法案（政府提出）（第二六號） 遊飲食稅法案（政府提出）（第二四 號） 紙稅法中改正法律案（政府提出） （第二八號） 骨牌稅法中改正法律案（政府提出） （第二九號） 狩獵法中改正法律案（政府提出）（第 三〇號） 明治四十四年法律第四十五號中改正 徵法律案（砂糖消費稅等） 收ニ關スル件（政府提出）（第三二 號） 大正九年法律第五十一號中改正法律 案（內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移 居スル物品ノ内國稅免除ニ關スル 支那事變特別稅法及臨時稅增徵法 營業收益稅法廢止法律案（政府提出） 資本利稅法廢止法律案（政府提出） （第三五號） 法人資本稅法廢止法律案（政府提出） （第三六號） 臨時租措置法中改正法律案（政府 提出）（第三七號） 地方稅法案（政府提出）（第四七號） 地方分與稅法案（政府提出）（第四八 號） 府縣制中改正法律案（政府提出）（第 四九號） 市制中改正法律案（政府提出）（第五 〇號） 町村制中改正法律案（政府提出）（第 五一號） 北海道會法中改正法律案（政府提出） （第五二號） 北海道地方費法中改正法律案（政府 提出）（第五三號） 地方分與稅分與金特別會計法案（政 府提出）（第五四號） 北海道會法（政府提出）（第七一號） 北海道會法中改正法律案（政府 提出）（第七二號） 北海道會法（政府提出）（第七三號） 昭和十二年法律第九十四號中改正法 律及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶 豫等ニ關スル件（政府提出）（第七四 號） 大正十三年法律第六號中改正法律案 （外國船舶ノ所得稅等除ニ關スル 件）（政府提出）（第七五號） ノ規定期法ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等 提出（第七七號）
------------------------	--

出席政府委員左ノ如シ	内務大臣 伯爵兒玉 秀雄君 商工大臣 藤原銀次郎君
内閣書記官長	石渡莊太郎君
内務省地方局長	挾間 茂君
内務書記官	三好 重夫君
大藏政務次官	木村 正義君
大藏參與官	松田 正一君
大藏省主税局長	大矢半次郎君
大藏書記官	田中 豊君
大藏書記官	山田 義見君
大藏書記官	池田 勇人君
大藏書記官	秋元 順朝君
物價局次長	新倉 利廣君
營繕管財局理事	松隈 秀雄君
商工書記官	山本 茂君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ	
外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)	
相續稅法中改正法律案(政府提出)	
建築稅法案(政府提出)	
配當利子特別稅法案(政府提出)	
鑄區稅法案(政府提出)	
酒稅法案(政府提出)	
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)	
營業稅法案(政府提出)	
地租法中改正法律案(政府提出)	
物品稅法案(政府提出)	
遊興飲食稅法案(政府提出)	

取引所稅法中改正法律案(政府提出)	印紙稅法中改正法律案(政府提出)
入場稅法案(政府提出)	骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
狩獵法中改正法律案(政府提出)	明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)
狩獵法中改正法律案(政府提出)	定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)	スル件)(政府提出)
支那事變特別稅法及臨時租稅增徵法廢止法律案(政府提出)	大正九年法律第五十一號中改正法律案(政府提出)
營業収益稅法廢止法律案(政府提出)	法人資本稅法廢止法律案(政府提出)
資本利子稅法廢止法律案(政府提出)	臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)
地方稅法案(政府提出)	地方分與稅法案(政府提出)
市制中改正法律案(政府提出)	市制中改正法律案(政府提出)
町村制中改正法律案(政府提出)	北海道會法中改正法律案(政府提出)
北海道地方費法中改正法律案(政府提出)	地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)
家屋稅法案(政府提出)	出
所得稅法人稅内外地關涉法案(政府提出)	
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)	
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)	
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)	
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)	
物品稅法案(政府提出)	
遊興飲食稅法案(政府提出)	

國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)(政府提出)	アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)
○道家委員 商工大臣ニ御尋ヲ致シマス、	○道家委員 商工大臣ニ御尋ヲ致シマス、
増稅ト最モ關係ノ重大ナ物價政策ニ付テ御尋ヲ致シマス、増稅ニ當ツテハ物價政策ヲ先ヅ第一ニ考慮シナケレバナラナイト思フ	増稅ト最モ關係ノ重大ナ物價政策ニ付テ御尋ヲ致シマス、増稅ニ當ツテハ物價政策ヲ先ヅ第一ニ考慮シナケレバナラナイト思フ
ノデアリマスガドウモ私色々ノ機會ニ承ル御説明、或ハ新聞紙等ヲ通ジテ拜見シマスト、政府ニハ其ノ十分ナ對策ガナイヤウニ思ハレル、サウシテ又增稅ノ結果ガ如何ニナリ、其ノ增稅ハ誰が負擔スルカ、消費者ガ負擔スルトシテモ、何等ノ方針ガナク、唯收入ノ增加ヲ圖ルノミト云フ工合ニ見エルノデアリマス、私ガ申上ゲルマデモナク、唯今日ノ增稅政策ハ最モ物價ニ重大ナ關係ヲ持ツコトハ言フマデモナク、サウシテ今日我國ガ戰爭ヲスル場合、是ハ好ムト好マザルニ拘ラズ、增稅デ行カナケレバナラヌ、又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノ	ノデアリマスガドウモ私色々ノ機會ニ承ル御説明、或ハ新聞紙等ヲ通ジテ拜見シマスト、政府ニハ其ノ十分ナ對策ガナイヤウニ思ハレル、サウシテ又增稅ノ結果ガ如何ニナリ、其ノ增稅ハ誰が負擔スルカ、消費者ガ負擔スルトシテモ、何等ノ方針ガナク、唯收入ノ增加ヲ圖ルノミト云フ工合ニ見エルノデアリマス、私ガ申上ゲルマデモナク、唯今日ノ增稅政策ハ最モ物價ニ重大ナ關係ヲ持ツコトハ言フマデモナク、サウシテ今日我國ガ戰爭ヲスル場合、是ハ好ムト好マザルニ拘ラズ、增稅デ行カナケレバナラヌ、又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノ
又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ
物價ト稅ニ付テ相談ガ纏マツテ居ラナイヤウニ見エルコトハ甚ダ遺憾デアリマス、此ノ點ニ付テ十分ナ御打合、十分ナ御相談ガ	物價ト稅ニ付テ相談ガ纏マツテ居ラナイヤウニ見エルコトハ甚ダ遺憾デアリマス、此ノ點ニ付テ十分ナ御打合、十分ナ御相談ガ
○藤原國務大臣 道家君ノ御尋ハ御尤ト存アツタノデアリマセウカ	○藤原國務大臣 道家君ノ御尋ハ御尤ト存アツタノデアリマセウカ
ジマスガ、政府ガ度々申上ゲル通りニ、此ノ時局ヲ乘切ル爲ニハ、有ユル手段ヲ盡シ	ジマスガ、政府ガ度々申上ゲル通りニ、此ノ時局ヲ乘切ル爲ニハ、有ユル手段ヲ盡シ

テ諸機關ヲ總動員シテ、ソシテ國民ノ協力ヲ得テ低物價政策デ之ヲ乘切リタイト云フ	コトハ、度々申上ゲマシタカラ御了解下ス
免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)	ツテ居ルコトト存ジマス、今回ノ增稅ニ際
租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)	シマシテ本來ノ理想カラ申シマシタナラバ、
○堀切委員長 是ヨリ開會致シマス、昨日ニ引續キ道家君	スコトモ已ムヲ得ナイ、是ハ普通ノ道理カ
○道家委員 商工大臣ニ御尋ヲ致シマス、政府ニ申ストサウ考ヘルノデアリマス、政府ニ	ラ申ストサウ考ヘルノデアリマス、政府ニ
増稅ト最モ關係ノ重大ナ物價政策ニ付テ御尋ヲ致シマス、増稅ニ當ツテハ物價政策ヲ先ヅ第一ニ考慮シナケレバナラナイト思フ	於テモサウ云フ風ニ考ヘマスガ、併シ今日ノ經濟政策ニ於テ、ソコニ難カシイ問題ヲ
ノデアリマスガドウモ私色々ノ機會ニ承ル御説明、或ハ新聞紙等ヲ通ジテ拜見シマスト、政府ニハ其ノ十分ナ對策ガナイヤウニ思ハレル、サウシテ又增稅ノ結果ガ如何ニナリ、其ノ增稅ハ誰が負擔スルカ、消費者ガ負擔スルトシテモ、何等ノ方針ガナク、唯今日ノ增稅政策ハ最モ物價ニ重大ナ關係ヲ持ツコトハ言フマデモナク、サウシテ今日我國ガ戰爭ヲスル場合、是ハ好ムト好マザルニ拘ラズ、增稅デ行カナケレバナラヌ、又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	窟ハソコニアリマスルケレドモ、政府トシテハ其ノ增稅ヲ消費者ニ負擔セシメナイ
又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	テ、其ノ增稅ノ全部又ハ一部分ヲ生產者ガ負擔シタリ、或ハ中間業者ガ負擔シタリシテ、物價ノ騰貴ヲ抑制スルコトガ出來ル場合ニ於テハ、出來ルダケサウ云フ手段方法モ
又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	ト申シマスルノハ、極ク率直ニ申シマスレバ、今日マデノ間ニ大資本トカ大工業者ナドノ生産者ニ於キマシテハ、相當ノ利益ヲ得テ、相當ニ內容ノ宜シイ生産者モ相當アリノデアリマス、其ノ事業別ニ依リマシテ、
又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	リマスルシ、サウ云フヤウナ者ニ對シマシテハコトヨリハ、刻下ノ此ノ時局デアリマス
又今回ノ戰爭ガナニシテモ、今日日本ノヤウナ物資ノ狀況ニ於テハ、ドウシテモ統制經濟ガ必要デアル、先ヅ第一ニ是等ノコトヲ考ヘナクテハナラナイノニ、ドウモダ	テ、消費者ノ負擔ヲ全額消費者ニ負擔セシメルト云フコトヨリハ、ヤウナ手段ヲ執ルコトモ、此ノ時勢ニ於

全額消費者ノ負擔ト致シマスト云フコトヲ申
上ゲ兼ネルノハ其ノ點デアリマス、ソコデ
今大藏省ト商工省トノ間ニ議論ガ違フトカ、
打合セガ不十分ダト云フ譯デハナイノデア
リマシテ、原則ニ於テハサウデアルケレド
モ、立場上今日ノ時局ヲ乘切ル上ニ於テハ、
ソンナ手段モ執ラザルヲ得ヌト云フヤウナ
内情ニアルト云フコトヲ、ドウゾ御承知ヲ
願ヒタイト存ジマス

ハ言明モサレテ居ル、又商工大臣ハ只今モ
仰シヤツテ居リマスケレドモ、其ノ仰シヤ
ルコトガドウモ徹底シテ居ラヌヤウデス、
ソレハ結局根本的ニ決ツテ居ラナイカラデ
ハナイカ、昨日モ私ハ大藏大臣ニ申上ゲタ
ノデスガ、今日ノヤウナ非常時局國家ヲ背
負ツテ乘切ルニハ、自ラノ政策ヲ豫メ持ツ
テ計畫的ニ行カナケレバ、其ノ日暮シデハ
到底行ケヌ、ソンナコトデハ國民ガ迷ツテ
シマヒマス、此ノ際御研究中ナドト仰シヤ
ルコトハ甚ダ遺憾ニ堪ヘマセヌ、モウ決定
サレテ居ラナケレバナラヌノデスガ、成ベ
ク早イ機會ニ於テ、如何ナル物ハ生産者ガ
負擔スルモノデアルト云フコトヲ、ハツキ
リ示シテ戴キタイ、若シ今分ツテ居レバ二
三デモ示シテ戴イタ方ガ宜イノデハナイカ、
國民ヲシテ其ノ行ク所、其ノ負フ所ヲ自覺
セシムル必要ガアルト思ヒマスガ、只今御
考ニナツテ居ル品物ニ付テ、既ニ御決マリ
ノ物ガアリマシタ御明示ヲ願ヒタイ
○麿原國務大臣 道家君ノ御尋ハ御尤モト
存ジマスガ、政府ニ於テハ、増稅ト同時ニ
肚積リハ致シテ居リマスシ、ソレカラ度々
申上ゲル通リニ、公定價格ノ變更ヲ急イデ
致シマシテ、サウシテ適正價格ノ決定ヲ成
ベク早クシテ、敏速ニ斯ウ云フコトヲ扱ヒ
タイト云フコトヲ度々申上ゲテ居リマスガ、
其ノ場合ニ於キマシテ一ツ宛端カラ片付ケ
テ行ク、此ノ商品ノ適正價格ヲ決メル時ニ
スルトカ、三分ノ一ニスルトカ、或ハ是ハ
生産者ニ全部負擔サセルトカ云フヤウナ工
合ニ、商品ノ個々別々ノ物ニ對シテ、皆一

ツ宛決定シテ參リタイト云フノデアリマシ
テ、政策トシテハ決定シテ居ルト申上ゲテ
差支ナイデスケレドモ、ソレヲ實行スル場
合ニ於テ一々ヤルノデ、此處デ全般的ニ、
此ノ物ニ付テハ消費稅ヲ全額負擔セシメナイト云
ヲハツキリ申上ゲルコトノ出來ナイコトハ
遺憾ニ思ヒマスガ、一ツ～ノ商品ニ付テ、
一ツ宛決定致シマシテ、先ヅ肚積リヲ申シ
マスレバ、三月中ニハ大抵政府ノ方ニ於キ
マシテハ是ハ決定シタイト云フ積リデ、其
ノ調査ハ急イデ進行致シテ居リマス、左様
御承知ヲ願ヒマズ
○道家委員 三月中ニ大體御決定ノ見込デ
アルト云フコトデ、満足ハ出來マセヌケレ
ドモ、御決定ニナツテ居ナケレバ已ムヲ得
ナイト思ヒマス、併シナガラ政府ハ低物價
ト仰シヤルケレドモ、事實上ニ於テ或ル物
ハ増稅ダケ價格ガ上ル、サウナルト低物價政
策ハ崩レシマフノデアル、サウ云フ詳細ナ
決定ノナイ前ニ、商工大臣ガ度々物價ハ引上
ゲルノダトスウハ仰シヤツテ居ルコトハ財界ニ
重大ナ影響及ボスモブデヘナカト思ヒマス、
既ニモウ大體斯ウ云フ物ダケハ上ゲル、斯ウ
云フ物ハ抑ヘテ行ク、斯ウハツキリシテ居
レバ闇取引ハ行ハレマセヌケレドモ、大體
低物價政策ハ堅持スルト仰シヤリナガラ、
或ル物ハ上ル、即チ高物價ニナルト云フヤ
ウニ第三者カラ取ラレルト、モウ上ルコト
ガ分ツテ居レバ誰ダツテ出シマセヌカラ、
影響ガアルノデ、甚ダ面白クナイト私ハ思
テ、差カナイト、適正物價ダ、低物價ダト仰

シヤルダケデハ困ルノデス、ソコデ伺ヒタ
イノハ、低物價トハ一體何ヲ仰シヤルノカ、ソレ
ガ分ラナイト適正物價ハ高物價デアルト
云フ風ニ吾々ハ解釋スル、又一般モサウ云
フ風ニ見テ居ルヤウデアリマスガ、低物價
トハ何ヲ仰シヤルノデアリマスカ
○藤原國麿大臣 九月十八日ヲ以て物價ノ
値段ヲ抑ヘマシテ、所謂九月十八日デ値段
ヲ釘付ニシテ、是以ニ値段ノ騰貴ヲ防グ
ト云フ積リデ、低物價政策ヲ堅持シテ參リ
マシタノハ、御承知ノ通リデアリマス、所
デ此ノ九月十八日ニ物價ヲ釘付ニ致シマシ
タノハ、其ノ時ノ當局ノ趣旨ニ於キマシテ
モ、此ノ九月十八日ノ値段ヲ以テ永久ニ變
更シナシイデ、此ノ儘押シテ行カウト云フコ
トノ不可能デアルト云フコトハ、其ノ時カ
ラ分ツテ居ツタノデアリマス、先づ以テ物
價ノ暴騰スルト云フ惧ガアツテ、此ノ時局
ヲ乘切ルノニ、若シ物價ノ暴騰スルヤウナ
氣配ヲ示シマシタナラバ、國家トシテ非常
ナ重大ナ問題ニ相成リマスカラ、兎モ角取
敢ズ九月十八日ヲ以テ物價ノ暴騰ヲ防グ爲
ニ、停止令ト云フモノヲ發布致シタノデ
アリマス、之ヲ發布シテ置イテ、サウシテ
徐々ト適正ノ物價ヲ作ツテ、物價ヲ是正シ
テ行キタイト云フノガ、其ノ物價委員會ノ
根本ノ方針デアツテ、前内閣以來ノ方針デ
アルノデアリマス、デアリマスカラ、釘付
ニ一旦ハナツテ居ルケレドモ、此ノ儘ニシ
テ行クト、段々ニ市場カラ商品ト云フモノ
ハ無クナツテ、闇相場ノミニナツテシマフ
ト云フヤウナ惧モアリマスルカラ、ヤハリ
適正ノ物價ト云フモノヲ作ツテ、サウシテ
之ヲ是正シテ行カナケレバナラナイト云フ、

前天閣以來ノ方針ヲ襲踏シテ、出來ルダケ
早ク適正ノ物價ト云フモノヲ作ツテ、上ル
ベキモノハ上ゲ、下ルベキモノハ下ゲルト
云フコトニシテ、之ヲ是正シテ參リマスル
ケレドモ、併シナガラ適正物價ヲ作ツテ是
正スルト云フコトハ、必ズシモ物價ヲ騰貴
セシヌル、低物價政策ヲ放棄スルト云フ風
ニハ、政府ハ考ヘテ居ラナイ、ドウシテモ低物
價政策ハ飽クマデ低物價政策デ參リタイ、
ケレドモ一面増産シナケレバナラナイヤ
ニハ、政府ハ考ヘテ居ラナイ、ドウシテモ低物
價政策ハ飽クマデ低物價政策デ參リタイ、
シタリ、生産費ノ合理化ヲシタリ、消費ノ
抑制ヲシタリ、色々ナ手段方法ヲ盡シテモ、
其ノ他ノ力ヲ以テシテハ、ドウシテモ抑ヘ
ルコトノ出來ナイモノ、即チ配給ノ改善ヲ
シタリ、生産費ノ合理化ヲシタリ、消費ノ
抑制ヲシタリ、色々ナ手段方法ヲ盡シテモ、
モ亦已ムヲ得ナイ、サウ云フコトヲ加味シ
ナイデ、唯低物價ノミヂ之ヲ乘切ルト云フ
コトハ、實際言葉デ言フコトハ出來テモ、實
行ニ於テハ是ハ甚ダ困難ナコトデアルカラ、
低物價政策ヲサウ云フ方針ヲ以テ、何處マ
デモ堅持シテ行キタイト云フコトヲ、度々
申上ゲテ居ルノデアリマスガ、ドウゾ左様
御承知ヲ願ヒタイト存ジマス

ニナルノデアリマシテ、要スルニ其ノ時ノ適正價格ニナルノデアリマセウ、其ノ適正價格ハ、労働賃銀初メ材料其ノ他ノ價格構成要素ノ上騰若クハ下向ノ適應スル所ノ價格、斯ウ云フ意味ニナルト思フノデアリマスガ、サウナルト政府ハ漸次物價ヲ上げテ行クコトニナリマス、即チ「インフレ」時代ニ於テハ、ドウシテモ需要ガ増シテ行キマスカラ、自由經濟ノ建前テ行クナラバ、ドウシタツルト此ノ次ニモ亦上ツテ行ク、サウスルト其ノ時ニ適應スル所ノ物價ヲ定メルコトニナルノデアツテ、結局低物價ト云フモノハ捨テナケレバナラナイコトニナルト思ヒマスガ、左様ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ、即チ漸次物價ハ時ニ應ジテ上げテ行ク、ソレガ即チ適正物價ダ、斯ウ云フコトニナリマス、盛ニサウスルト國民ハ是カラマダ物價ハ上ツテ行クモノダト云フ認識ノ下ニ、色々ナ經濟活動ヲ致シマスカラ、茲ニ闇取引モ益、盛ニナルノデハナイカト私ハ思フノデアリマスナラバ、消費稅ヲ全部消費者ニ負擔セシヌルト云フコトモ亦已ムヲ得ナイト云フコトヲ申上ゲテ、ハツキリトサウ云フ説明ヲ申上ラバ、消費稅ヲ全部消費者ニ負擔セシヌルト云フコトモ亦已ムヲ得ナイト云フコトヲテ行カウト云フヤウナ方針デアリマスルナラバ、上ツテモ仕方ガナイデヤナイカ、斯様ニシテ漸次其ノ時ニ^ノ應ジテ物價ヲ上げ場合ニ於テ適正價格ヲ設ケル時ニ當ツテ消費稅ニ付テモ、御尋ニ對シテ御答致シマシタ通リニ、若シモ政府が時局下ノ今日ノ○藤原國務大臣 政府ハ只今ノ御質問トハ全然考ヲ異ニ致シテ居リマス、ソレハ只今物ノ値段ガ上ルベキ時ニハ上ルノデアルカラバ、上ツテモ仕方ガナイデヤナイカ、斯様ニシテ漸次其ノ時ニ^ノ應ジテ物價ヲ上げ

ノハ、ドウシテモ有ユル困難ヲ凌イデモ、
維持シタイト云フ方針デゴザイマスルカラ、
生産者ニ負擔セシメ、若クハ配給業者ニ負
擔セシメ得ルヤウナモノデアルナラバ、低
物價政策ノ方針ノ下ニ、生産者ニハ出來ル
ダケ負擔セシメナイ、斯ウ云フ考デスカラ、
サウ云フ風ナ方法ヲ講ジテ、全體ニ於テ此
ノ物價騰貴ノ傾向ニ進ンテ行クモノデアツ
テモ、出來ルダケノ力ヲ以テソレヲ停止シ、
防イデ行キタイ、何處マデモ此ノ物價騰貴
ヲ防グコトヲ以テ政府ノ方針トシタイ、斯
ウ云フ方針ハ何處マデモ持ツテ參リマスケ
レドモ、又一面ニ於テ其ノ低物價ニノミ先
走ツテ、何デモ彼デモ九・一八ノ「ストップ」
令ヲ是正シテ行カナイデ、此ノ儘押シテ行ク
ト云フコトニナリマスルト、商品ガ市場カ
ラ無クナツテ、サウシテ闇相場ガ行ハレテ、
益、國民ノ生活ニ不安ヲ與ヘルト云フヤウナ
コトニ相成リマスルカラ、其處ニ若干ノ手
心ヲ加ヘテ、適正價格ヲ設ケテ、生産者モ
赤字デ非常ニ困難スルト云フコトノナイヤウ
ニ、サウシテ一面ニ於テ増產モ獎勵シテ行
キタイト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマ
シテ、決シテ政府ハ低物價政策ヲ拋棄シテ、
其ノ時代々々ニ於テ物價ガ上ルナラバ、ソ
レデ仕方ガナイヂヤナイカト云フヤウナ、
サウ云フ趣旨ヲ持ツテ居ルノデハナイト云
フコトヲ、是ハ改ヌテ又申上ゲテ置キマス
○道家委員 政府ハ種々ノ事情ニ依ツテ總
デノ物價ガ上ツテ行クトシテモ、ソレニ應
ジテ上ゲテ行クノゾハナイ、斯ウ云フ御話
ナンデスケレドモ、結果トシテハサウナル
ノデハナナイデセウカ、今ノヤウナ御説デハ
ドウシテモ理論上合ハナイヤウデス、九・一

八ノ物價ヲ決メタ時ハ勞働賃銀モ、又諸材
料モ、價格構成要素ト云フモノハ其ノ物價
ニ適當ナルモノデアツタ、然ルニモ拘ラズ
臣ガ屢々仰シヤツタコトナノデス、已ムヲ得
ズ、即チ政府ノ低物價ト云フモノハ、ドウモ
シテモ堅持出來ナクナツタ、自然ニ上ガザ
ルヲ得ナクナツタノデス、勞働賃銀ヲ御抑
ヘニナツタ所デ、家族手當トカ、或ハ其ノ
他色々ノ形デ結局上ガザルヲ得ナクナツテ
來タ、隨ツテ物價モ上ガザルヲ得ナイ、現
ニ九・一八ノ時ハソレデ宜カツタ、ケレドモ
今日ハ生産ガ不足スルヤウニナツテ、遂ニ
低物價ハ崩レテ來ル、是ハ根本ニ於テ理論
的ナ矛盾ガアルカラデハアリマセヌカ、今
マデ政府ガ左様ナ態度デ低物價政策ヲ御執
リニナツタカラ、今日ノヤウニ物價ヲ修正
シナケレバナラナイコトガ起ルノデス、ソ
コニ低物價ト適正物價ト云フ問題モ起ル、
適正物價ト低物價ト云フコトハ全ク違フコ
トデ、九・一八デ抑ヘルノガ低物價デス、適正
シナケレバ將來段々上ツテ行ク、豫算が膨脹
シ、年ヲ重ネルニ從ヒ「インフレ」景氣ガ一
ソレハ、一ツノ凹凸景氣デハアリマスガ、購
買力ヲソソル、購買力ヲソソレバ物資ガ上
ルノハ當リ前デス、ドウモ今仰シヤルコト
ハ如何カト思ヒマス、併シ之ヲ今此處デ議
論シテモノ仕様ガアリマセヌ、私ノ御尋ハ此
アルノデス、第一ニ九・一八ヲ決メル時ノ
決メ方、其ノ九・一八デ抑ヘル、低物價デ
決メタ時ノ標準ガ間違ツテ居ツタ、又決メ
策ガ全ク間違ツテ居タ、ソコニ「スタート」ガ
テカラ後ノ政策ト云フモノガ間違ツテ居ツ

タ、其ノ爲ニ今日ノコトガ起ソテ來タ、今更商工大臣ヲ責メテモ仕方ガナイノデス、併シ商工大臣モ物價委員デアラレルガ、アノ物價委員會ガナツテ居ラナイ、アンナ會工大臣ガ機構ヲ改造ナサラウト仰シャツテ居ラレルノハ御尤モデス、委員會ハ金融資本家ガ其ノ牛耳ヲ執ツテ、二三ノ者ガ「スタッフ」ニナツテ立テタ立案ニ依リ、是ハドウデスカト相談スル、サウスルト其ノ委員ハ大部分、實際家ノ資本家デアルカラ、物價ヤ經濟ノコトハ全部知ツテ居ラレルト思ハレマスガ、資本家デモ經濟ノコトヤ物價ノコトニ付テ非常ニ詳シトイハ、私ハ失禮ダガ申上ガラレナイ、ソレ等ノ無責任ナ忙シイ人達ガ寄ツテ、ドウダ、是デ宜カラウト言フノデス、ソシテ出席スル委員ハ終ヒニハ半分モナイ、愚圖々言ヘバ責任ヲ持タナケレバナラナイノデ、大體ノ所デジマセル、ソレヲ以テ低物價ダト言ツテ國民ニ強要ナサル、ソレニ反スル者ハ皆引張ラレル、全國デ何千人、何万人ガブチ込マレテ居ルノデス、斯ウ云フ委員會ナドハ根本的ニ立テ直ホサナケレバナリマセヌ、實ハ中央ノ金融ノ「オーソリチー」ダト云フ人ガ牛耳ヲ執ツテ居ルノデス、日本ハ金融財閥ニ依ツテ政治マデ支配サレ、内閣ノ組織マデ支配サレテ居ルノデス、產業資本家ヲ抑ヘ付ケテ、ソレガ物價マデモ決メテ居ル、又委員ノ構成分子ヲ見ルト、國民ノ多數ノ代表者ヲ出シテ居ル所ノ大政黨ガ入ツテ居リマス、責任ヲ負フベキデアリナガラ、政策ハナイカ、官僚デモ惡イ所ガアリ、軍部デ

モ惡イ所ガアレバ、惡イコトハ惡イ、善イ
コトハ善イト言フベキデアル、皆責任ガア
ルノデス、物價ヲ決メルニ際シ統制經濟ト
自由經濟ノ根本的區別ヲ十分ニ意識シナ
イ、ソレデ自由經濟ヲ半分、統制經濟ヲ半
分取リ入レテ居ル、ソレデ物價ガ抑ヘラレ
タラ不思議デス、コンナコトヲヤツテ居ラ
レレバ物價ガ上ツテ來ルノハ當リ前デス、
私ハ保證シテ置キマス、コンナコトデハ到
底國民ノ生活ヲ安定スルコトハ出來ナイコ
トヲ、ソコデ私ハ商工大臣ニ御尋スルノデ
スガ、現在ノ儘ノ人デ委員會ノ機構ヲ改造
ナサラウトスルコトハ考ヘ物デス、商工大
臣ノ率直ナル御言明ニ對シ、其ノ御誠意ニ
對シテ最高ノ敬意ヲ表スルモノデスガ、產業
方面ノ人ニモウ少シ重點ヲ置イテ戴キタ
イ、モウ少シ總テノ方面カラ私ハ參加シテ
貴ヒタイト思フ、物價委員ニエライ名前バ
カリ竝ベテ居ルガ名前デヘ何モ出來マセヌ、
議會カラモ全會派ノ代表ヲ入レラルナラ
バ宜イガ、或ル一部ノモノガ出ルノデハ何
モ出來ルモノデハナイ、ソレデ今日ノ政治
ニ對シ國民ガ満足シテ居リマスカ、國民ノ
不平ガ鬱積スル理由ハソコニアル、一部ノ
大キナ政黨カラノミ一人ヤ二人出シテ何ニ
ナリマス、ソレナラバ、ソレガ責任ヲ持ツ
カト云ヘバ、責任ハ持タナイ、全ク成ツテ
居ラナイノデス、ソコデ次ニ御尋シタイノ
ハ、生産擴充ヲ圖ル爲ニ物價ノ引上げ、即チ
適正價格ヲ御決メニナルサウデスガ、其ノ
適正價格ヲ以テ生産擴充ガ出來ルト思ハレ
マスカ

マルスルカラ、元々生産擴充ト低物價政策ハ、
カウト云フ所ニ、苦心ガアルト云フコトヲ
度々申シテ居ルノデアリマシテ、道家君ノ
只今ノ御説ハヤハリソコニ歸著スルノデア
リマシテ、一方ニ於テハ低物價デ行ツテ、
一方ニ於テハ生産擴充ヲシヨウト云フノデ
アリマスカラ、ソコニ非常ナ無理ガアル、
其ノ無理ヲウマク調和シ運用シテ、此ノ時局
ヲ凌イデ行キタイト云フ所ニ、當局トシテ非
常ナ苦心ヲ致シテ居リマスト云フコトダケ
ヲ、御諒察ヲ頂ヒタイト思ヒマズ
ソレカラ適正價格ヲ決定シテ、果シテ生
産擴充ノ目的ヲ達シ得ルカ、即チ増産ノ
目的ヲ達シ得ルカト云フ御尋ニ對シマンシ
テハ、適正價格ヲ設定スル時ニ當リマシ
テ、此ノ現狀ヲ眺メマシテ、此ノ適正價格デ
アルナラバ、凡ソ此ノ位ナ增産ハ可
能デアルト云フコトヲ目標ニシテ、適正
價格ヲ決定致シタイト存ジテ居リマス、
其ノ點ニ付テ一面ニ於テ御斷リヲ申上ゲ
テ置キタイノハ、今日ノ如ク兌換券モ增
發致シマシテ、公債モ澤山ニ募集スル、
サウ云フヤウナ情勢デ通貨ガ膨脹シテ、
國民ノ一部分ニハ非常ニ購買力モ旺盛ニ
ナツテ參ツテ居ルコトハ、御承知ノ通り
デアリマシテ、此ノ點ダケデモ物價ヲ引
上げル趨勢ニ向ツテ居ルト云フコトハ、能
ク政府ニ於テモ承知致シテ居リマスカラ、
一面ニ於テハ公債モ募集セザルヲ得ズ、又
兌換券ノ増發モ已ムヲ得ナイ趨勢デアリマ
スケレドモ、此ノ儘ニシテ置キマスト、只
今仰セノ通リニ「インフレ」ニナリマスカラ、
此ノ通貨ヲ引締メテ行ツテ、サウシテ
購買力ヲ抑制シタイ、或ハ此ノ増稅ノ如キ

モ、購買力ヲ收縮セシムル一ツノ手段ニモ
ナラウカト思ヒマスン、其ノ外ニ有ユル手
段ヲ以テ、購買力ヲ抑制スルト云フコトヲ
云フヤウナコトモ出來ルダケ抑制シテ參
努メマシテ、此ノ兌換券増發ニ因リ、或ハ
リタイ、サウシテ相俟ツテ低物價政策ヲ堅
持シテ參リタイト云フ所ニ、先づ非常ナ苦
ト云アルト云フコトモ、是ハ申上ゲナクテ
心ガアルト云フコトモ、是ハ申上ゲレドモ、繰返
モ能ク分ルコトデアリマスケレドモ、繰返
シテ申上ゲル次第デアリマス

○道家委員 御説明ハ能ク分リマシタガ、
私ハ斯ウ考ヘマス、今増産ヲスル爲ニ物價
ノ一部ヲ引上げ、修正サレテモ、ソレハ增
産ニナラナイト思ヒマス、今日生産ノ増進
ガ停頓シテ居ル理由ハ何處ニアルカト云フ
ト、低物價モ多少原因デアツタデセウガ、
低物價ガ原因デハナイ、低物價ヲ御定メニ
ナツテモ、實ハ闇取引デ破ラレテ居ツタノ
デアルカラ、低物價デ生産ヲシテ居ルノデ
ハナイ、ソコデ何ノ爲ニ生産ガ増加サレナ
イカト言ヘバ、ソレハ物資ト勞力ト生産ノ
器具機械其ノ他ノ配給ノ圓滿ヲ缺イテ居ル
ト云フコトト及ビ不足、斯ウ云フトコニ大キ
ナ原因ガアルノデアラウト思ヒマス、ソコ
デ價格ヲ御引上ニナツテモ現在ノ自由主義
ノ政府ノ方針ハ——是ハ此ノ政府バカリデ
ハナク、戦争ガ始ツテ以來ノ歴代ノ政府ノ
方針ガ、全ク國民ニ知レテ居ナイ、自由主義

經濟下ニ於テ統制經濟ヲ如何ニ指導シテ行
クカト云フコトガ、國民ニ分ラナイ、或ハ
又早晚元ノ自由主義經濟ニ戻ルノカモ知レ
ナイ、又此ノ戰爭ガ何時濟ムカ分ラナイ、來
算ヲ始メ總テノ見透シガ付イテ居ナイ、來
年再來年ノ大體ノ計畫見込ガ付イテ居ラ
ノイノデアリマス、事業家デアツタナラバ、來
年再來年ノコト位ハ、大體ノ計畫ハ立チ得
ルト思フ、然ルニ現在ノ政府ニハソレガ何
モナイ、一體國民ハ何ニ依ツテ宜イノカ、
殷賑產業デアル重工業デモ、徒弟ノ養成ス
ラ、永久的方針ヲ以テ幼年工ヨリ養成シテ
宜イカ、一時的ニ生産擴充ニ間ニ合フヤウ
ニ、女デモ使ツタラ宜イノカト迷ツテ居ル
ヤウナコトデス、コンナコトニ迷フ必要ハ
ナイノデスガ、日本ノ現狀デハ戰爭ガ續イ
テモ續カナクテモ、今日日本ノ工業カラ見
レバ、商工大臣モ御説明ノヤウニ、ドウシ
テモ生産擴充ハ續ケテ行カナケレバナラ
ヌ、隨ツテドウシテモ勞働訓練モ根本對策
ノ上ニシツカリト腰ヲ下シテ行カナケレバ
ナラヌニモ拘ラズ、ソレスラモノ分ラナイ狀
態ニアルカラ、況シテ他ノモノハ分リセ
ヌ、此ノ戰爭デモ濟ヌバ元ノヤウニナルダ
ラウト云フ考へ方ヲシテ居ルカラ、生産擴
充ナドニ入レツコハナイ、サウスレバドウ
スルカト云フト、皆自分ノ懷ロニ入レテシ
マフ、其ノ利益ニ戰時利得稅等ハ課カルニ
シテモ、兎モ角國家ノ豫算ニ依ツテ、殷賑
ヲ極メテ居ルノデ、マダ一餘裕ガアルノ
デハナイカト思ヒマス、資本家カラ言ヘバ
モウ餘裕ハナイノダ、百万圓ノ利得ニ付テ
二十何万圓シカ殘ラヌト云フヤウニ言ハレ
ルケレドモ、私ハマダアルト思ヒマス、先

シマヒマズカラ、價格ヲ引上げテモ到底生産増進ニハナラナイト思フ、唯價格ガ上ツテ行クバカリデ、又次ニ上ガレバ上ルモノデス、國際限ハナイト思ヒマス、サウ云フコトニ付テモ此處デ御意見ヲ承ラウトハ思ヒマセヌガ、根本方針ヲシツカリ立て、統制ナラ統制ノ續クコトヲハツキリ認識セシメ、誤解ノナイヤウニシテ、サウシテ政府ガ方針ヲ一ツ示シテ戴キタイト思ヒマス、完全ナ自由主義經濟時代デハ、價格ノ高低ト需要供給ノ關係デ以テ國民經濟作用ノ調節ガ行ハレテ居ツタノデス、ソヨデソレニ依ツテ自然ニ價格ガ上ツテ行ケバ増産サレテ行ク、此ノ狀況ヲ御考ニナツテ居ラツシヤツテ、價格ガ上ツタラ増産スルダラウ、併シソレハ完全ナ自由主義經濟ノ下ニ於ケル所ノ經濟ノ現象デアリマス、所ガ今日ノヤウナ統制ガ半ば行ハレテ居ル所ノ、即チ計畫經濟、管理經濟時代ニ於テハ、經濟ノ調節作用ハ價格カラモウ離レテシマツテ居マス、經濟ノ調節作用ハ何ニ依ツテ行ハレルカト言ヘバ、價格ニ依ツテ支配サレル時代デハナイニモ拘ラズ、價格ニ依ツテ生産ヲ引上げ、生産ヲ「コントロール」ナサラウト云フ御考、其ノ政策ガ既ニ前内閣、前々内閣カラ間違ツテ居ルノデハナイカ、要スルニ低物價政策ヲ支持ナサラウト思フナラバ、サウシテ生産擴充ヲナサラウト思フナラバ、生産擴充ハ物價ヲ引上げテモサウハ行ハレマセヌ、價格ヲ守ラウトスルナラバ他ニ方法ナケレバナラスト思フ、然ルニ政府ハ依然トシテ自由主義經濟時代ノ價格、構成ニ依

コトハ、政策上ノ矛盾デハナイカト思フ、ソレデハドウスルカト云ヘバ、私ハ商相ノ御考ヲ承リタイノデアリマスガ、今日國家管理ハ不完全ナガラ半バ行ハレテ居ル、此ノ點急ニハ行カヌト仰シヤルカモ知レマセヌガ、モウ少シ管理ヲ強化シテ行カナケレバ、到底物價政策ハ保タレヌモノデアルト思フノデアリマス、ソレニハ先づ從來ノ價格バカリニ偏重ナサレタ所ノ御考ヲ御捨テニナリ、生産ノ規制ト云フコトニ、全力ヲ御擧ゲニナルコトガ必要デアルガ、是ハ商工大臣モ御考ニナツテ居ルヤウニ思ヒマス、ソレカラ現在ハ消費ガ無統制デアル、ソレデスカラ價格ハ上ツテ來ル、此ノ消費ニ付テ思切ツタ大統制ヲナサラナケレバナラス、所ガ切符制度トカ何トカ言ツテ議論バカリシテ居ツテ實行ハセヌ、色々難カシイコトガアル、サウ簡単ニハ行カナイト仰シヤルカモ知レスガ、モウ戰爭ガ始ツテカラ四年モ經チマス、此ノコトガ初メカラ政府ニ分ツテ居ツタラ出來タト思フ、今言ツテモ仕方ガナイガ、考ヘテ居ラナカツタカラ出来ナイノデス、生活ノ基本調査ハ各國デモヤツテ居リ、英國ノ如キハ最近更ニ大大的ノ消費統制ニ乘出シテ、大統制ヲシヨウトシテ居ルコトガ、最近ノ「ロンドン・タイムス」ニ書イテアリマス、自由主義經濟萬能ノ英國ニ於テスラモ非常ナル決意ヲ示シテ居マス、又獨逸ノ如キハ何ヲヤルカ分リマセヌガ、今度更ニ大々的ノ經濟方針ヲ決定シタサウデアル、アノ經濟統制ノ上ニ更ニ何ニ書イテアルノデ何ダカ分ラヌガ、恐ラク相當思切ツタ消費其ノ他ノ規正デアラウト

思フ、斯様ニシテ戰時經濟ヲ保ツテ居ルガ、日本ハ經濟組織ニ於テ獨逸其ノ他ト違ヒマス、サウシテ戰爭ノ程度カラ言ツテモ違フカラ、ソシナニ無暗ニヤル必要ハナイガ、今ノヤウナエルフンノ狀態、錯覺ノ經濟狀態デ、左ノ方ヲ押ヘルベキヲ右ノ方ヲ押ヘテ、ソレデヤツテ行カウトシテモソレハ駄導割當ヲ徹底的ニオヤリニナル必要ガアルデハナイカ、サウシテ生産ノ規制ヲヤリ、消費ノ指導割當ヲ爲スト同時ニ、配給統制ニ付テ極力統制ヲ強化シテ戴キタイ、此ノ統制強化ハ避クベカラザルモノデス、若シ此ノ強化ヲ徹底スレバ物資ノ配給ハ圓滑ニ行クノダト云フコトヲ國民ニ徹底セシメテ戴キタイ、所ガ國民ハ之ニ付テ非常ニ間違ツタ考ヘ方ヲシテ居ル、一例ヲ申上ダレバ、此ノ強化ヲ徹底スレバ物資ノ配給ハ圓滑ニ行クノダト云フコトヲ國民ニ徹底セシメテバカリヤルカラ、吾々ニ「ガソリン」ガ來ナイノダ、打棄ツテ置イテ吳レレバ、ナインラナイデ宜イ、石油ガ一シカナイナラ一シカナイト云フコトヲ示シテ吳レレバ、戰爭中ダカラ吾々ハ満足スル、サウシテ自由ニシテ置イテ貰ヒタイ、サウ云フコトヲ云ツテ居マシタ、國民ハ不滿ヲ持ツテ居リマス、是ハ統制ニ對シテ國民ガ錯覺シテ居ルノデス、之ニ對シ私ハ言ツタ、若シ自由ニシテ置イタナラバドウ云フ結果ニナルカ、ソレデハ價格ガ上ツテ行クデハナイカ、君等金ヲ持ツテ居ナイ者ノ車ハ動キハセズモト言ツテ説明シタガ、サウ云フ點ニ付テモ商工大臣ハ、ドウシテモ配給統制其ノ他ヲモツト強化シテ行カナケレバナラヌト云フナラバ、其ノ方針ヲハツキリ示シテ戴キタイ、

又ソレヲ政策ノ上ニモ現ハシテ戴キタイ、
今日實例ハ他ニモ澤山アルガ、砂糖ニ一例
ヲ取ツテ申上ダレバ、商工省ハ從來ノ
機構ヲ尊重シテ貰ヒタイト云フコトヲ、
砂糖ノ業者ニ言ツテ居ラレバ、サウシテ
從來ノ機構トハ何ダト言ヘバ、會社カラ
貿易商、ソレカラ卸賣業、斯ウ云フヤウナ
機構ヲ言フ、此ノ機構ヲ崩サナイデヤツテ
吳レ、商工業組合ヲ設ケテ、ソレガ仕込ヲ
ヤルコトヲ認ヌナガラ、ソヲ止メテ吳レ、
サウナルトドウナルカ、結局小賣業者ニハ行
カナイ、サウシテ大キナ菓子屋トカ何カニ
行ツテシマフ、菓子屋ハ砂糖デ賣レバ損ヲ
スルケレドモ、菓子ニシテ賣レバ幾ラデモ
高ク賣レル、ダカラソチラヘ持ツテ行ツテ
シマフ、此ノ際國民ノ生活ヲ第一ニシタ、
基本トシタ配給統制ヲハツキリナサレバ、
ソレハサウハナラナイ、闇取引ハ澤山行ハ
レテ居ル、ソレハ何ダト言フト、此ノ頃ハ
公債ニ投資スルヨリモ、銀行ニ預ケルヨリ
モ、郵便貯金ニ依ルヨリモ、物ヲ買ツタ方
ガ宜イ、金カラ物へト云フノハサウ云フ風
ニ利用サレテ居ル、藥ナンカ澤山例ガアリ
マスガ、一々申上ダマセヌ、非常ニ澤山「ス
トック」ヲ持ツテ賣賣シテ居ル、其ノ配給ニ
付テハ國民ノ生活必需ト云フ目標ヲ等閑視
シテ一向配給ノ統制ヲ強化ナサラナイ、先
づ第一ニ國民ノ生活安定ト云フコトニ、配
給ノ基調ヲ置イテ配給統制ヲ強化シテ戴キ
タイモノデス、サウシテ一面ニ於テハ闇取
引ノ大キナモノガ皆逃レテシマフ、金融資
本家ノ資金調整ト云ツテモ、サウ云フ闇取
引ニ對スル所ノ資本ニ對シテハ、金融家ノ
壓迫ノ爲ニ其ノ取締ヲナサラヌ、サウシテ
大キナ闇取引ガ公然ト行ハレテ居ル、ソレ

ニ對シテ何等ノ方法ヲナサラヌ、サウシテ引張ラレル、餽餉ヲ十錢ノヲ十二錢ニ賣ツタカラト云ツテ引張ラレル、ソレガ、何干ノ國民ノ怨嗟ノ的ニナル、斯ウ云フヤウナ政策デハ逆モ駄目デス、要スルニ此ノ前モ商工大臣ガ言ハレタヤウニ消費統制ト云フコトニ全力ヲ置イテ、其ノ統制ヲ強化ナセレバ物價ハ維持出來ル、若シ之ヲ中途半端ナコトヲナサレバ、幾ラオヤリニナツテモ段々上ツテ行ク、低物價政策ハ維持出來ナイ、如何ニ御考ニナリマスカ

○藤原國務大臣 御説ニ對シマシテ御尤モナ例ガ非常ニ多イト存ジマス、ソレデ少シ長クナツテ御氣ノ毒ノヤウデアリマスガ、政府トシテモモウ少シ詳シク所信ヲ述べテ、御諒解ヲ得タイト存ジマス

先づ以テ九・一八ノ「ストップ」令ヲ出シテ以來今日ニ至リマシテ、生産費ヲ償ハナイヤウナ商品ガ大分アラウト存ジマス、ソレデアリマスカラ、其ノ生産ヲ増加スルト云フコトハ是非必要デアル、此ノ生産ヲ増加スル爲ニ適正價格ヲ設ケテ、サウシテ其ノ結果物價ガ上ツテ來ル、其ノ物價ガ上ツテ來ルノハ、唯資本家ノ利益ニナルノミデアツテ、決シテ增産ノ目的ニハナラナイデハナイカト云フ御趣意ハ、一應ハ御尤モデアリマスガ、今日ノ狀態ニ於キマシテハ、即チ商品ガ第一ニ資材ヲ得ルコトガ中々困難デアリマス、其ノ次ニハ勞力モ段々缺乏シテ居リマス、其ノ次ニハ燃料トカ動力トカ云フモノモ段々缺乏シテ參ツテ居リマシテ、サウ云フモノガ相絡ミ合ツテ、一面ニ於ケレドモ、資材、労力、燃料、動力等ヲ得

ソレデ國民ハ非常ナ不自由ヲシテ居ルト云フモノガ中々多イノデアリマス、之ヲ一々調べテ見ルト中々サウ云フモノモ多イバ直グニ増産ガ出來ルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデハナイノデゴザイマス、生産費ヲ償ハナイヤウナモノニ對シテ、サウシテ國民生活ニ必要ナモノハドウシテモ一面ニ於テハ資材、勞力、燃料、動力トカ云フモノノ供給ヲ圓滑ニシテヤルト同時ニ、ソレヲ供給シテヤツテモ、尙且ツ生産費ヲ償ハナイト云フ場合ニ、其ノ値段ヲ上げテ行カウト云フノガ苦心ノアル所デアリマス、サウ云フ譯デアリマスルカラ、此ノ適正價格ヲ設定シタ結果ハ、高物價ヲ次ニ認メタコトニナツテ、低物價政策ガ根本カラ覆へルト云フコトニハナラナイト存ジテ居リマス、又サウ云フコトガアツテハ相成リマセヌカラ、是ハ何處マデモサウ云フ方針ヲ以テヤツテ行キタイ、即チ言換ヘレバ道家君ノ只今御説明ニナリマシタ生産ノ規整ト云フモノガ、茲ニアルノデアリマシテ、其ノ點ニ於テハ道家君ノ御指摘ニナツタ御方針ト、政府ノ方針ガ略々一致シテ居ルト申シテ宜カラウト思ヒマス、サウ云フ風ニシテ生産ヲ規整シテ行キタイト云フノデアリマス。

テモシナケレバナラスト思ヒマス、今後ニ
於テ統制ガ強化セラレバセラレル程、サ
ウ云フ制度ヲ設ケテ消費ヲ規整スルコトハ
必要ト考へマスガ、今直チニ切符制度ヲ——
今日施行シテ居リマス所ノ切符制度ノ成績
ヲ振返ツテ見マスレバ、切符制度必ズシモ
良好ノ結果ヲ呈シテ居ルトハ思ツテ居リマ
セヌ、切符制度ヲ施行シテ却テ閻取引ガ自
由ニ行ハレタリ何カシテ、消費者ニ非常ニ
迷惑ヲ掛けテ居ルト云フヤウナ實例モ、往
往承知シテ居ルノデアリマシテ、ドウシテ
モ生産品ノ貯藏ヲ殖ヤシテ、生産ヲ多クシ
テ、サウシテ然ル後ニ切符制度ヲ施行スルト
云フコトデナイト、今日ノヤウニ生産ガ少
クテ、サウシテ供給ガ少イノニ切符制度ヲ
施行スルト云フヤウナ場合ニ於キマシテ
ハ、却テ切符制度ノ爲ニ惡イ結果ヲ來シテ
居ルト云フヤウナコトニ相成ツテ居ル實例
モアリマシテ、是ハ道家君モ能ク實情ヲ御
承知ノコト有存ジマス、ソレ故ニ切符制度
ト云フモノハ、將來ニ於テ施行シナケレバ
ナラヌ時ガ來ルデアラウト思ヒマスガ、ソ
レニ對シテハ切符制度ヲ施行シテ、是ガ圓
滿ニ行ハレテ、國民ヲシテ強制的ニ消費節
約ヲ實行セシタルコトガ出來ル確信ヲ持ツ
テ、始メテ切符制度ヲ施行スルト云フコトガ
宜イノデハナイカト思ツテ、實ハ其ノ切符
制度ニ付テハ今慎重ニ研究考慮シテ居ル次
第デアリマシテ、此ノ切符制度其ノモノニ
反対シテ居ル譯デハアリマセヌカラ、ソレ
モドウゾ御承知願ヒタイ

ヲ强行シ、一面ニ於テハ消費ノ節約ヲ强行シテ、サウシテ統制ヲ強化シテ參ルニハ、ドウシテモ此ノ配給機構ト云フモノハ強化シテ行カナケレバナラス必要ヲ認メテ居リマシテ、其ノ趣旨ニ於テハ只今ノ御説ノ通りデアリマシテ、著々ドシテ其ノ配給統制ノ改善ヲ圖リツツアルノデアリマスガ、ソレガ動モスレバ實情ニ即シナイヤウナモノガ出來マシテ、只今御指摘ニナリマシタヤウニ、政府ハ何ヲシテ居ルンダト云フヤウナ風ニ御考ニナルヤウナコトニ相成ツテ居ルモノモアリマスルコトハ、如何ニモ遺憾デハアリマスルガ、狃ヒ所ハドウシテモ此ノ配給統制ヲ強化シテ、サウシテ此ノ統制經濟ヲ圓満ニ遂行シテ參リタイト云フノガ政府ノ方針デアリマス、之ヲ要スルニ今自由經濟カラ統制化シテ居リマスルカラ、其ノ點ハドウゾ御諒察フ願ヒタイト存ジマス。

○堀切委員長 是ハ昨日大藏大臣ニモ一寸

御尋シタコトニ關聯シテ居ル問題ニナリマスガ、商工大臣ガ物價ヲ高クシマイトシテ極力御盡瘁ニナル、是ハ洵ニ吾々多ト致シマス、唯ドウモ是ハ商工大臣ガ何ボ努力ヲナサツテモ、詰リ商工大臣ノ力ノ及バザル所ニ大イナル原因ガアリハセヌカ、又商工省デ物價問題ハ自分ノ方デ解決シテヤルノダト云ツテ御取込ニナツテ何ボ努力ナサレテモ、外カラ大キナ騰貴ノ原因ガ來ルノデ原因ガアリハセヌカト思ハレマスガ、商工大臣ハ、イヤ自分が努力スレバ、商工省ダケデ立派ニ是ハヤツテ見セルト云フ御考ガハドウ云フモノカ、到底力ノ及バザル所ニアリマスカドウカ、之ヲ伺ヒマス

○藤原國務大臣 極ムテ適切ナ御尤モナ御申デアリマシテ、此ノ機會ニ私ノ所信ヲ申上ゲマシテ、御参考ニ供シテ御諒解ヲ得テシテキタ伊存ジマス、只今委員長ノ御尋ノ通リニ、是ハ主トシテ商工省ノ問題デアリヘシタモノヲ適當ニ處理シテ行ツテ、サウシテ之ヲ圓滿ニ遂行シテ行ク、サウシテ此ノ遷リ變リヲ上手ニヤツテ行クト云フコトガ、今日最モ必要ナ政策デハナイカ、斯ウ思ツテ居リマス、政策ノモノニ付テハ、政府ニ根本ノ方針ガナイトカ云フヤウナ御考ガ全部一致ノ歩調ヲ取ツテ行カナケレバナ

サウデハナクテ、ソレハアルノダケレドモ、實行スル時ニ當ツテ非常ニ混亂ヲ來シテ、旨ク實行ガ出來ナインダカラ、之ヲ旨ク實行シテ、サウシテ國民ノ苦痛ヲ出來ルダケ少クシテ行キタイト云フノガ、私ノ本當ノ精神デアリマシテ、本當ニサウ云フコトヲ自分ノ念願トシテ、瘦腕デ出來ルカ出来ナイカ知リマセヌケレドモ、出來ルダケノコトハ盡シテ此ノ時局ヲ乘切リタイ、斯ウ思ツテ居リマスルカラ、其ノ點ハドウゾ御諒察フ願ヒタイト存ジマス。

○堀切委員長 是ハ昨日大藏大臣ニモ一寸御尋シタコトニ關聯シテ居ル問題ニナリマスガ、商工大臣ハ之ヲ背負ツコトガ、第一先決ノ最モ必要ナ問題デアリマス、其ノ次ニハ商工省ガ其ノ當局トシテ、最モ渾身ノ努力ヲシナケレバナラスト思ヒマス、其ノ次ニハヤハリ國民ニ之ヲ理解シテ戴イテ、サウシテ國民ノ協力ヲ得ナケレバナラスト思ヒマス、サウシナケレバ政府ガ如何ニ鰐立チヲ致シマシテモ、國民ガ之ヲ了解シ、此ノ趣旨ヲ尊重シテ政府ヲ援ケル、此ノ時局ヲ乘切ル爲ニハ是ヨリ外ニ仕方ガナイ、斯ウ云フコトニナツテ協力シテ戴カナケレバナラスト思ヒマス、就キマシテハ之ヲドウ云フ風ニシタラ宜カラウカト云フノデ、政府ノ内部ニ於キマンテモ色々協議ヲ致シマシテ、遂ニ物價對策委員會ノヤウナモノヲ政府ノ内部ニ、内閣ノ下ニ設ケマシテ、根本的對策、即チ先刻モ申シマジタ通リニ、物價ト云フ一つノ各商品別ニ付テノ問題モ、相當ニ面倒ナ問題ガアリマスケレドモ、其ノ商品別ノヤウナ小サイ問題デナクシテ、モツト大キナ問題、一例ヲ申シマシタナラバ兌換券ヲ増發シテ購買力ヲ段々ニ誘ツテ行クト云フヤウナ、斯ウ云フ財政政策ト云フモノガ、物價ニ非常ニ影響ガアリマスルカラ、サウ云フ種類ノ根本問題ノ大問題ガ澤山アリマスルカラ、サウ云フ問題ヲ審議シテ決定スル爲ニ、物價對策委員會ト云フヤウナモノヲ設ケマシテ、ニ對シテ、國民ハ恐ラク御信賴申スデアラウト私ハ信ジマス、併シナガラ果シテ其ノ政策ノ結果ガ國民ガ満足シ、安心スルヤウナモノニナルカドウカト云フコトハ、多少ノ疑問ヲ持ツテ居リマス、併シ御努力ニナシテ居ルト云フコトハ、恐ラク國民モ認メルダラウ、唯ソコデ更ニ一言申上げタイコトハ、生産ガ增加シタラバ切符制度ヲヤツツモ宜イ、今ヤツテモ物ガナイノデアルカト、斯ウ仰ツシヤルノデスガ、是ハ生産ガ增加シテ來レバモウ切符制度ハ要ラナイノデス、所ガナイカラヤラナイト言フ、此ノ切符制度ニモ色々障碍モアルノダト云フコ

トモ、御説ノ通リデアリマス、現ニ「ガソリ
ン」ノ切符制度ナドハ、切符ガアツテモ現物
ガナイ、ソレヲ仰ツシヤルノデアラウト思
フ、併シナガラアレガ切符制度ガナカツタ
タラ、尙ホ混亂シテシマツダデアラウト思
フ、デスカラドウシテモサウ云フ切符制度
ヲ御考ニナツテ居ル時期デハナイ、世界ノ
政策カラ言ツテモ、獨逸ヤ英吉利ヲ眞似ス
ルノデハナイガ、兎ニ角經濟政策ニハ或ル
共通點ガアリマスカラヤハリ参考ニナル、
其ノ點カラ言ツテモモウ外ニ方法ハナイ、
切符制度ハ國民ノ消費ノ調査ニモナル、是
ガ實行サレテ、サウシテ品物ガ十分ニナイ
トスレバ、ドレダケナイカト云フコトガ目標デ
ツキリシテ來ル、サウシテ又取締ノ上ニ於
テモ、普通ノ自由主義經濟デ以テ今マデ育
トハ思ツテ居ラナイ、先程申上ゲタヤウニ
ツテ來タ商人達ハ營利ト云フコトガ目標デ
スカラ、闇取引ヲスルコトヲ別ニサウ罪惡
カラ商人達ハサウ惡イ事デハナイト思ツテ
時勢ガ動イタト云フコトヲ認識シテ居ラヌ、
政府モ亦ハツキリシタ方針ヲ示サナイ、ダ
カラ商人達ハサウ惡イ事デハナイト思ツテ
ヤツテ居ル、今ノ内ニ物ヲ買ツテ置クコト
ハ、投資フルト同ジコトデアルカラト云
フノデ、澤山買ツテ置ク、サウスルト隣リノ
者ガ來テ、君分ケテ吳レト言ツテイヤデモ
黙ツテ持ツテ行ツテシマフ、今ハ金カラ物
ノ時代デアル、サウシテ是ガ街カラ街ヘ傳ツ
テ行ク、サウ云フ觀念デ切符制度ヲヤラシテ
モ仕方ガナイ、是ハ切符ヲ賣買シテ居ルト云
フヤウナコトカラシテモ國民ノ考ヘ方ガ違
フ、國民ノ不正ニ對スル認識ガ達ツテ居リ
マス、今日最モ強調サレナケレバナラヌモ
ノハ時勢ヲ認識シテ、此ノ戰爭ノ目的ニ向
ツテ邁進スルコトガ何ヨリ必要デアル、ソ

トハ、成ベク抑ヘラレル所マデ抑ヘテ行カ
ナケレバナラヌ、其ノ方法ニ於テ、又其ノ
意味ニ於テ、ドウシテモ實施スルコトガ必
要デアル、物資ガナイカラ實施スル必要ガア
ル、サウシテ如何ニ消費ヲ統制スルニ付
テモ切符ヲ通ジテ見ナケレバナラヌ、切符
ヲ出シタカラ其ノ儘旨ク行クトハ私ハ信
ジナイ、又左様ナモノデハアリマセヌカラ、
一日モ早ク御實行願ヒタイ、而モ生活必需品
ニ對シテハ、大體必需的ノ最小限度ノ品ニ
對シテ先づ實行スル、サウシテ家庭ニ安心
ヲ與ヘテ戴キタイ、病人ヤ其ノ他ノ者ガア
ツテモ炭ガ焚ケナイト言ツテ苦勞ヲシテ居
ル、ソレニ對シテモ安心ヲ與ヘルヤウニシ
テ戴キタイ、要スルニ政府ハ統制ヲ強化シ
テ行カナケレバ、ドウシテモ此ノ經濟政策
ハ統制デナクテハイケナイングト云フコト
ヲハツキリ認識セシムナケレバナラヌ、サウ
シテ先づ第一ニ國民ノ生活安定上ノ必需品
ノ配給ヲ第一位ニ置クヤウナ方針デ行ク、
ソレデ足リナケレバ皆ガ消費節約ヲスルヨ
リ外ナイ、鬼ニ角切符制度ト云フモノハハ
ツキリシタ總テノ標準ヲ與ヘルモノデアリ
マスカラ、ソレヲ成ベク早ク斷行シテ戴キ
タイ、サウシテ統制ハ強化スルナラ、必需
品ヲ成ベク第一主義ニシテヤル、例ヘバ砂
糖ガ家庭ニ行カナイデ、大キナ菓子屋ニ行
ツテシマフト云フヤウナノハ本式デハナイ
ト思ヒマス

リモ、金カラ物ヘト云フヤウナコトデ大玉ノ闇取引ヲヤル者ニ對シテハ斷乎タル處置ヲ執ルノダト云フゴトヲ政府ガハツキリシテ戴キタイ、サウシテ町會トカ、市町村ヲ通ズルナリ、何等カノ方法ヲ以テ方針ノ徹底スルヤウニヤツテ戴キタイ、今日ハ「ラヂオ」ガ戰時「ラヂオ」ノ用ヲシテ居ラナイ、モツト戰時ニ於テハ活躍スペキモノガ、何ヲヤツテ居ルカト言ヘバ、下ラナイ事ニバカリ澤山時間ヲ使ツテ、肝腎ナ「ニユース」トカ何トカ云フコトニハ餘リ使ハナイ、宣傳機關、國民ニ知ラシムル機關ト云フモノハ活躍シテ居ラナイ、サウシテ情報部位ノモノデ糊塗シテ居ル、今日ハ宣傳省ヲ設ケテ居ル世人中デアリマス、獨逸ノ眞似ヲスル譯デハナイガ、宣傳省ト云フ名前ガ悪ケレバ名前ヲ變ヘレバ宜イ、要スルニ民衆ガ理解シナイ所ノ政治、經濟デハ、到底旨ク行クモノデハアリマセヌ、ダカラ此ノ點ニ於テ、機構ノ上ニ於テモ缺ケテ居ルノデアリマス、何等カノ方法ヲ以テ、此ノ闇ハ嚴罰主義ダト云フコトヲハツキリ仰シャレバ、仰シャルダケデ既ニ闇取引ノ可ナリノ部分ト云フモノハ阻止出來ルト思フ、而モ其ノ處置ニ付テハ同情ヲ以テヤルヤウナ方針ニ、内務當局ニモ御願シタインデアリマスガ、内務大臣ハ如何ニ御考ニナルカ、商工大臣ノ御答辯ニ續イテ御答願ヒタイト思ヒマス

ノ弊ガアリトスレバ、サウ云フコトヲ成タ
ケ少クスルヤウニ、是ハ渾身ノ努力ヲ盡シ
テ行クヨリ外仕方ガナイコトデアリマスル
カラ、商工大臣ト致シマシテハ部下ヲ能ク
督勵致シマシテ、總チ御指摘ニナリマシ
タヤウナ過チノナイヤウニ、其ノ過チヲ少
クスルヤウニ精々努力致シタイト存ジテ居
リマス、又此ノ切符制度ノコトニ付キマシ
テハ、御趣旨ハ如何ニモ御尤モデアリマシ
テ、其ノ通リデアリマスガ、今政府ノ一番
苦心致シテ居リマスノハ、切符制度ヲ施行
スル前ニハ商品ノ貯藏、餘裕ト云フモノガ
ナケレバイケナイノデアリマス、即チ例ヘ
バ「マッチ」ニ付テ一例ヲ申上ガマスレバ、
「マッチ」ノ如キハ切符制度ヲ施行スルノハ
一番簡単デ、一番好イ商品デハナイカト云
フ狙ヒヲ持ツテ居リマシテ、サウ云フコト
ヲ色々研究シテ居リマス、併シナガラ其ノ
「マッチ」ノ切符制度ヲ施行スルノニハ、「マッ
チ」ノ若干ノ貯藏ト云フモノガアツテ、
各小賣店ナラ小賣店、販賣店ナラ販賣店ニ
若干ノ貯藏ヲ先づ以テ給興シテ、ソレカラ
切符制度ヲ施行スルト云フコトニナルト、
是ハ圓滿ニ行ハレマスケレドモ、今ノヤウニ
手ニ入レルコトガ出來ナイト云フコトデ、
施行致シマシタナラバ、其ノ切符ヲ持ツテ
行ツテモ何處ノ「マッチ」屋デモ「マッチ」ヲ
手ニ入レルコトガ出來ナイト云フコトデ、
却テ國民ニ迷惑ヲ來シハシナイカト云フヤ
ウナコトヲ恐レテ、實ハ其ノ切符制度ヲ施
行スルコトヲ斷行致サナイノガ現狀デアリ
マス、サウ云フ譯テアリマスカラ、道家君
ノ只今御指摘ニナリマシタコトハ如何ニモ
御尤デアリマシテ、趣旨ニ於テハ其ノ積リ

第六類第一號 所得稅法改正法律案外三十件委員會議錄

第十四回 昭和十五年三月一日

○堀切委員長 道家君、總理ガ御見エニナ
ツテ居リマスガ、時間モアリマセヌカラ、
一ツ總理ニ對シテ始メテ戴キタイト思ヒマス
○道家委員 一寸内務大臣カラ取締ノ方針
ニ付テノ御答辯ヲ願ヒマス

○兒玉國務大臣 全然御同感ノ意ヲ表シマス

○道家委員 ソレデハ總理ニ御尋致シマス
ガ、總理ガ國民ヲ指導シテ行カレル上ニ於
テノ御決意ヲ承リタイト思フノデアリマス、
今回ノ稅制改革案ハ、是ハ未曾有ノ大増稅
ヲ伴ツテ居リマスガ、此ノ改革ハ從來ノ日
本ノ稅制ノ弊風デアツタ所ノ、上ニ輕ク下
ニ重イト云フ形ヲ稍、是正セントスル傾向
ハ現ハレテ居リマス、併シナガラ何ト言ツ
テモヤハリ大衆ニ重イ、サウシテ中小以下
ノ商業者ニ重課サレテ居ル、ソコデ大衆ノ
生活ノ上ニ重壓トナツテ來テ居ルノデアリ
マスガ、殊ニ之ニ對シテ重壓ヲ感ズル者ハ
「サラリー・マン」デアリマス、ソレカラ中少ノ
商工業者デアリマス、是等ガ如何ナル考ヲ
持ツテ居ルカト云フト、物資ガ少ナイト云フ
ヨリモ配給統制ガ宜シキヲ得ナイカラ、更
ニ不足ノ倍加サレタ壓迫ヲ感じジテ居リ、之
ニ對シテ不満ド不安ヲ持ツテ居ルト云フコ
トデアリマス、サウシテ閣取引ニ依ツテド
ンドン物價ハ上がりラレテ行ク、此ノ頃ノ所
謂中產階級ト云フ所ハ、殷賑産業ニ依ル成
金ト言ヒマセウカ、ソレデ稍ニ層ガ入レ代
ツテシマツタ、前ノ中產階級ハ消費節約ヲ
サセラレテ、サウシテ新シイ階級ガ出テ來
タ、汽車ニ御乗リニナツテモ、一等ニ乗ル
客カラ種ガ變ツテ來テ居ル、「デパート」デ

屋ニ來ル客モ、「ホテル」ニ來ル客モ、稍、客種ガ變ツテ來タ、映畫デモサウデス、左様ニ入レ代ツテ來タノデアリマスカラ、日本全體トシテハ同ジコトデアリマスケレドモ、前ノ階級ト云フモノハ殷賑産業ノ恩恵ヲ受ケテ居ナイ、サウシテ是等ハ知識階級デアル、是ガ苦痛ヲ忍ンデ居ルノデアリマス、此ノ事ハ申スマデモナイコトグラウト思ヒマス、私ハ此處ニ手紙ヲ持ツテ居リマスノデ、参考ニ一寸讀ンデ見マセウ、澤山ノ手紙ガ參リマシタガ、其ノ中デ署名ノナイモノハ問題ニナリマセヌガ、署名ノアルモノヲ讀ンデ見マス、一部ハ増稅ニ付テ斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマス、前ハ略シマスガ、「昨今議會デ御審議ノ大増稅案ハ、結局通過シテ吾々薄給生活者並ニ中小商工業者ノ生活ノ苦トナルモノトハ覺悟シテ居リマスルガ、國ヲ舉ゲテノ聖戰デアレバ如何ナルコトモ耐エ忍ブコトニ異議ハアリマセヌ、併シ物資ノ缺乏苦シテモ決シテ不満不平ハ申サナイケレドモ」ニ加フルニ重稅苦ヲ忍バザルヲ得ザル吾々は言ツテハイケナカモ知レマセヌガ、「サラリーマン」ノコトヲ御同情ニナツテ御審議ヲ願ヒタイ、吾々ハ如何ナル苦痛ニ對シテモ決シテ不満不平ハ申サナイケレドモ」是ハ言ツテハイケナカモ知レマセヌガ、「某氏ノ言フ所ヲ考フレバ一理ガアルト思ヒマス、今回ノ事變ハ吾々ニハ眞否ハ能クハ分ラナイケレドモ、何等得ル所ノナキ戰爭ニ、一家生活苦ノ重壓ニ悶ヘルモノトスレバ馬鹿氣タ話ダ」云々ト云フコトガ書イテアル、ソレカラモウツアリマス、是ハヤハリ増稅ニ付テデアリマス、是ハ名前ヲ申上ガカラ、恐ラクドナタデモ知ツテ居ラツシヤル方ノ關係者デスガ、ソレガ帝大内ニ於

ケル所ノ思想問題ヲ論ジテ居ル、是ハ長クナリマスカラ讀ミマセヌガ、斯ウ云フ講義戴イタカラ、一君萬民ノコトガ生ジタ、我デスガ、明治御一新ハ下級武士ト上級武士トノ争ニ過ギナイ、下級武士ガ偶、皇室ヲ想ガ大學ノ教授ニ持タレテ居リ、サウシテ自由主義ノ思想ガ公然ト論ゼラレテ居ル、國民ハ一體ドウシテ宜イカ分ラナイ、然ルニ政府ハハツキリシタモノヲ示サナイ、是ハ一二ノ例ニ過ギマセヌガ、私ノ所ニハ色々ナモノガ何十通ト來テ居リマズ、中ニハ無記名ノモノモアリマスガ、ソンナモノハ相手ニシナイトシテモ、斯様ナ状況デ、國民ハ迷ツテ居マス、増稅ハ已ムヲ得ナイト思ヒナガラ、裏デハ不平ヲ持ツテ居ル、ソコデ私ハ獨逸ノ敗戦ノ状況ヲ讀ミマスト、寶ニ恐ルベキ原因ガ其處ニアリマシタ、ソレハ何ダト云フト、獨逸ノ國民ハ勝利——日本デ言ヘバ戰爭ノ目的遂行ト云フコトニ、政府ガユルフンノ爲ニ、金力ガ注ガレテ居ラナカツタ、無主義、無定見、無政策ノ爲ニ、獨逸ノ國民ハ最後ノ勝利ノ目的ニ對シテ戰フト云フ意思ヲ失ツタ、是ハ「ルーデンドルフ」ガ言ツテ居ルノデアリマス、我ガ國民全體ニ行キ渡ツタ、サウシテ遂ニ獨逸政府ハ國民ニ勝利ノ將來ノ目標ヲ與ヘナカツタ、獨逸ノ議會ノ一部モ、國民モ、希望スル所ノ強力ナ指導者ヲ缺イテ居タ、殆

想的ナ顧落ノ道ヲ逃ツテ行ツタ、而モ戰爭ニ伴ツテ起ツテ來ル所ノ色々ナ不平不満、物資ノ缺乏等ハ勿論デアリマス、是等ニ對スル所ノ政策宜シキヲ得ナイデ、二年三年ヲ過ギテ行ツタ、多數ノ課題ニ對シテ何等ノ解決ヲ與ヘナカツタ、何等ノ國民ノ行クベキ道ヲ示サナカツタ、サウシテ獨逸ハ何ノ爲ニ戰爭ヲシテ居ルノダト云フコトヲ示サナカツタ、目標ハ最後ノ勝利以外ニハナイノダト云フコトヲ說カナカツタ、サウシテ遂ニ國民ヘドウ云フ考ヲ持ツタカト云フト、平和ヲ希望ズル、平和ヨリ外ハナイ、斯ウ云フコトニナツテシマヒ、又只管自己ノ利益ト安全ヲ希望スルヤウニナツタ、是ガ獨逸ノ食糧缺乏ト相俟ツテ、戰爭沒落ノ大キナツツノ原因デアリマス、而シテ革命ガ茲ニ起ツタ、吾々ハ斯ウシタ考ヘ方ガ日本ノ國民ニアルトハ思ヒマセヌ、併シナガラ吾吾ハ警戒シナケレバナラヌト思フ、政政トシテハシツカリシタ方針ヲ示シテ邁進シテ戴カナケレバナラヌ、唯稅ハ取レルノダカラ取ツテ置ケバ宜イノダ、斯ウ云フ考ヘ方ヲシテオ居デニナルト、中小商工業者、「サウラリーマン」ニ擴大サレタカラ、今マデハ所得稅其ノ他ノ納稅者ガ百八十何万人デアリマシタガ、ソレガ非常ニ増シマス、サウシテソレガ生活ノ重壓ニナル、之ヲ放任シテ置キマストエライ問題ニナフナイトモ言テハ、斷乎トシテ之ヲ排撃スル所ノ御決ト云フコトニ對シテ認識ガ足リナイ者トカ、不徹底ナ者、或ハ懷疑的思想ヲ抱ク者ニ對意ヲ以テ御進ミニナルコトガ、此ノ戰爭目テ達成スル爲メ、最モ必要ナコトグラウ

○米内國務大臣 只今ノ道家君カラ段々ノ御意見ヲ伺ヒマシタ、ドウ致シマシテモ今ノ非常時局ヲ乘リ切ツテ行ク上ニハ、先づ國論ヲ統一致シマシテ、國民ガ全體トナツテ此ノ事變目的ノ達成ニ努力ヲシナケレバナラスト云フコトハ、言フマデモナイコト考ヘルノデアリマス、只今ノ御話ニ依リマシテ、國民ノ中ニハ緊張ヲ缺イテ居ル者モ大分アルカラ、之ニ對シテハ政府ハ斷乎トシテ「リード」シテ行カナケレバナラヌノダト云フ仰セハ御尤モデアリマス、御説ノ通リデアリマスガ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、全國民ハ大體ト致シマシテ此ノ事變目的ヲ理解シ、又事變トノ國民トシニテノ生活態度、心構ヘ、其ノ點ニ付テハ、大體ニ於テハ遺憾ガナイモノト信ジテ居ル次第デゴザイマスルガ、尙ほ政府ニ於キマシテハ是等ノ方面ニ一層工夫ヲ凝シマシテ、國民ノ中ノ一員ト雖モ精神ニ弛緩ヲ來シ、其ノ結果トシテ先程御指摘ニナリマシタヤウナ分子ノ無クナルヤウニ、十分ニ努力ヲ致シタクト考ヘテ居ル次第テアリマス。

○道家委員 首相ノ御答辯御尤モナコトダント思ヒマス、國民ハ左様ナ考ヘ方ヲ持ツテ居ナイト仰シヤル、私モ同感デアリマス、獨逸ガサウデアツタ云フコトニハ御同感デアリマセウ、併シナガラ忌憚ナク申上ゲマスレバ、今日ノ政府ノ方針デ行キマスレバ、斷乎トシテオ進ミニナルト言ツテモ、國民ハ信頼スルデセウカ、私ハ非常ニ疑問ヲ持ツテ居ル、財政ヲ始メ、何等ノ政策ノ呈示モナケレバ、御方針モ決ツテ居ラナベ、断乎トシテオ進ミニナルト言ツテモ、

アリマセウカ、私ハ其ノ點ヲ疑問ニ思ヒマス、若シ斷乎タル御決意ガアルナラバ、思想上ノ整理ニ於テハ、共産黨ハドン／＼引張ラレマシタ、ソレデ差支ナイト思ヒマス、或ル人ハ議會ニ於ケル所ノ言論ハ自由ダト言ハレルカモ知レマセヌガ、自由ニモ自ラ制限ガアリマス、國家ノ方針ニ對シテ如何ナルコトヲ言ツテモ宜イトハ言ヘナイ、ソレハ議會内デ處分スルト云フカモ知レナイ、併シナガラ議會内ノミニ於テ放任スベキ問題デハナイ、根本的ノ大方針ヲ示シテ、國民ハ斯様ナコトハ間違ツテ居ルノダ、政府ハ斯ノ如キ方針ヲ行クノダト云フコトヲ御示シニナラナケレバナラヌ、ソレニ付テ異議ガ貴族院等ニアツタガトンデモナイ話デス、私ハ首相ノ斷乎タル御方針ヲ示シテ戴キタインデス、戰前赤ニ對シテ斷乎タル方針ヲ示サレナイカラ、赤ノ蔓延ヲ見タノデス、私ハ嘗テ文部省デ陛下ガ各私立大學ノ總長ニ拜謁ヲ賜ツタ、日本ノ思想ヲ憂ヘラレテ、何トカシナケレバナラナイト云フ取締ノ方針ヲ定メルベク拜謁ヲ賜ツテ、會議ガ開カレマシタ、其ノ時私ハ文部省ニ言ツタノデス、惡イ者ニアツタラハツキリナサラナケレバ、段々蔓延シテ行ク、蔓延シテ置イテソレヲ引張ツタツデ無理ナコトデハナイカ、思想上、學問ノ研究ハ自由ダカラト云ツテ勝手ニシテ置クコトハイカヌ、其ノ儘ウツチヤツテ置クカラドン／＼蔓延シテ、サウシテ遂ニ議會ニ代議士ガ出ルヤウニナツテ、ソレヲ引張ツタノデス、併シソレデ國民ノ思想ハ非常ナ轉向ヲシマシタ、今日ニ於テモ此ノ聖戰ノ目的ガ分ラヌナシテ、四年後ニナツテ言フ者ガ、何處ニアルカ、ソレハ無責任極マルデヤナイカ、分ラ

ナイト云ツテソレデハドウスル、方針ヲド
ウスルト云フ何等ノ示ス所モナクシテ、サ
ウシテ無責任ナコトヲ言ツテ、國民ノ言ハ
シト欲スルコトヲ言フ——何ヲ言ハント欲
スルノカ、サウ云フ馬鹿ナ思想ガ許セルモ
ノデハナイ、サウ云フ事ヲウツチヤツテ置
クベキデハナイト思ヒマス、ソレガ爲ニ貴
族院ニ於テモ大河内子爵ハ取消サレテ居リ
マス、之ニ對シテ總理大臣ハ何ト仰シヤツ
タカト云フト、「誠ニ御同感デゴザイマス、將來
來強ク正シク進ミタイト存ジテ居リマス、尙
只今縷々政府ニ對シテ御忠告下サイマシテ有
難ウゴザイマス、謹ンデ拜聽致シマシテ將來
施政ノ上ニ大イニ参考トシタイト存ジテ居
リマス」是ハ私ハ言葉尻ヲ擱ヘテ申上ゲル
ノデハナイ、總理トシテハ全體ノ答辯ダト
解釋致シマス、勿論サウ云フヤウナ東洋ノ
平和トカ、永遠ノ平和トカ、東亞ノ新秩序
ト云フコトガ分ラナイサウ云フ者ニ對シテ
謹ンデ御拜聽ニナツタトハ思ヒマセヌ、唯
私ハ斯ウ云フ時ニハ一ツハツキリトシテ戴
キタイ、ソンナ馬鹿ナコトガアルカ、新秩
序ト云フコトガ分ラナイヤウナ者ガ何處ニ
アル、戦争ノ目的ガ分ラナイ者ガ何處ニア
ル、一億、二億ノ償金ヲ取ツテ一體何ニナ
ル、時代ニ依ツテ戦争ノ方法モ違ヘバ、宣
戰ヲ布告スル場合モアリ、布告シナイ場合
モアル、平和ノ條件モ色々アル、サウ云フ
コトヲ今頃言ツテ國民思想ヲ擣亂スル、今
國民ノ不平不満ハ充チ滿チ居ル、故ニ斯
質ノモノデハナイ、ソレヲ團結シテ謳歌ス
ウ云フ言論ヲ謳歌スル、謳歌スルガ改ニ此
ノ問題ハ絶對ニ小ナル問題デハナイト信ジ
マス、議會ニ於テノミ問題トセラルベキ性
質ノモノデハナイ、ソレヲ團結シテ謳歌ス
ル者ガアルナラバ、徹底的ニ之ニ對シテ處

断スベキデハナイデスカ、是が國民ノ行ク
シヌザル方法デアルト思ヒマス、私ハ首相ガ
斷乎タル方針ヲ御示シヲ願ヒタイノデス
ソレカラ次ニ首相ニ御尋シタイコトハ、
總理大臣ハ自由主義ヲ大イニ尊重ニナツテ
居ルヤウナ御言葉ガ、前ノ議會ニ於テ海軍
大臣ノ時ニ御アリニナツタノデスガ、兎ニ
角私ハ日本ノ行クベキ政治、經濟政策總テ
ニ付テ、ハツキリシタ方針ヲ御言明願ヒタ
イ思ヒマス、日本ハ御承知ノヤウニ憲法
デ以テ自由ヲ保障シテ居リマス、ダカラ自
由主義デス、若シソレガイケナケレバ憲法
ノ修正ノ道ハ付イテ居リマスケレドモ、私ハ
憲法ヲ修正スル必要ハナイト思ヒマス、
色々々ナ思想ガ混沌トシテ居リマスガ、私ハ
今日ノ日本ト云フモノハ、自由ヲ保障スル
所ノ憲法ヲ基礎トシテ、其ノ範圍ニ於テ改
造シテ行クノダト云フコトヲハツキリ言ツ
テ戴キタ、左様デナイト御思ヒニナルナ
ラバ、サウデナイト云フ御答辯ヲ願ヒタイ
○米内國務大臣 昨年ノ議會ニ於キマスル
私ノ言辭カラ御考ニナリマシテ、何カ私方
自由主義者デアルカノヤウニ申サレマシ
タ、サウ云フコトハナインデアリマス、要
スルニ總テハ今ノ御質問ノヤウニ、憲法ノ
下ニ何モヤツテ行ク、ソレダケ御答致シマス
○道家委員 自由ハ保障セラレテ居ル力
ラ、其ノ範圍テ行クト云フコトヲ御承認ニ
ナツタモノト思ヒマス、ソコデ自由主義
デハアルケレドモ、今日ハ此ノ自由ニ對シ
テ時勢ノ必要上大キナ統制ヲ加へテ行カナ
ケレバナラス、思想上ニ於テモ、ソレカラ
經濟政策ニ於テモ、増稅ニシテモ自由主義
ト統制主義トハ、半々ニナツテ居ルヤウニ

見エマス、デスカラ經濟ノ統制ハ強化シテ
行カナケレバナラスト御思ニナレバ其ノ事
ヲ仰シャツテ戴キタイ「何ノ質問カ」ト呼ヒ、
其ノ他發言スル者多シ

○小山委員 講事進行ニ付テ發言致シマ
只今ノ道家君ノ質問ハ、質問ト云フヨリハ大
分意見ヲ含シダ支離滅裂ノ議論ヲ長ク拜聽
致シマシタ、〔ヒヤー〕「ノー」其ノ
中ニハ議會ニ於テ起ツタ問題ヤ、外國ノ文

書ナドノ例ヲ引キ、學者ノ意見ヲ験イテ之ヲ披露シタノデアリマスガ、其ノ中ニハ甚ダ穩カナラザル言葉ガ澤山アリマス、仍テ委員長ハ速記録ヲ十分御調べ願毛マシテ、適當ノ措置ヲ執ラレントヲ希望致シマス○堀切委員長 ソレ等ノ點ハ委員長ニ御任せヲ願ヒマス、只今ノ御質問ニ對シ總理ノ御答辯ガアリマセヌ、モウ時間モ時間デスマス、是デ休憩致シマス

午後零時十六分休憩
午後一時三十六分開議
○堀切委員長 休憩前ニ引續キ開會致シマス、道家君ニ何カ殘ツテ居リマシタガ、午前ダケデ板谷君ニ廻シテ戴クコトニ諒解ガ付キマシタカラ……板谷君
○道家委員 私ハ内務大臣ニマダ御尋ガア
リマス、總理大臣ニ對スル質問ハ打切ル譯

○堀切委員長 デアリマス
ヲ願ツテ……道家君
○道家委員 内務大臣ニ御尋申上ゲマス、
此ノ度ノ分與税ハ單純ナ原地還付デハナク
テ、徵收地ト關係ナク、地域的財政調整ノ
目的デ之ヲ配分ナサルト云フノデ、洵ニ結

構ダト思ヒマスガ、實際問題トシテ徵收地
ト關係ナク果シテ配分ガ出來ルカドウカト
云フコトハ、將來ノコトデスカラ分リマセ
ヌケレドモ、私ハ大イニ其ノ懸念ヲ持ツノ
デアリマス、委員會ヲ設ケテ其處デ御決定
ニナル、斯ウ云フノデアリマスガ、實ハ政
治的勢力ニ依ツテソレガ本當ニ正シク分與
出來ルカ、此ノ點ニ付テ御確信ヲ承リタイ
ト思ヒマス

シテノ御心配ハ、御尤モノコトダト思ヒマ
ス、配付税ヲ配付シマスノニ、中央ニ於テ
ハ貴衆兩院ノ方ニ御願シテ委員會ヲ作リマ
シテ、大體ノ方針ヲ審議シテ戴クヨトニ相

成ツテ居リマスガ、此ノ配付ノ方法ニ付キ
爲ニ、政治的ノ勢力ニ依ツテ動カサテレテ、
不公平ナ結果ヲ來スコトヲ恐レマシテ、全
部配付ノ方法ヲ法律ニ於テ明記シテアルノ

デアリマス、其ノ配付ノ方法ニ依リマシテ、之ヲ地方ニ分布致スノデアリマスカラ、大體ニ於テ極ク公正ナル按排ガ出來ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、只今御質問ノアリマシタル通リニ、色々ノ請託ニ依リマシ

テ是ガ厚薄ヲ付ケラレルト云フ事柄ハ、最モ恐ルベキ事柄デアリマスノデ、其ノ邊ハ
今回ノ法律ニ規定サレマシタル方法ニ依リ
マシテ分與致シマスルガ故ニ、先ヅ大體ニ

於テ公平ニ又必要ニ應ジテ適當ニ配分サレル、斯ウ考ヘテ居リマス

ヲシ易イ立場ニ置カレル、其ノ監督ガ寧ロ
干渉ニ流レハシナイカト云フコトハ、自治
體ノ恐レテ居ル所デアリマスガ、左様ナコ
トハナイト私ハ信ジマス、併シナガラ從來
モ色々害ガアルノデス、例ヘバ大藏省ヤ
内務省アタリノ役人ノ人ガ、自治ヘドンノ
内ツテ來テ、ソレヲ受容レラレナケレバ色

色ノ方面ニ支障ガ出ルト云フヤウナコトハ
直接トハ言ヒマセヌケレドモ、多少サウ云
フ傾向ガアルト云フコトハ、都市デモ言ツ
テ居ルノデアリマス、殊ニ東京市ノ如キハ

サウデアリマスガ、是ハ一ツナイヤウニシ
テ戴キタイ、之ニ付テハ唯私ハ希望ヲ申上
ゲテ置クニ止メマスガ、更ニモウ一點伺ヒ
タイコトハ、地方財政ノ監督ノコトデアリ
マス、此ノ地方財政ノ監督ハ從來内務省

ガヤツテオ居デニナルノデアリマスガ、實際ハ甚ダ遺憾ナル状態ニアル、財政ノ調査ヲナサツテ、警告ヲ與ヘラレテ、ソレヲ實行シテ居ラナクテモ一向構ハナイト放任シ

テ居ラレルノデアリマスガ、今後此ノ點ヲ
如何ニナサルカ、ヤハリ從來ノ通リナサル
ノデアリマセウカ、一例ヲ申上ゲテ見マス
ト、市會議員ガ分配シテ居ル所ノ調査費ト
云フヤウナモノハ、産業調査費デアルトカ

色々ノ名目デ以テ十万圓モ取ツテ居ル、是ナドハ何トカ改正スベキモノデハナイカ、少クトモ名義ダケデモ改正スベキデハナイカ、毎年内務省カラ警告ヲ與ヘラレテ居ル

ガ、ソレヲ實行シナクテモ内務省ハチツトシテ居ラレル、是デハ困ルト思ヒマスガ、如何ナモノデセウカ。

○兒玉國務大臣　今回ノ稅制ニ伴ヒマシテ、配付稅其ノ他一般ノ地方ノ財政ヲ主トシ、之ニ特別ノ監督機關ヲ設ケルコトノ必要ヲ

モ亦地方ニモ置クコトニナツテ居リマスケレ
ドモ、併シ其ノ目的ハ只今御話ノヤウナ風
ニ、徒ニ地方ノ自治行政ニ干渉スルト云フ意
味合ニアラバニ、抱フマズモ自台ノ精神ヲ

尊重致シマシテ、主トシテ事務的ノ監督ヲ致
スコトニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、
監督官ト致シマシテ本省ニ勤任官一人、奏
任官三人、又地方廳ニハ地方事務官九十四

人ヲ配スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマ
ス、之ニ依リマシテ地方ノ主トシテ財政状態
税制ノ監督指導ヲ致サセルコトニ相成ツテ
居ルノデアリマス、又東京市ノ御話ガアリ
マシタガ、東京市ノコトハ弘ヨリ(道元吉)ノ

方ガ良イ所モ惡イ所モ餘程御承知ノコトデ
アリマスルカラ、只今御話ノヤウナ事柄ハ、
先ヅ私ハ道家君アタリニ依ツテ、一ツ力強
ク矯正ヲ願ヘバ大變ニ結構ナコトデハナイ

カト思ヒマスルガ、萬一力ガ足ラナケレバ
御手傳シテモ差支ナイカト思ヒマスガ、先
ヅドウゾ市ハ市デ矯正ヲ願フコトニナルコ
トガ、自治ノ上カラ見マシテ結構ナコトト
思ウテ居リマス、大豐其ノ佔デ印京氏ノ頃

サレルノデアリマシテ、如何トモ致シ難イ
ノデアリマス、之ヲ直サウトスルナラバ、
私ハヤハリ都制案ト云フヤウナ根本制度ノ
改革ガ必要デアルト同時ニ、内務省ガ其ノ
本來ノ權限デアル所ノ監督權ヲ強化ナサラ
ナケレバ、到底改革ハ出來ナイ、少數デモ
通ルナラ別デアリマス、此ノ點ハ漸次共鳴
者ヲ得ルベク努力致シテ居リマスルケレド

モ、ソレニハ長イ年月ヲ要スルノデアリマ
スカラ、是非内務省ハ警告シタ位ノコトハ、
一ツ斷行スルヤウニ監督官ヲ御増シニナル
方針ヲ執ツテ戴キタイ、一例ヲ申上ゲマス
レバ、最近ノ問題デスガ、此ノ十二月ニモ
五十万圓ト云フ、大シタ金デモアリマセヌガ、
トカ言ハレル人達ガ操縦スル所ノ市會議員
ニ依ツテ計畫セラレ、サウシテ其ノ金ハド
ウ云フ金デアツカト云フト、玉川水電ト
云フ電力會社ニ對スル補償ノ金デアリマス、
ソレデ東京市ニ第二水道擴張費ト云フノガ
アリマシテ、其ノ中カラ出シタ、ソレデ更
正豫算ヲ拵ヘテ、玉川水電ニ對スル補償ト
シテ出シタ、御承知ノヤウニ小河内ニ貯水
池ノ新シイノガ出來マスノデ、水電ノ取入
口ハ其處ニアルカラ補償スルト云フ名義デ
アル、所ガ更正シタ時ニハ何モサウ云フ說
明ガナイ、物價ノ騰貴デアルトカ、設計ノ
變更ト云フモノデ更正豫算ガ説明サレテ通
過シタ、サウシテ知ラナイ中ニ何時ノ間ニ
カ、更正豫算ノ中ニ玉川水電ノ補償ト云フ
モノガ一本首ヲ出シテ、ソレヲ付託セラレ
タ委員長モ知ラケレバ誰モ知ラナイ、ザ
ウシテソレヲ會社ニ渡シタ、所ガ之ヲ交付
スルコトニ付テハ問題ガアリマシテ、牛塚市
長モ躊躇シタ、亡クナラレタ所ノ小橋市長
モ、是ハドウモ合理的ノモノデナイト云フ
ノデ判ヲ押サナイ、市長ガ亡クナツテ、三
邊助役ガ代理ヲシタ、其ノ代理モ否定サレ
サレタ、今市會ノ問題ニナツテ居ル、斯様

ナコトヲ若シスレバ、交付金ヲヤツタツ
駄目ダ、ソレハ幾ラモ出テ行キマス、又
某水道會社ヲ百六十万圓デ買フコドモ、是
ハ市會議員ガ決議スルノニ、何處デ決議ラ
シタカ、一日視察ニ行ツテ十分審議スルト
言ヒナガラ、其ノ歸りガケ世田谷ノ區役所
ノ二階ニ集ツテ、ソコデイキナリ百六十万
圓異議ナシト決メタ、此ノ如クニ努力セヨ

ガ、是ハ大體調査委員會ノ方ニ審議ガ進ミツツアルノアリマスケレドモ、所謂都長官ノ問題ニ付キマシテ、十分ナル意見ノ一 致ヲ見ナイデ、今日其ノ儘ニナツテ居ルノ デアリマス、此ノ問題ニ付キマシテハ、引 績キ研究ヲシナケレバナラヌコトト思ツテ 居リマスルガ、此ノ都制案ノ問題バカリデ ハアリマセヌ、地方制度ノ全般ニ亘リマシ

ハ、斯ウ云フ自由意思ニ依ツテ、各地方團體
ガ減滅自在デアルト云フモノハ、基準ノ中
ニ加ヘナイコトガ適當デアルト思ヒマシテ、
市町村ノ配付稅ノ方ニハ加ヘナイノデアリ
○道家委員 サウ致シマスト適當ナ金額ヲ
配付ヲナサラナイト云フコトニナリマスカ
○挾庭政府委員 適當ナル配分ヲ爲スニ付

テ大検討ヲ加ヘマシテ、成ベク早イ機會ニ
於テ御審議ヲ願フヤウナ機會ヲ得タ一、斯
様ニ考ヘテ居リマス

○道家委員 内務大臣ヘノ質問ヘ終ツテ、局
長ニ二三伺ヒタイ、今回ノ分與税制度デ市
町村ノ災害費ノ借入金ノ元利償還ニ付テ、
特ニ六都市ニハ別ニ何モ規定ガナイヤウデ
アリマスガ、是ハ如何ナル御取扱ヲナサレ
ルノデアルカ

○挾間政府委員 此ノ災害復舊費ヲ今回ノ
配付税ノ配分ノ標準ニ加ヘマスニ付キマシ
テハ、大體災害復舊費ノ輪廓ノ明確デアル
モノヲ、押ヘルコトガ適當デアルト思ツテ
居リマス、言葉ヲ換ヘテ申シマスト、各地
方團體ノ自由意思ニ依ツテ自由ニ増減シ得
ル性質ノモノヲ、分與ノ基準ニ致シマスコ
トハ、配付税分與ノ標準トシテハ適當デナ
イト思ヒマスノデ、サウ云フ關係カラ申シマ
スト、大體道府縣ニケル災害復舊費ハ、
國ノ勅令ニ依ツテ補助規定ガゴザイマシテ、
審査ノ結果決定スルモノデス、之ヲ標準ニ
持ツテ行クコトガ適當デアルト思フノデアリ
マスガ、他ノ灾害ニ對スル復舊ノ問題ニ
付キマシテハ、是ハ各地方團體ノ自由意思
ニ基クモノデゴザイマスノデ、分與ノ基準
ニ加ヘルト云フコトハ均衡ヲ失フ虞ガアリ
マスカラ、今回ノ記入税額付ノ基準トシテ

ハ、斯ウ云フ自由意思ニ依ツテ、各地方團體
ガ増減自在デアルト云フモノハ、基準ノ中
ニ加ヘナイコトガ適當デアルト思ヒマシテ、
市町村ノ配付稅ノ方ニハ加ヘナイノデアリ
マス

○道家委員 サウ致シマスト適當ナ金額ヲ
配付ラナサラナイト云フコトニナリマスカ
○挾間政府委員 適當ナル配分ヲ爲スニ付
キマシテ、他ノ災害復舊費ヲ加ヘルコトハ
適當デナイト思ツテ居リマス、今回ノ配付
稅配付ノ基準ガ、最モ適切ナ配分ノ基準ニ
ナルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○道家委員 ソレデハ次ニ伺ヒタノハ、
六大城市ト其ノ府縣トノ間ニ於テ、地方獨立
稅ノ財源デアル三收益稅ヲ折半シテ分ケル
ト云フヤウナコトニナツテ居リマスガ、東京
市ノ如キハ折半デハ少シ困ルノデハナイ
カト思ヒマスガ、切半ト云フ理由ハ何處ニ
アリマスカ

○挾間政府委員 一寸私聞漏シマシタガ、
折半ト云フノハ第一種ト第二種ノ問題デゴ
ザイマセウカ

○道家委員 地租等三收益稅…

○挾間政府委員 是ハ三收益稅附加稅獨立
デ吾々考ヘテ居ナイノデゴザイマシテ、今
回ノ稅制ト云フモノハ、現在ノ制度ヲ一應
白紙ノ狀態ニ還シマシテ、サウシテ各團體
ニドレダケノ額ヲ與ヘルノガ最モ實情ニ合
フカト云フ算盤ヲ立テマシテ、ソレニ對ジ
テ地租、營業收益稅、家屋稅ト云フモノハ
半額ヅツ與ヘ、尙ホ其ノ他ニ獨立稅モ認メ
マシテ、其ノ補足ノ財源ト申シマスカ、隨
テソレニ依ツテ財政ガ調整セラレル財源ト
致シマシテ配付稅ヲ之ニ加ヘル、斯ウ云フ
建前ニナツテ居リマスノデ、地租其ノ他ニ

○兒玉國務大臣

都制案ノ問題デアリマズ

収益稅ノ收入ノ割合ヲ、道府縣市町村ト云フモノヲ折半ニ致シマシタコトハ、今回ノ稅制全般ヲ通ジテ御覽戴ケバ、ソレデ必要居ルノデアリマス

○道家委員 全體ヲ通ズレバソレハ調節サレルノダト仰シヤルノデスガ、地方獨立財源トシテハ、此ノ地租、營業収益稅、家屋稅ト云フモノガ重要ナ財源デアツテ、ソレガ折半サレルト云フコトハ、ドウモ大都市トシテハ少シ過少デハナカ、全體トシテ調和サシテ考ヘル、斯ウ仰シヤルガ、私ハサウ思フノデアリマス、重ネテ御伺致シマス

○挾間政府委員 先程申上ゲマシタ通り、稅制改正ノ際ニ地方財政收入ノ全體ヲ、十億三千二百万圓ト見積リマシテ、是ニハ十五年度ニ於ケル自然增收ノ分モ全部包含致シテ居ルノデアリマシテ、ソレヲ各地方團體別ニ、ドウ云フ風ニ分ケレバ宜イカト云フ、コトヲ建前トシテ、今回ノ稅制ヲ作ツテ居ルノデアリマシテ、言葉ヲ換ヘテ申シマスト、大都市ニ付テ考ヘマスト、大都市ガ現在昭和十五年度ニ於テ、ドレダケノ稅收入ガアルデアラウ、其ノ稅收入ヲ得サセルノニハ、ドウ云フ財源ヲ分配スレバ宜シイカト云フノ基準トシマシテ、今回ノ稅制ガ立テラレテ居ル譯デアリマス、此ノ三收益稅ノ稅率ガ、府縣ト都巿折半ニナツテ居リマシテ、適當ナル財源ガソレデ供與サレルコトニナツテ居リマス、假ニ東京市デ申シマスト、東京市ノ今日ノ所得稅附加稅ハ、法ニ依ル制限率本稅一圓ニ付七錢ト云フノガ、二十一錢マデ上ツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ高率ナ稅ヲ取リマシテ、十五年度ニ於テドレダケノ稅收入ガアルデアラウカ、

斯ウ云フコトヲ見込ミマシテ、ソレヲ見積ツタ財源ガ、今回ノ三收益稅ノ稅收入其ノ外ノ獨立稅及ビ配付稅デ收入ガ舉ゲラレル云フコトニナツテ居ル譯デアリマス、動モスレバ今回ノ配付稅ガ、大都市ニ非常ニ少額ニナリハシナイカト云フ御懸念ガアルヤウデゴザイマスノデ、是ハ資料トシテ差上ゲテ置イタノデゴザイマスガ、大都市ニ對スル配付稅ハ千二百萬圓、其ノ他ノ都市ニ對シテ千四百万圓、町村全體デ九千八百万圓ト云フヤウナ率デ、今回ノ稅制改正ニ依ル配付稅ガ分與セラレルヤウニナツテ居リマス、尙ホ之ヲ六大城市ニ付テ申上ゲマスト、改正前ノ稅收入ハ、大體六大城市ヲ通ジマシテ一億三千四百万圓程度デゴザイマスガ、今回ノ改正法ニ依リマスト、獨立稅及ビ附加稅ヲ加へマジテ一億五千万圓、ソレニ配付稅千二百萬圓ガ入りマスノデ改正稅法ニ依リマスレバ六大城市ニ一億六千五百圓ノ稅收入ガアル、是ハ大體ノ概算マスガ、斯ウ云フコトニナルト思マスガ、斯ノデアリマシテ、隨テ六大城市ニ對スル財源ニ付キマシテハ、今回ノ稅制ガ脅威ヲ與ヘルト云フコトハ全然ナイヤウニ構成ヲ致シテ居ル譯デアリマス

○道家委員 次ニ御尋致シタコトハ、府縣獨立稅トシテ地方稅制ノ四十八條ニアリマスガ、此ノ中自動車稅ダケヲ市ニ委讓ナマスガ、此ノ中自動車稅ダケヲ市ニ委讓ナラナイデ、荷車稅ト自轉車稅ヲ委讓ナサル、所ガ實際問題トシテ東京市ノ道路オ軌道ヲ磨滅破損セシムルモノハ、主ニ自動車デアルト思フノデアリマス、ヤハリ分常ニ少クテ又重量ノ點モ少イ、ヤハリ分與トシテ委讓ナサルトスレバ、此ノ大キナノ家屋稅其ノ他三收益稅ノ課率ノコトニ付ス

○道家委員 諒承致シマシタ、ソレデハ前テノガ適當デハナカト思ヒマスガ、如何マシテハ、六大城市ト其ノ所在府縣ノ財源ノ調整ト云フ問題ハ、稅制全體デ考ヘテ居リマスノデ、特ニ自動車稅ノ課稅ト云フコトダケニ付テ特例ヲ認メルト云フコトハ、認メナケレバナラヌト思フノデアリマス、六大城市ニ於キマシテハ、市内ノ國道、府縣道ノ管理者ハ市長デゴザイマス、隨テ其ノ市長ガ統轄シテ居ル——行政廳ガ統轄シテ居ル自治體、即チ六大城市ガ、其ノ費用ヲ負擔ヲスルコトニナリマス、隨テ府縣ニ於キマシテ賦課スル自動車稅ヲ、市ノ方ニ委讓スルト云フコトニ付キマシテモ、吾々ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイマスガ、自動車ノ如キモノノ使用範圍ハ相當廣範圍ニ瓦ルモノデアリマシテ、必ズシモ市内ノミニ限ラナイノデゴザイマスカラ、課稅權ヲ市ノミニ與ヘルト云フコトニ付キマシテハ、ドウモソレハ適切デナインデハナカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ外細カイ理由ニ付キマシテ色々考究ヲ致シマシタノデアリマスガ、ヤハリ之ヲ單純ニ市稅トスルト云フコトヨリモ、府縣稅及ビ其ノ附加稅デ、兩團體ニ於テ課稅セシムルコトガ適當デアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○道家委員 三部制ハ御存ジノヤウニ、愛知縣ト、兵庫縣ノ二縣ガ今殘ツテ居ルノデアリマス、大阪、東京、神奈川、京都、廣島、斯ウ云フ順序ヲ以チマシテ、從來存在致シテ居リマシタ三部制ハ漸次廢止セラレテ參リマシタ、是ハ御存ジノヤウニ、府縣ガ單一シタ自治體トシテ仕事ヲ致シマス場合ニ、ソコニ經濟團體トシテ別個ノ存在ガアルト云フコトニ付キマシテハ、從來ヨリ行政ノ統一負擔ノ均衡ト云フ上カラ致シマシテ、出來得ベクンバ速ニ廢止スルノガ適當デアルト云フ一般ノ方針ヲ以テ進行ヲ致シテ參リマシタ、併シナガラ兵庫ト愛知ニ於キマシテハ、尙ホ從前ノ制度ガ存續サレテ居ルノデアリマス、然ルニ今回地方稅制ガ全面的ニ改正ニナリマシテ、分與稅制ト云フモノヲ設ケマシテ、日本全國ニ於ケル各地團體ノ負擔ノ均衡ヲ圖リ、財政ヲ調整スルト云フ建前ニナツテ參リマシタノデ、謂ハバ理論上ノ問題トシマシテ、今回ノ稅制改正ト二部三部經濟組織ト云フモノハ、觀念トシテ相容レナイト云フコトニ一應理論的ニハナツテ參リマス、尙ホ分與稅ヲ配

付致シマス場合ニ、御存ジノヤウニ三部經濟ノ下ニ於キマシテハ、愛知縣、兵庫縣共ニ全體ニ屬スペキ歲入ヲ市ニ分賦致シテ居ルノデアリマス、同一縣内ニ於テ二個ノ經濟團體ガ存在スルト云フ形ニナリマスノデ、分與稅ヲ分與致シマスノニ、技術的ニ非常ニ困難ナ問題ガ起ツテ來ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトデ數年前廣田内閣當時ニ稅制改革ヲ致シマス際ニモ、三部制ハ之ヲ廢止スルト云フ建前デ進ンデ居ツタノデアリマス、今回ノ稅制改正ノ機會ニ於キマシテ、是ハ廢止ヲスル方針デ進ンデ居リマス、但シ三部經濟ノ存在スル府縣ニ於キマシテハ、消極財產ノ他ノ點ニ於キマシテ、是ハ廢止ヲスル方針デ進ンデ居リマスノデ、是ハ無條件ニ致シマスコトハ適當デナイト考ヘマズ、隨ヒマシテ關係知事ノ會合ヲ求メマシテ、只今折角其ノ善後ノ措置ニ付キマシテ考究ヲ致シマシテ、負擔ノ異常ナル變動ヲ起スコトノナイヤウニ、此ノ案ノ實行ヲ進メテ行カウト考ヘテ居リマス

○道家委員 ソレデハ成ベク支障ノナイヤ

ウニ、サウシテ又今御説明ノ御方針ハ御尤モノヤウニ思ヒマスガ、其ノ間ノ調節ヲ得テ御處理願ヒタイト思ヒマス、次ニ承リタイコトハ、受益者ノ分擔金制度デアリマスガ、之ニ付キ都市ノ諸施設ノ發達助長ト云フ意味ニ於テ、勿論贊成デアリマス、併シナガラ是ハ主ニ御承知ノヤウニ獨逸ノ制度ヲ採入レテ居ルノデスガ、茲ニ却テ受益者負擔ヲシテ居ナガラ、非常ナ損害ヲ蒙ムル場合モアル、要スルニ受益者負擔ノ制度ノ改正が必要デハナイカト思フノデアリマスガ、此ノ實例ニ付テハ長ク

ナリマスカラ省キマス、申スマデモナク御存ジノコトト思ヒマスガ、何カ内務省ニ於テハ、近イ内ニ左様ナコトハ御考ニナツテイラツシヤイスカ

○挾間政府委員 受益者分擔金ト云フノハ、法律的ニ申シマスト、目的稅ト大體同一種類ニ屬シマス個々ノ法律ニ規定シテアル受

益者負擔制度ト、ソレカラ一般的ノ市制、町村制、府縣制ノ上ニゴザイマス市町村ノ一部又ハ數人ノ利益ノ爲ニスル分擔金制度ト、兩方アル譯デアリマスガ、此ノ前ニ申シマシタ個々ノ特別法ニ於キマスル受益者負擔金ノ問題ハ、是ハ現在例ヘバ都市計畫法トカ、道路法トカニ其ノ規定ガゴザイマシテ、其ノ方面ニ於テ十分研究スルコトニナルグラウト思ヒマス、ソレカラモウ一ツノ一般的分擔金ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ從前ヨリ市制、町村制等ニ認メラレテ居ツタ制度デゴザイマシテ、從來餘り是ハ利

用セラレテ居ナカツノデアリマス、併シ只今御述ニナリマシタヤウナ趣旨ニ於キマシテ、成ベク之ヲ活用セシムルヤウニ、指導シテ参リタイト考ヘテ居リマス

○道家委員 内務省ニ對スル私ノ質問ハ終

リマシタカラ、昨日一寸大藏省ニ對シテ御尋シテ残ツタ問題ガアリマスカラ、大藏省ノ當局ニ御尋致シマス、大臣デナクテ結構

デアリマス、ソレハ保険ノ事アリマスガ、

度デアリマスガ、之ニ付キ都市ノ諸施設

ノ發達助長ト云フ意味ニ於テ、勿論贊成デ

アリマス、併シナガラ是ハ主ニ御承知ノヤウニ獨逸ノ制度ヲ採入レテ居ルノデスガ、

茲ニ却テ受益者負擔ヲシテ居ナガラ、非常

ナ損害ヲ蒙ムル場合モアル、要スルニ受益者負擔ノ制度ノ改正が必要デハナイカト思

フノデアリマスガ、此ノ實例ニ付テハ長ク

ナリマスカラ省キマス、申スマデモナク御存ジノコトト思ヒマスガ、何カ内務省ニ於

テハ、近イ内ニ左様ナコトハ御考ニナツテ

テハ、語句ノ統一ガ付イテ居リマセヌ、徵兵

保險ヲ生命ノ中ニ含ムモノト解釋シテ宜イ

ノデアリマセウカ

○大矢政府委員 是ハ生命保険ト生命保險

會社ニ依ツテ多少違フト思フノデアリマス、相續稅法ニ於キマシテ生命保險ト言ツテ居

ル場合ニハ、特ニ斷ツテナケレバ徵兵保險

ノ方ハ包含セラレテ居ナイ、今度ノ臨時租

稅措置法ニ依リマシテハ、生命保險事業其

ノモノヲ指スノデハアリマセヌデ、生命保

險會社ヲ指シテ居ルノデアリマス、隨ヒマ

シテ人格ヲ指ス場合ト事業其ノモノヲ指ス

場合ニ於キマシテハ、自ラ多少内容ノ違

場合ガ出テ來ル次第デアリマス、法制ト致

シマシテハ別ニ不都合ハナイト、斯ウ考ヘ

テ居リマズ

○道家委員 今度改正法ガ通過スレバ控除ノ規定ハナクナルノデスガ、此ノ控除ニ付

テモ私ハヤハリ考ヘナケレバナラスト思ツ

テ居ル、デスカラ、若シ改正ニナレバ是ハ

問題ナインデスガ、改正ニナラヌトシテ、

徵兵保險ノ如キモノニ對シテモ、普通ノ保

險ト同ジヤウニ御扱ヒニナツテ、ヤハリ控除スルヤウナ精神デ爾後總テノ御取扱ヲ、

此ノ法律ノ如何ニ拘ラズ爲サツタラドウカ

ト思ツテ居リマスガ……

○大矢政府委員 生命保險料ヲ拂込ンダ場

合ニ所得稅ノ計算上之ヲ經費ニ見ルカドウ

テ、此ノ點ニ限界點ヲ置クノガ適當グラウ

ト考ヘタ次第デアリマス

○道家委員 是ハ要スルニ購買者ガ、ソレ

ダケノ餘裕ヲ持ツテ居ル娛樂デアルト云フ

意味デ、課セラレルト思フノデスガ、サウ

ナルト犬ダノ猫バカリ優遇サレテ、鳥ハド

ハ、我國保險業發達ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

斯ウ云フ制度ヲ取ツテ居タモノカト存ジマス、此ノ意義ヲ擴充シテ行クノモ一つノ方

法カト存ジマスケレドモ、又一面ニ於テ生

命保険ト、多少貯蓄ト云フ觀點カラ致シマシ

テ類似シテ居リマスル郵便貯金トカ、或ハ

貯蓄銀行ニ對スル預金ト云フヤウナモノニ付テモ、別ニ所得稅ノ所得ノ計算ノ場合ニ

経費ニ見テ居リマセヌデ、是ハ性質カラ論

ジ難イト思フノデアリマシテ、我國生命保

險事業ノ今日ノ狀況カラ致シマシテ、先ヅ

今回ノ稅制改正ニ於テ、他ニ徵稅技術上相

當ノ困難モアリマスカラ、此ノ際生命保險

料ノ控除ハ見合セタトイト存ジテ居リマス、

隨ヒマシテ更ニ徵兵保險ノ保險料控除マデモ擴充シタラト云フ考ハ、今持ツテ居リマ

セヌ

○道家委員 次ニ御尋シタイノハ犬ヤ猫ノ賣買ニ依ツテ十圓以上一割ソレカラ鳥ノ時

ニハ三圓以上一割ト云フコトニナツテ居リ

マスガ、是ハドウ云フ譯デ犬ト猫ハ十圓デ、

鳥ヲ買ヘバ三圓以上課カル、斯ウ云フ區別

ヲ設ケタノデアリマスカ

○大矢政府委員 是ハ大體課稅ノ對象トナ

ルモノヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適當ト

スルト、斯ウ見タノデゴザイマス、別ニ數

字上キチント出テ來ル譯デハゴザイマセヌ

ケレドモ、現在ノ是等ノ愛玩用動物ノ取引

ノ狀況等ヲ見マシテ、先づ課稅スルトスレ

バ、此ノ點ニ限界點ヲ置クノガ適當グラウ

ト考ヘタ次第デアリマス

○道家委員 是ハ要スルニ購買者ガ、ソレ

ダケノ餘裕ヲ持ツテ居ル娛樂デアルト云フ

意味デ、課セラレルト思フノデスガ、サウ

ナルト犬ダノ猫バカリ優遇サレテ、鳥ハド

ハ、我國保險業發達ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

斯ウ云フ制度ヲ取ツテ居タモノカト存ジマス、此ノ意義ヲ擴充シテ行クノモ一つノ方

法カト存ジマスケレドモ、又一面ニ於テ生

命保険ト、多少貯蓄ト云フ觀點カラ致シマシ

テ類似シテ居リマスル郵便貯金トカ、或ハ

貯蓄銀行ニ對スル預金ト云フヤウナモノニ付テモ、別ニ所得稅ノ所得ノ計算ノ場合ニ

経費ニ見テ居リマセヌデ、是ハ性質カラ論

ジ難イト思フノデアリマシテ、我國生命保

險事業ノ今日ノ狀況カラ致シマシテ、先ヅ

今回ノ稅制改正ニ於テ、他ニ徵稅技術上相

當ノ困難モアリマスカラ、此ノ際生命保險

料ノ控除ハ見合セタトイト存ジテ居リマス、

隨ヒマシテ更ニ徵兵保險ノ保險料控除マデモ擴充シタラト云フ考ハ、今持ツテ居リマ

セヌ

○道家委員 次ニ御尋シタイノハ犬ヤ猫ノ賣買ニ依ツテ十圓以上一割ソレカラ鳥ノ時

ニハ三圓以上一割ト云フコトニナツテ居リ

マスガ、是ハドウ云フ譯デ犬ト猫ハ十圓デ、

鳥ヲ買ヘバ三圓以上課カル、斯ウ云フ區別

ヲ設ケタノデアリマスカ

○大矢政府委員 是ハ大體課稅ノ對象トナ

ルモノヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適當ト

スルト、斯ウ見タノデゴザイマス、別ニ數

字上キチント出テ來ル譯デハゴザイマセヌ

ケレドモ、現在ノ是等ノ愛玩用動物ノ取引

ノ狀況等ヲ見マシテ、先づ課稅スルトスレ

バ、此ノ點ニ限界點ヲ置クノガ適當グラウ

ト考ヘタ次第デアリマス

○道家委員 是ハ要スルニ購買者ガ、ソレ

ダケノ餘裕ヲ持ツテ居ル娛樂デアルト云フ

意味デ、課セラレルト思フノデスガ、サウ

ナルト犬ダノ猫バカリ優遇サレテ、鳥ハド

ハ、我國保險業發達ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

斯ウ云フ制度ヲ取ツテ居タモノカト存ジマス、此ノ意義ヲ擴充シテ行クノモ一つノ方

法カト存ジマスケレドモ、又一面ニ於テ生

命保険ト、多少貯蓄ト云フ觀點カラ致シマシ

テ類似シテ居リマスル郵便貯金トカ、或ハ

貯蓄銀行ニ對スル預金ト云フヤウナモノニ付テモ、別ニ所得稅ノ所得ノ計算ノ場合ニ

経費ニ見テ居リマセヌデ、是ハ性質カラ論

ジ難イト思フノデアリマシテ、我國生命保

險事業ノ今日ノ狀況カラ致シマシテ、先ヅ

今回ノ稅制改正ニ於テ、他ニ徵稅技術上相

當ノ困難モアリマスカラ、此ノ際生命保險

料ノ控除ハ見合セタトイト存ジテ居リマス、

隨ヒマシテ更ニ徵兵保險ノ保險料控除マデモ擴充シタラト云フ考ハ、今持ツテ居リマ

セヌ

○道家委員 次ニ御尋シタイノハ犬ヤ猫ノ賣買ニ依ツテ十圓以上一割ソレカラ鳥ノ時

ニハ三圓以上一割ト云フコトニナツテ居リ

マスガ、是ハドウ云フ譯デ犬ト猫ハ十圓デ、

鳥ヲ買ヘバ三圓以上課カル、斯ウ云フ區別

ヲ設ケタノデアリマスカ

○大矢政府委員 是ハ大體課稅ノ對象トナ

ルモノヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適當ト

スルト、斯ウ見タノデゴザイマス、別ニ數

字上キチント出テ來ル譯デハゴザイマセヌ

ケレドモ、現在ノ是等ノ愛玩用動物ノ取引

ノ狀況等ヲ見マシテ、先づ課稅スルトスレ

バ、此ノ點ニ限界點ヲ置クノガ適當グラウ

ト考ヘタ次第デアリマス

○道家委員 是ハ要スルニ購買者ガ、ソレ

ダケノ餘裕ヲ持ツテ居ル娛樂デアルト云フ

意味デ、課セラレルト思フノデスガ、サウ

ナルト犬ダノ猫バカリ優遇サレテ、鳥ハド

ハ、我國保險業發達ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

斯ウ云フ制度ヲ取ツテ居タモノカト存ジマス、此ノ意義ヲ擴充シテ行クノモ一つノ方

法カト存ジマスケレドモ、又一面ニ於テ生

命保険ト、多少貯蓄ト云フ觀點カラ致シマシ

テ類似シテ居リマスル郵便貯金トカ、或ハ

貯蓄銀行ニ對スル預金ト云フヤウナモノニ付テモ、別ニ所得稅ノ所得ノ計算ノ場合ニ

経費ニ見テ居リマセヌデ、是ハ性質カラ論

ジ難イト思フノデアリマシテ、我國生命保

險事業ノ今日ノ狀況カラ致シマシテ、先ヅ

今回ノ稅制改正ニ於テ、他ニ徵稅技術上相

當ノ困難モアリマスカラ、此ノ際生命保險

料ノ控除ハ見合セタトイト存ジテ居リマス、

隨ヒマシテ更ニ徵兵保險ノ保險料控除マデモ擴充シタラト云フ考ハ、今持ツテ居リマ

セヌ

○道家委員 次ニ御尋シタイノハ犬ヤ猫ノ賣買ニ依ツテ十圓以上一割ソレカラ鳥ノ時

ニハ三圓以上一割ト云フコトニナツテ居リ

マスガ、是ハドウ云フ譯デ犬ト猫ハ十圓デ、

鳥ヲ買ヘバ三圓以上課カル、斯ウ云フ區別

ヲ設ケタノデアリマスカ

○大矢政府委員 是ハ大體課稅ノ對象トナ

ルモノヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適當ト

スルト、斯ウ見タノデゴザイマス、別ニ數

字上キチント出テ來ル譯デハゴザイマセヌ

ケレドモ、現在ノ是等ノ愛玩用動物ノ取引

ノ狀況等ヲ見マシテ、先づ課稅スルトスレ

バ、此ノ點ニ限界點ヲ置クノガ適當グラウ

ト考ヘタ次第デアリマス

○道家委員 是ハ要スルニ購買者ガ、ソレ

ダケノ餘裕ヲ持ツテ居ル娛樂デアルト云フ

意味デ、課セラレルト思フノデスガ、サウ

ナルト犬ダノ猫バカリ優遇サレテ、鳥ハド

ハ、我國保險業發達ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

斯ウ云フ制度ヲ取ツテ居タモノカト存ジマス、此ノ意義ヲ擴充シテ行クノモ一つノ方

法カト存ジマスケレドモ、又一面ニ於テ生

命保険ト、多少貯蓄ト云フ觀點カラ致シマシ

テ類似シテ居リマスル郵便貯金トカ、或ハ

貯蓄銀行ニ對スル預金ト云フヤウナモノニ付テモ、別ニ所得稅ノ所得ノ計算ノ場合ニ

経費ニ見テ居リマセヌデ、是ハ性質カラ論

ジ難イト思フノデアリマシテ、我國生命保

險事業ノ今日ノ狀況カラ致シマシテ、先ヅ

今回ノ稅制改正ニ於テ、他ニ徵稅技術上相

當ノ困難モアリマスカラ、此ノ際生命保險

料ノ控除ハ見合セタトイト存ジテ居リマス、

隨ヒマシテ更ニ徵兵保險ノ保險料控除マデモ擴充シタラト云フ考ハ、今持ツテ居リマ

セヌ

○道家委員 次ニ御尋シタイノハ犬ヤ猫ノ賣買ニ依ツテ十圓以上一割ソレカラ鳥ノ時

ニハ三圓以上一割ト云フコトニナツテ居リ

マスガ、是ハドウ云フ譯デ犬ト猫ハ十圓デ、

鳥ヲ買ヘバ三圓以上課カル、斯ウ云フ區別

ヲ設ケタノデアリマスカ

○大矢政府委員 是ハ大體課稅ノ對象トナ

ルモノヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適當ト

スルト、斯ウ見タノデゴザイマス、別ニ數

字上キチント出テ來ル譯デハゴザ

ウモ一向優遇サレテ居ラナイ、犬ダラウガ
猫ダラウガ、買ツカラヤハリ三圓以上同ジ
ニ擔稅能力ガアルト見テ御課ケニナツタ方

ガ宜イノデヤナイデスカ

○大矢政府委員 愛玩用動物ノ中、鳥ニ對
スル課稅デアリマスガ、是ガ小鳥ニ類ハ命
令案要項ニ、其ノ種類ヲ列舉シテ居ルノデ
アリマス、斯ウ云フ小鳥ニ付キマシテハ、
大體三圓程度ヲ限界トスルノガ宜イダラウ、

十圓ト致シマスノハ少し高過ギル感ジガ致
シテ居ルノデアリマス

○道家委員 鳥ノ十圓デヤナクテ、犬ノ十
圓ガ高イ、大ハ實際ハ値段ガ高イモノデス
カラ、十圓ノ犬ト云フト良イ犬デヤアリマ
セヌガ、鳥ト同ジニ御課ケニナルナラ三圓
カラ御課ケニナツカラ宜イ、ソレカラ御課
引上ゲニナツカラト云フコトヲ言フ
ノデアリマス、ソレハ何等根據ガナイカラ私
ハサウ言フノデス、是ハ犬ダカラ、鳥ダカラ
ラ、猫ダカラト云フテ課ケルノデヤナイカラ
ラ、サウシタ方ガ合理的デス、ソレカラ一面
カラ言フト、鳥ノ三圓ト云フノハ、是ハ少
シ安過ギルト思フ、三圓位ノ鳥ニ御課ケニ
ナルコトハ、教育上大キナ問題デス、日本
人ノ缺陷ハ斯ウ云フヤウナ趣味ノ點ニ於テ、
味モ持タナイ、知識モ持タナイ、旅行シテ
モ鳥ヤ昆蟲ニ對シテノ認識ガアルト、其ノ
旅行ハ非常ニ豐富ナモノニナル、ダカラ動
物ニ對スル所ノ愛護心ド云フヤウナモノハ、
ヤハリ漸次教育的ニ養成シテヤラナケレバ
ナラス、其ノ意味ニ於テ、下ラナイ娛樂物

ヲ買フヨリ、子供ガ鳥ナドヲ持ツテ喜ベバ、
親ガソレヲ満シテヤルト云フコトハ宜イコ
トデヤナイカ、ソレニハ三圓ト云フノ十
圓位マデ引上ゲテ、ソレ位ノ範圍デノ娛樂
ハ、犬ヲ認メラレルナラバ、認メラレテハ
ドウカ、斯ウ云フコトヲ私ハ考ヘルノデス、
ソレカラ先程鳥ノ種類ヲ御指定ニナリマシ
タガ、是ハ色々舉ゲテアリマス、併シアレ
ハ實ニ不徹底ナモノデアツテ、何處デアノ
種類ヲ御研究ニナツタカ知リマセヌガ、マ
ア鷹司公爵ニデモ、或ハ黒田侯爵ニデモ御
相談ニナツタノカ知レマセヌガ、私ノ知ツ
テ居ル範圍デモ——私ハ犬ヤ猫ニ對シテハ
非常ニ興味ヲ持ツテ居ツテ、鳥ハ大概飼ツ
タカラ知ツテ居マスガ、アノ中デモ抜ケテ
居ルノガアル、ソレデ指定シテアレバソレニ
課ルガ、指定シテナケレバソレニ課カラヌ、
ダカラ寧ロ金額デ列舉的ニヤツテ、三圓
以上ノモノニハ課稅ヲナツタ方ガ平衡デ
ヤナイカト思ヒマスガ、アノ種類ハ如何ニ
シテ御調ベニナツタノデスカ

○大矢政府委員 此ノ課稅對象トナル小鳥
ノ種類ニ付キマシテハ、當業者ノ意見ヲ十
分ニ聽取致シマシテ、サウ云フコトニ致シ
タ次第アリマス
○道家委員 是以上ハ意見ニナリマスカラ、
参考マデニ承ツテ置イテ、此ノ程度ニ致シ
テ置キマス、私ハ是デ終リマス

○堀切委員長 ソレデハ板谷君
○板谷委員 私ハ本案ニ對シテ、各委員諸
君ヨリ詳細ニ質疑應答ガ重ネラレマシタノ
デアリマスカラ、出來ルダケ重複ヲ避ケル
積リデアリマス、併シナガラ今日マデノ政
府當局ノ御答辯ノ中、不滿ノ點モアリ、又
疑ヲ質サナケレバナラス點ガアリマスルノ
待シテ居ル所ガアルノデハナイカ、勿論此

デ、此ノ意味ニ於キマシテ別箇ノ觀點ヨリ、
成ルベク簡單ニ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、
先づ第一ニ財政問題ニ付キマシテ、今日マ
デ豫算總會或ハ本委員會ニ於キマシテ、色
色質疑ガ重ネラレタノデアリマス、大臣ハ
我國ノ將來ノ財政ニ對シテ、極メテ樂觀的
トテ無理カラヌ、其ノ御衷情ヲ御察シ申
上ゲル、私モ敢テ悲觀スル意味デハナイガ、
ナ御答辯ニナツテ居ラレタ、現在ノ御立場
ニ於キマシモヤハリ同ジ氣持デアラウト思フ
ノデアリマス、ソコデ今度ノ稅制改正ニ對シ
併シ私ハ樂觀ヲシテ居ラヌ、恐ラクハ國民ニ
於キマシモヤハリ同ジ氣持デアラウト思フ
ノデアリマス、ソコデ今度ノ稅制改正ニ對シ
テ、增收ヲ圖ルト共ニ、彈力性ガアルト云フ
コトガ要綱ニモアリ、又屢々サウ云フ意味ノ
コトヲ仰シヤツテ居ルガ、私ニハ能ク分ラ
ナイ、或ハ此ノ彈力性ト云フコトハ、上ニア
ルノカ、下ニアルノカ、或ハ又間接稅方面
ニアルノカ、此ノ點ニ付キマシテ一ツ御説
明ヲ願ヒタイ

更ニ今回ノ支那事變ハ勿論中央政權ガ假
ニ出來マシテモ、何時解決スルカ見込ガ付
カヌ、所謂長期戰デアル、隨テ現在ニ於テ
モ既ニ百六十五億カラノ金ヲ使ツテ居ル
ガ、マダ前途ニ對シテモドレダケノ金ガ要ル
カ分ラヌ、隨テ赤字公債モ發行セネバナラ
ス、又事件費ノ一部ヲ租稅ニ依ツテ賄フト
云フコトモ、是ハ當然ノコトデアリマセウ
ガ、只今申上ゲマスル通り、前途ノ財政ノ
見込ガ付カヌ關係カラ、國民ニ於テハ前途
ニ非常ナ不安ヲ持ツテ居ル、ソコデ私ハ此
ノ支那事變解決ニ對スル費用、之ヲ將來ニ
於テ國民全部ニ負擔ヲシロト云フコトハ、
事實ニ於テハ中々困難ダト思フ、又國民ノ
頭ノ中ニモ、此ノ支那事變ニ對シテ何カ期
待シテ居ル所ガアルノデハナイカ、勿論此

ノ度ノ支那事變ハ東洋平和ノ爲メ、八紘一
宇ノ理想ヲ實現スル、是ガ大ナル目的デア
ルト云フコトハ言フマデモナイコトデアリ
マス、又近衛聲明ニ於テ、領土ハ取ラヌ、
或ハ償金ハ取ラヌ、是モ我國ノ根本方針デ
アルト云フコトハ言フマデモナイ、併シナ
カラ今日マデ多大ノ犠牲ヲ拂ツテ、之ニ求
ムル所ガ必ズ私ハ國民ノ頭ニアルト思フ、
國民ハ時局柄何モ言フコトハ出來ナイノデ
スカラ默ツテ居リマス、デアルカラ子孫永
久ニ、此ノ事件費ノ大部分ヲ負擔サセルト
考フコトニ付テハ、政府當局トシテ大イニ
スカラ默ツテ居リマス、デアルカラ子孫永
久ニ、此ノ事件費ノ大部分ヲ負擔サセルト
考フベキモノデアルト思フ、ソコデ私ハ此
ノ事件費ニ對シテハ、一般會計カラ切離シ
テ、將來ニ於ケル財政政策ヲ立テベキモノ
デハナイカト考ヘルノデアリマスガ、藏相
ハ之ヲ如何ニ御考ニナツテ居リマスカ
○櫻内國務大臣 第一ニ御尋ニ相成リマシ
タノハ、今回ノ增稅ノ建前ノ中デ、彈力性
ノアルト云フコトヲ高調シテ居ルガ、ソレ
ハ何處ノ點ニ彈力性ガアルノデアルカ、是
ハ私共最初カラ申シテ居ル言葉デアリマス
ガ、此ノ度ノ改正ニ依ル分類所得稅ハ比例
稅率ニ依リマシテ、若シ事情ガ許シマスナ
ラバ、此ノ比例稅率ヲ利用致シマシテ、將
來若シ財政ノ餘地ガ出來マシタナラバ、比
例稅率ヲ下ゲル、又ドウシモ經濟上ノ變
化ガ大キイ、又特別ナル事態ガ起リマシテ
ラバ、此ノ比例稅率ヲ必要トスル場合ニ於テハ、此ノ
比例如稅率ヲ改メルト云フ事ハ、他ノ法文其
ノ他ニ聯關シテ行ハズシテ、單純ニ爲シ得ル
ト云フノデアリマス、又此ノ比例稅率ニ付
キマシテ、上ノ方ヲ多く取ルカ、下ノ方ヲ
多く取ルカト云フ御話デアリマスガ、是ハ
申スマデモナク實際上ノ實情ニ即シテ考へ

ナケレバナラヌコトデアリマシテ、今日ハ現在提案致シマシタ税率ニ於テ、大體經濟界ニ大ナル打撃ヲ與ヘズシテ行クモノト考ヘ、先づ適當ナリト考ヘテ提案致シタヤウナ譯デアリマス、ソレカラ支那事變ノ前途ガ長期戰デアルコトハ固ヨリデアツテ、之ニ對シテハ巨額ノ費用ヲ要スル、隨テ今日マデ既ニ百六十五億圓ノ費用ヲ使ツテ居ルガ、更ニ前途多クノ費用ヲ要スル、大藏大臣ハ之ニ對シテ樂觀的考ヲ持ツテ居ルガ、併シナガラ國民ノ多クハ前途ニ對シテ、非常ナ不安ヲ有シテ居ルト云フ風ナ御話デアリマスガ、私ハ實際ノ事實ヲ申シテ居ルノデアリマシク、即チ今回ノ增收ガ今後數年起ル所ノ事件費即チ現在ノ事件費ガ大ナル變化ノナイ場合ニ於ケル所ノ事件費ノ元利償還ノ途ニ當ル部分ニ適當ヲスルモノデアツテ、其ノ以外ニ自然增收等モアルカラ、此ノ増稅ハ左様ナコトヲ目標ト致シタノデアリマスガアルケレドモ、實際ノ問題トシテハ之ニ對シテ相當ノ効キヲ致スモノデアル、又ソレニ對シテ何等不安ノ考ヲ持ツテ居ナイ、斯ウ申上ゲルノデアリマスガ、此ノ前途ニ對シテ左様ニ樂觀シテ居ルカト申シマスト、サウデハナイ、今日ノ經濟界ノ發展性ヲ持續シテ行キ、サウシテ更ニ將來ノ發展ヲ期待致シマスノニハ、總テノ方面充計畫ニ付キマシテ、萬遺算ナキヲ期サナケレバナラヌノデアリマシテ、一面ニ於テハ物價政策ニ於テ誤ツテ相成リマセヌ、又生産擴張ノ實ヲ舉ゲテ行クト云フコトニナリマシタナラバ、今回投ジマシクル所ノ軍事費ニ付ケテ論ズルト云フコトハ、私ハ筋違ヒデノ致シマシテ、雙方ノ利益ヲ圖リ、互助連環ノ實ヲ結合シテ行クト云フコトニナリマシタナラバ、同時ニ依ツテ東亞永遠ノ平和ト云フモノガ招來サレルノデハナカラウカ、斯様ニ云フ事柄ガ必要デアリマシテ、唯徒ニ樂

觀ヲシテ居ルモノデハナクシテ、此ノ難關ヲ突破致スノニハ餘程ノ決心ト努力ガ必要デアル、其ノ點ハ非常ナ決心ヲ要スルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ板谷君ガ御心配ニナツテ居ルノト同ジニ心配ヲ致シテ居ルノデアリマスケレドモ、併シ決シテ悲觀ヲ致シテ居ルモノデハナインデアリマス、ソレカラ此ノ事件ニ對シテ非常ナ巨額ノ金ヲ要スル、此ノ非常ナ巨額ノ金ヲ要シタノヲ、國民ノ負擔ニ於テノミヲ處理シテ行クト云フ事柄ハ、是ハ間違ツテ居ナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ勿論今回ノ聖戰ニ於テ償金ハ取ラナイ、土地ハ取ラナイト云フコトヲ明ニ致シテ居ルノデアリマシテ、事變ガ終了致スト同時ニ、是マデ掛ツタ費用ヲ直ニ賠償金デ之ヲ取ルトカ、或ハ其ノ他ノ代償品ニ依ツテ之ヲ補充シテ行ク途ヲ取ルトカ云フコトハ、今日政府トシテ考ヘテ居ナイ所デアリマスガ、併シ日滿支ノ間ニ經濟合作ヲ行ツテ、而シテ其ノ經濟的共存共榮ニ依ツテ得ル所ノモノガ決シテ私ハ尠クナイト思フ、今回或ハ二百億掛リマスカ、二百五十掛リマスカ、ソレハマダ確定的ニハ豫想ハ出來マセヌケレドモ、併シナガラソレニ對シテ將來、今回ノ事變ヲ契機ト致シマシテ、日支兩國民、併セテ滿洲ノ國民ガ心カラナル經濟上ノ提携ヲ致シマシテ、雙方ノ利益ヲ圖リ、互助連環ノ實ヲ舉ゲテ行クト云フコトニナリマシタナラバ、同時ニ依ツテ東亞永遠ノ平和ト云フモノガ招來サレルノデハナカラウカ、斯様ニ云フ事柄ガ必要デアリマシテ、唯徒ニ樂

觀ヲシテ居ルモノデハナクシテ、此ノ難關ヲ突破致スノニハ餘程ノ決心ト努力ガ必要デアル、其ノ點ハ非常ナ決心ヲ要スルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ板谷君ガ御心配ニナツテ居ルノト同ジニ心配ヲ致シテ居ルノデアリマスケレドモ、併シ決シテ悲觀ヲ致シテ居ルモノデハナインデアリマス、ソレカラ此ノ事件ニ對シテ非常ナ巨額ノ金ヲ要スル、此ノ非常ナ巨額ノ金ヲ要シタノヲ、國民ノ負擔ニ於テノミヲ處理シテ行クト云フ事柄ハ、是モ將來考慮致スルト繼續ヲ致スノデアリマシテ、將來之ニ對シテドノ位軍費ガ掛ツタト云フコトハ、一目瞭然ニナルヤウニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、御話ノ如ク制度的ニハ未ダ考ヘテ居リマセスケレドモ、是モ將來考慮致スベキ問題デアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス。

○板谷委員 今回ノ稅制改正ハ彈力性アリヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、私ハ後ニ數字的ヲ擧ゲテ御参考ニ供シタイト思ヒマス、ソレカラ申スマデモナク國家有事ノ際ニ於テハ、國民ガ財產ヲ投出シテモ其ノ難ニ赴クト云フコトハ當然ノ義務デアリマス、是ハ言フマデモナイコトデアリマス、併シナガラ此ノ恆久的ノ稅制改革ヲ愛國心ニ結ビ付ケルノハドウカ、斯ウ申シマスルコトハ、御承知ノ通リ一面ニ於テ生產力擴充、物資ガ非常ニ缺乏シテ居ルカラ、之ヲ何トカシナケレバナラヌ、又一面ニ於テ低物價政策ヲ堅持スルト云フ建前ニナツテ居ルコトデアリマスカラ、之ヲ愛國心ニ結ビラ御指摘ヲ願ヒマス、此ノ度ノ戰爭ニ非常ナ巨額ノ金ヲ要スル、其ノ費シタ費用ヲ將來ドウシテ補ツテ行クカト云フコトニ付キマシテハ只今モ申シ、又曩ニモ、今御引例ニナツタ通り申シマシタ、即チ支那ト日本トノ經濟的合作、此ノ合作ニ依ツテ所謂脣齒輔車ノ關係ニ於テ相互ニ提携シテ行ツテサウシテソレニ依ツテ利益ヲ生ミ出スコトガ出來得ルコトト相成ルヤウニ考ヘルノデアリマシテ、例ヘテ言ヘバ石炭ノ開發ニ致シマシテモ、鐵山ノ開發ニ致シマシテモ、或ハ水產業ノ開發ニ致シマシテモ、有ユルノ利益ハ茲ニ生ジテ來ルノデハナカラウカ、斯ルヤウニ、一朝國ノ重大ナ場各ニ於テハナイカト考ヘテ居ル、勿論今申上ゲマスルカモ知レマセヌガ、間違ツテ居リマシタニナツタ通リ申シマシタ、即チ支那ト日本トノ經濟的合作、此ノ合作ニ依ツテ所謂脣齒輔車ノ關係ニ於テ相互ニ提携シテ行ツテサウシテソレニ依ツテ利益ヲ生ミ出スコトガ出來得ルコトト相成ルヤウニ考ヘルノデアリマシテ、例ヘテ言ヘバ石炭ノ開發ニ致シマシテモ、鐵山ノ開發ニ致シマシテモ、或ハ水產業ノ開發ニ致シマシテモ、有ユルノ上ニ於テ非常ナ不安デアル現在ノ狀態ニ於テハ、ソレハ私ハドウカト思フ、ソコデ

ヲ特別會計ニ致シテ、此ノ事變ニ掛ツタ費用ヲ明ニシテ置クガ宜イノデハナイカト云フ御話デアリマスガ、御承知ノ通リ今回ノ臨時軍事費ト云フモノハ年度ニ區切ツテ居リマセス、即チ當初カラ之ヲ一本建ニシテズツト繼續ヲ致スノデアリマシテ、將來之ニ對シテドノ位軍費ガ掛ツタト云フコトハ、一目瞭然ニナルヤウニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、御話ノ如ク制度的ニハ未ダ考ヘテ居リマセスケレドモ、是モ將來考慮致スベキ問題デアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス。

○櫻内國務大臣 私ノ取り方ガ間違ツテ居ルカモ知レマセヌガ、間違ツテ居リマシタナラバ、同時ニ依ツテ東亞永遠ノ平和ト云フモノガ招來サレルノデハナカラウカ、斯様ニ云フ事柄ガ必要デアリマシテ、唯徒ニ樂

互助連環ノ状態ヲ持続シテ参リマスナラバ、ソレガ齋ス所ノモノハ單ニ日本ニ大キナ利益ヲ齎スノミナラズ、支那ノ國民ニモ大キナ利益ヲ興ヘルノデアリマス、雙方トモ之ニ依ツテ尠ナカラザル利益ヲ得ルデアラウ、即チ今回投ジマシタ所ノ費用ハ之ヲ償ヒ得テ餘リアルヤウナ状態ヲモ招來シ得ルコトガアルノデハナカラウカ、是ハ國民ノ協力ト努力ニ俟ツノデアリマスケレドモ、從來相反目シテ居ツタ時代ト、互ニ心カラ提携シテ行クコトガ出來ルヤウニナツタ時代トデハ、自ラソコニ相違ガ起リマシテ、日本國民ノ利益ニナルコトモ亦起ツテ來ルノデアリマスガ故ニ、其ノ利益ヲ考へ得ベキデハナカラウカ、斯様ニ考へテ申上ゲタ次第デアリマス、税制ニ付テ今日國民ノ愛國心ニ結付ケテ考ヘルコトハ間違ツテ居ルデハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、ソレハ御話ノ如ク日本ノ國民ハ愈、ト云フ場合ニ於テハ、單ニ財産ノミナラズ總テ自分ノ一身ヲ捧ゲテ行ク國民性デアリマスガ故ニ、何モ故ラニ税ノ上ニ於テ愛國心ニ懇ヘシ此ノ度ノ税制ニ於キマシテ或ル程度ノ、即チ言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、相當ノ増税ヲ國民ニ負擔シテ戴クト云フ事柄ハ、私ハ愛國心ニ懇ヘルト云フ譯デハアリマセヌケレドモ、現在ノ實情ニ照シテ負擔ヲシテ戴クト云フコトヲ御願シテモ、私ハ國民トシテ諒解ヲ得ラレルノデハナカラウカ、斯ウ考心テ居ルノデアリマシテ、何モソレヲ愛國ニ懇ヘテ増税ヲスルノデアルト云フ一本調子ニ考ヘテ居ルモノデハナイノデアリマス子ニ考ヘテ居ルモノ只今ノ御答辯ハ不満足○板谷委員　ドウモ只今ノ御答辯ハ不満足

デアリマスガ、御互ニ議論シテモ仕方がナ
ソコデ此ノ度ノ税制改正案ニ對スル政府
ノ御答辯ヲ檢討シテ見マスト、率直ニ申シ
マスト極メテ不得要領、或ハ經濟諸政策ト
調和ヲ圖ツタト云フヤウナコトヲ言ツテ居
ラレル、併シナガラ果シテ政府ガ堅持シナ
ケレバナラヌト云フ生産擴充或ハ低物價政
策トノ間ニ大ナル矛盾ガナイカ、是ハ各委
員カラモ色々御尋ガアリ、又先程商工大臣
ノ御答辯ニ於キマシテモ相當ノ矛盾ガア
ル、ソレヲ出來ルダケ何トカ調和スルト云
フヤウナ答辯ヲサレテ居ル、併シナガラ恐
ラクハ今回ノ税制改正ハ、政府ハ四大目
標ノ下ニ發表サレテ居リマスルケレドモ、
所謂增收ト云フモノヲ唯一ノ目標トシテ本
案ヲ立テラレタノデハナイカト私ハ思フ、
私ハ若シ大藏大臣ガ十分ニ時間ヲ持ツテ居
ラレタナラバ、恐ラクハ此ノ案ニ對シテ再
檢討ヲ加ヘテ適當ニ御考ニナツタノデハナ
イカト思フ、御承知ノ通り前事務官大臣ガ
案ヲ立テ税ヲ取る方ニ集中ヲシタ、ソレ
ニ付テアナタガ此ノ度ノ組閣匂々十分ニ檢
討ナサル期間ハナカツタカモ知レナイガ、
甚ダ失禮デハアリマスケレドモ、果シテア
ナタガ此ノ案ノ内容ヲ十分檢討シテ、確信
ヲ持ツテ御答辯ニナツテ居ルカドウカ、今
日マデ御答辯ノ内容ヲ聽イテ見マスト、今
申上ゲマスヤウニ增收ヲ唯一ノ目的トシテ
此ノ案ガ立テラレタト云フコトガ御答辯ノ
中ニ明ニナツテ居ル、ソコデ現在ノ我國ノ
經濟界ノ狀況ハ、國民ニ幾ラカ餘裕ヲ與ヘ
テ、生産擴充ヲヤラナケレバナラヌノニ、
國民ニ餘裕ヲ與ヘズシテ、ヤレ生産擴充ヲ
ヤレ、或ハ低物價政策ハ堅持セヨ、國策ニ

ハ順應セヨト言ハレテ居ルガ、率直ニ申上
ゲマスナラバ、手足ヲ縛ツテ尻ヲ叩イテ居
ルヤウナコトニナツテ居ルノデハナイカト
思フ、或ハ言葉ガ極端デアルカモ知レマセ
スケレドモ、私ハサウ云フ感ジガスルノデ
アリマス、ソコデ恐ラクハ此ノ改正案ノ通
過シタル結果、含ミアルモノ、内容ノアル
モノハ殆ド大部分ノ金ヲ取ラレテシマフ、
御承知ノ通り現在ハ金利ガ安イト云フヤウ
ナ關係カラ、借金デ仕事ヲシタ方ガ宜イド
云フヤウナ結果ニナリハシナイカ、國民ニ
幾ラ働イテモ駄目ダト云フヤウナ觀念ヲ起
サセルト云フコトハ、前途ニ對シテ非常ニ
憂慮すべき問題デハナイカト思フ、御承知
ノ通り現在國民ハ時局柄何モ言フコトガ出
來ナイ、言フコトノ出來ナイ所ニ私ハ此ノ
危險性ガアルノデハナイカト思フ、將來東
亞ノ新秩序建設ト云フ重大使命ガアリマス
カラ、實力ヲ培養スルト云フ所ニ重點主
義ヲ置イテ行カナケレバナラナイコトハ
言フマデモナイ、御承知ノ通り日米關係ニ
於テモ極メテ段々悪化シ、將來ニ於テハ日
本ハ自給自足ノ方針ヲ執ツテ行カナケレバ
ナラヌ、サウ云フ事態ニ於テ、果シテアナ
タハ、此ノ重大時局ヲ切抜ケルニ付テノ確
信ヲ持ツテ居ラレルカ、アナタハ屢一割以
下ノモノニハ課稅シナイ、ソレ以上ノモノノ
ハ取ルゾダト云フコトヲ仰シヤツテ居ルケ
レドモ、此ノ改正ノ結果、有ユル法人ガ六
七分程度ノ配當デ甘ンズル爲、將來稅ノ增
收ノ上ニ於テモ、或ハ自然增收ノ上ニ於テ
モ私ハ大イナル狂ヒガ來ルノデハナイカト
思フ、此ノ點ニ付テ確信ガアリマスカ

分ナ検討ヲ致シタカドウカト云フ御尋デアリマスガ、確信ヲ以テ提
出ヲシタカドウカト云フ御尋デアリマスガ、確信ヲ以テ提
御承知ノ通り私ハ一月ノ申頃ニ大命ヲ拜シ
タノデアリマスガ、此ノ法案ハ申スマデモ
ナク昨年以前ニ於テモ私ト致シマシテハ衆議院
併シ是ハ重大ナ問題デアリマスノデ、就任
以來相當ニ検討ヲ致シタノデアリマス、又
就任以前ニ於テモ私ト致シマシテハ衆議院
議員トシテ、國民ノ代表者ノ地位ニ立ツテ
之ニ付テハ相當研究致シタノデアリマス、又
固ヨリ是ガ理想的ナ完璧ノ法案ダトハ私ハ
思ヒマセヌケレドモ、鬼ニ角朝野ノ有ユル
有力ナル人ヲ網羅シタ稅制委員會ガ二十八
回モ會議ヲ重ネテ審議シ、其ノ以前ニハ政
府ノ當事者ニ於テモ之ヲ練リニ練ツテ、而
モ數年來練ツタ案デアリマシテ、而シテ茲
ニ成案ヲ得タノデアリマスカラ、私ハ相當
敬意ヲ表シテ此ノ案ニ對シテ研究致シテ來
タノデアリマス、隨テ私ハ之ヲ提案致シテ
御協賛ヲ御願シテ然ルベキモノダト信じテ
提案致シタ譯デアリマス

ソレカラ第二ニ、增收ヲ唯一ノ目的トシ
テ居ルト仰セラレマスガ、固ヨリ增收ト同
時ニ彈力性ヲ有スル稅法ヲ得タイ、是ハ豫
テカラ申ス通り、增收ハ今回ノ稅制改革ノ
四大眼目ノ一つニナツテ居リマス、而モ其
ノ中ノ有力ナルツノ題目デアルニハ相違
アリマセヌガ、是ガ唯一ノ目的デアルト云
フノデハナイノデアリマス

ソレカラ次ニ、東亞新秩序建設ヲ達成致ス
ニハ、將來非常ニ國本ヲ培養シテ置カナケ
好クナイ、此ノ機會ニ於テ國民ニ十分ナル
レバ其ノ目的ハ完成出來ナイノダ、殊ニ亞
米利加ノ空氣モ惡イシ、國際情勢モ決シテ

仰セラレマスガ、私ハ全ク板谷君ノ御説ニ同感デアリマス、若シ日本ノ財政ガ増税ヲスルノ必要ハナイ、又増税ヲ俟タズシテ處理シテ行ケル、斯様ナル事柄ニ付テ十分ノ確信ガ得ラレマスナラバ、私ハ板谷君ノ御説ト同様ニ、左様ナル方針ニ向ツテ參リタイト思ヒマス、併シナガラ今日ノ財政ハ左様ナ餘地ガアルトハ考ヘマセヌノミナラズ、多年ノ懸案デアツタ此ノ税制改革ガ今日マデ延ビテ居リマシタコトハ、既ニ申シタカモ知レマセヌケレドモ、丁度支那事變ガ始リマシテ、是ガ半年カ一年若クハ一年半デ済ムデアラウト云フノデ、延ビトニナツテ居ツタノデアリマスガ、此ノ際ニ於テ、既ニ長期建設ト云フモノガココ數箇年間デ終了致サナイト云フコトニナリマスナラバ、此ノ機會ニ於テ之ヲ斷行スルコトガ必要ナコトデアルト考ヘテ、此ノ提案ノ決意ヲ致シタ譯デアリマス、而シテ此ノ國難打開ニ對シテ確信ヲ持ツテ居ルカト云フ御話デアリマスガ、ソレハ極メテ重大ナコトデアリマス、私ハ今後ノ國際情勢ガ如何ニ變化シテモ日本ガ微動ダモセザル體制ヲ強化シテ行クニ付テハ、吾々トシテハ非常ナ決心ヲ致ス必要ガアルト思ヒマスト同時ニ、之ニ對處スルニハ少カラズ細心ノ注意ヲ拂ツテ進ンデ行カナケレバナラヌト考ヘテ居リマスミ併シナガラ私ハ其ノ困難ヲ突破シテ行クト云フコトニ付テハ毫末モ疑ヒマセヌ、私ハ日本國民ガ眞ニ協力シテ進ンデ行クナラバ、此ノ難關ヲ突破シ得ルト信ジテ居ル次第アリマス

○板谷委員 議會ガ多年中央地方ヲ通ズル税制改革ヲ要望シテ居ツタガ、何モ此ノ支那事變デ經濟界ガ動搖シテ居ル此ノ際ニ、ガ宜イト云フ調査ノ結果修正致シタノデア

像サレルノデアリマス、御承知ノ通り劃期的大增税ヲズルト云フコトニ付テハ、地税ニ付キマシテモ相當ノ準備ノ必要ガアル、或ハ國稅ニ於キマシテモイキナリ――デモナイカモ知レスガ、兎ニ角此ノ大増税案ヲ國民ニ能ク納得ヲサセ、氣持好ク納メサセルト云フコトニ付テハ、ヤハリ少クモ二年、三年ノ時日ヲ要スベキモノダト思フ、ソコデアナタハ今此ノ税制改革ニ付テハ二十八回モ各方面ノ權威者ヲ集ヌテヤツタノデアル、自分ハ其ノ意思ヲ尊重シ、此ノ案ガ相當ノモノデアルト云フ確信ノ下ニ提案シタ云フ御話デアリマスガ、アナタハ其ノ鑑込シタノデアリマスカ、今ノ尊重ナスツテ行ク御考デアリマスカ、今ノシタノ御言葉ニ依レバサウ云フ風ニ取レルノデアリマスガ……

○櫻内國務大臣 只今ノ御尋ハ、此ノ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタカドウデアルカト云フコトデアリマスガ、私ハ此ノ案ハ税制調査會ノ答申ヲ十分ニ尊重シテヤツタモノト考ヘマス、多少ハ相違シタモノガアルカモ知レマセヌガ、大體ノ基本ハ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタノデアリマスガ、最モ重大ナ案デ……

○櫻内國務大臣 私ハ此ノ税制調査會ノ答申ヲ修正シテ直シタモノガドレト云フ件ニ付テ政府ノ原案ト違ツタ點ガアルナラバ、之ヲ修正スルコトニ付テ御同意ニナリマスカ、最モ重大ナ案デ……

○櫻内國務大臣 私ハ此ノ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタノデアリマスカ、最モ重大ナ案デ……

○板谷委員 若シ此ノ答申案中ニ重大ナ條項ニ付テ政府ノ原案ト違ツタ點ガアルナラバ、此ノ點ニ付テハ毫末モ疑ヒマセヌ、私ハ日本國民ガ眞ニ協力シテ進ンデ行クナラバ、此ノ難關ヲ突破シ得ルト信ジテ居ル次第アリマス

○板谷委員 議會ガ多年中央地方ヲ通ズル税制改革ヲ要望シテ居ツタガ、何モ此ノ支那事變デ經濟界ガ動搖シテ居ル此ノ際ニ、ガ宜イト云フ調査ノ結果修正致シタノデア

強ヒテヤルト云フ必要ハナイヤウニ私ハ想像サレルノデアリマス、御承知ノ通り劃期的大增税ヲズルト云フコトニ付テハ、地税ニ付キマシテモ相當ノ準備ノ必要ガアル、或ハ國稅ニ於キマシテモイキナリ――デモナイカモ知レスガ、兎ニ角此ノ大増税案ヲ國民ニ能ク納得ヲサセ、氣持好ク納メサセルト云フコトニ付テハ、ヤハリ少クモ二年、三年ノ時日ヲ要スベキモノダト思フ、ソコデアナタハ今此ノ税制改革ニ付テハ二十八回モ各方面ノ權威者ヲ集ヌテヤツタノデアル、自分ハ其ノ意思ヲ尊重シ、此ノ案ガ相當ノモノデアルト云フ確信ノ下ニ提案シタ云フ御話デアリマスガ、アナタハ其ノ鑑込シタノデアリマスカ、今ノ尊重ナスツテ行ク御考デアリマスカ、今ノシタノ御言葉ニ依レバサウ云フ風ニ取レルノデアリマスガ……

○櫻内國務大臣 只今ノ御尋ハ、此ノ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタカドウデアルカト云フコトデアリマスガ、私ハ此ノ案ハ税制調査會ノ答申ヲ十分ニ尊重シテヤツタモノト考ヘマス、多少ハ相違シタモノガアルカモ知レマセヌガ、大體ノ基本ハ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタノデアリマスカ、最モ重大ナ案デ……

○櫻内國務大臣 私ハ此ノ税制調査會ノ答申ヲ尊重シテヤツタノデアリマスカ、最モ重大ナ案デ……

○板谷委員 答申案ハ多數デアルカ少數デアルカ私ニハ分ラナイ、併シナガラ其ノ中ニハ無論役人ノ方モアルデアリマセウガ、役人ノ方ハ出來ルダケ税ヲ取ラウト云フ、大臣ノ仰シヤル各方面ノ權威者ト云フノハ要スルニ民間ノ經驗アル或ハ學者ダトカ、要スルニ民間ノ經驗アル或ハ學者ダトカ、サウ云フヤウナ人ヲ指スコトト思フノデアリマス、苟モ答申ト云フモノガ多數デアルカ少數デアルカト云フコトハ此ノ書面ノ上デハ明カデナイン、併シ私ハ大臣ガ屢々、各方面ノ權威者ヲ集メテ二十八回モヤツタ案デアルカラ自分ハ之ヲ適當ト認メテ出シタノダ、斯ウ云フ御言葉デアルガラ私ハ今念ヲ押シタノデス、所ガ御答辯ガドウモ屢々、各

リマシテ、今御指摘ニナリマシテモ、直チニ私ガ修正ニ御同意ヲ申上ゲルト云フコトハ申上ゲ兼ネマスガ、ソレヲ修正致シマシタ點ハ、是ハヤハリ修正シタ方策ムルモ左記事項ニ付テハ修正又ハ考慮ヲ

程度ニシテ置キマス、併シ答申案ト云フモ
ノハ尊重ナサル必要ガアルト私ハ信ズル

○櫻内國務大臣 鬼ニ角此ノ案ヲ決定致シ
マスノニハ、稅制調査會ノ意見ト云フモノ
ハ十分尊重シテ持ヘタ譯デアリマシテ、全
部其ノ儘採ツタ云フ意味デハナイノデア
リマス

○板谷委員 ソコデ私ハ此ノ改正案ガ、果
シテ國民ニ擔稅力ガアルヤ否ヤ、國民ガ此
ノ稅ノ負擔ガ出來ルカドウカト云フコトガ
現在ノ我國ノ經濟界ニ於テ私ハ重大問題ト
思フ、先般統計局長ヲ呼ンダ際ニ、一體國民
ノ所得ハ幾ラアルカト云フコトヲ質問シタ
スガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ト主稅局長ト
五億カラノ食運ヒガアル、或ハ又國民ノ生
活ノ上ニ於テ何等不安ガナイ、物資ガ非常ニ
缺乏シテ居ツテ、國民ガ非常ニ現在苦シン
局トシテハ、主稅局長ハ二百五十五億モア
レハ或ハ相當ナ餘裕ガアルカモ知レヌガ、
先づ第一ニ物資ノ缺乏シテ居ルト云フコト
ニ付テ國民生活ノ上ニ於テ不安ガナイ、是
モ相當ニ考慮シタ、斯ウ云フ御答辯デアル
ガ、此ノ點ヲモットハツキリ一ツ御教ヲ願
ヒタイ

○櫻内國務大臣 國民所得ノ問題ニ對シテ、
政府當局ノ話ス所ハドウモ違フデハナイカ
ト云フ御話デアリマスガ、私ガ豫算總會デ
申上げマシタノハ、主稅局デ調べテ居リマ
ス二百五十五億ト云フ數字ヲ記憶致シテ居
リマシテ、ソレデ二百五十億見當ト云フコ
トヲ大體ニ申シタノデアリマス、其ノ後統
計局、其ノ他ノ方面モ調べテ見マシテ、私
ハ今日デモヤハリ二百五十億内外ハ確實ニ
リマシテ、統計局ハ二百五十億ノ國民ノ所得
收入ガアルデハナイカ、斯ウ信ジテ居リマ
ス、唯統計局ハ昭和十年ニ調查致シタ此ノ
方、所謂具體的調查ヲ致シテ居ラヌノデア
リマシテ、統計局ハ二百五十億ノ國民ノ所得
收入ガアルド云フコトハ申サナカツタヤウデ
ナラナイ點ハ、此ノ物資ノ缺乏ヲ補ツテ行
は少クトモ二百五十億ハアルト云フコトニ
是ハ重大ナ問題ダト思フ、先程申上げマシ
タヤウニ、鬼ニ角前途或ハ國際情勢ニ於テ
自分ハ見當ヲ付ケテ居ル、斯様ナ譯デアリ

如何ナル變化ガアルカ分ラナイカラ、或ル
物價政策ヲ第一義シテ此ノ際進マケレ
バナラスト云フ重大ナ時機デアル、所ガ今
申上ゲルヤウニ、此ノ國民所得ニ對シテ私
ハ非常ナ疑フ持ツテ居ル、政府當局ノ御答
辯ガ區々デアツテ、一向要領ヲ得ナイノデ
シテ國民ニ擔稅力ガアルヤ否ヤ、國民ガ此
ノ稅ノ負擔ガ出來ルカドウカト云フコトガ
現在ノ我國ノ經濟界ニ於テ私ハ重大問題ト
思フ、先般統計局長ヲ呼ンダ際ニ、一體國民
ノ所得ハ幾ラアルカト云フコトヲ質問シタ
スガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ト主稅局長ト
五億カラノ食運ヒガアル、或ハ又國民ノ生
活ノ上ニ於テ何等不安ガナイ、物資ガ非常ニ
缺乏シテ居ツテ、國民ガ非常ニ現在苦シン
局トシテハ、主稅局長ハ二百五十五億モア
レハ或ハ相當ナ餘裕ガアルカモ知レヌガ、
先づ第一ニ物資ノ缺乏シテ居ルト云フコト
ニ付テ國民生活ノ上ニ於テ不安ガナイ、是
モ相當ニ考慮シタ、斯ウ云フ御答辯デアル
ガ、此ノ點ヲモットハツキリ一ツ御教ヲ願
ヒタイ

○櫻内國務大臣 國民所得ノ問題ニ對シテ、
政府當局ノ話ス所ハドウモ違フデハナイカ
ト云フ御話デアリマスガ、私ガ豫算總會デ
申上げマシタノハ、主稅局デ調べテ居リマ
ス二百五十五億ト云フ數字ヲ記憶致シテ居
リマシテ、ソレデ二百五十億見當ト云フコ
トヲ大體ニ申シタノデアリマス、其ノ後統
計局、其ノ他ノ方面モ調べテ見マシテ、私
ハ今日デモヤハリ二百五十億内外ハ確實ニ
リマシテ、統計局ハ二百五十億ノ國民ノ所得
收入ガアルデハナイカ、斯ウ信ジテ居リマ
ス、唯統計局ハ昭和十年ニ調查致シタ此ノ
方、所謂具體的調查ヲ致シテ居ラヌノデア
リマシテ、統計局ハ二百五十億ノ國民ノ所得
收入ガアルド云フコトハ申サナカツタヤウデ
ナラナイ點ハ、此ノ物資ノ缺乏ヲ補ツテ行
は少クトモ二百五十億ハアルト云フコトニ
是ハ重大ナ問題ダト思フ、先程申上げマシ
タヤウニ、鬼ニ角前途或ハ國際情勢ニ於テ
自分ハ見當ヲ付ケテ居ル、斯様ナ譯デアリ

マシテ、具體的ニ材料ヲ以テ、所謂正確ナ
ル調査ニ依ツテ組立テラレタ所ノ金額ガ二
百五十億デアルト云フコトハ、私ハドウモ
バナラスト云フ重大ナ時機デアル、所ガ今
申上ゲルヤウニ、此ノ國民所得ニ對シテ私
ハ非常ナ疑フ持ツテ居ル、政府當局ノ御答
辯ガ區々デアツテ、一向要領ヲ得ナイノデ
シテ國民ニ擔稅力ガアルヤ否ヤ、國民ガ此
ノ稅ノ負擔ガ出來ルカドウカト云フコトガ
現在ノ我國ノ經濟界ニ於テ私ハ重大問題ト
思フ、先般統計局長ヲ呼ンダ際ニ、一體國民
ノ所得ハ幾ラアルカト云フコトヲ質問シタ
スガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ト主稅局長ト
五億カラノ食運ヒガアル、或ハ又國民ノ生
活ノ上ニ於テ何等不安ガナイ、物資ガ非常ニ
缺乏シテ居ツテ、國民ガ非常ニ現在苦シン
局トシテハ、主稅局長ハ二百五十五億モア
レハ或ハ相當ナ餘裕ガアルカモ知レヌガ、
先づ第一ニ物資ノ缺乏シテ居ルト云フコト
ニ付テ國民生活ノ上ニ於テ不安ガナイ、是
モ相當ニ考慮シタ、斯ウ云フ御答辯デアル
ガ、此ノ點ヲモットハツキリ一ツ御教ヲ願
ヒタイ

○板谷委員 主稅局長ハ、今私ガ申上ゲタ
コトニ對シテハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラ
レマスカ、一ツ伺ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 國民所得ノ點ニ付テノ御
調査シタ點ヲ顧ミテ、大體二百五十億ハ
スガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ト主稅局長ト
五億カラノ食運ヒガアル、或ハ又國民ノ生
活ノ上ニ於テ何等不安ガナイ、物資ガ非常ニ
缺乏シテ居ツテ、國民ガ非常ニ現在苦シン
局トシテハ、主稅局長ハ二百五十五億モア
レハ或ハ相當ナ餘裕ガアルカモ知レヌガ、
先づ第一ニ物資ノ缺乏シテ居ルト云フコト
ニ付テ國民生活ノ上ニ於テ不安ガナイ、是
モ相當ニ考慮シタ、斯ウ云フ御答辯デアル
ガ、此ノ點ヲモットハツキリ一ツ御教ヲ願
ヒタイ

如何ナル變化ガアルカ分ラナイカラ、或ル
物價政策ヲ第一義シテ此ノ際進マケレ
バナラスト云フ重大ナ時機デアル、所ガ今
申上ゲルヤウニ、此ノ國民所得ニ對シテ私
ハ非常ナ疑フ持ツテ居ル、政府當局ノ御答
辯ガ區々デアツテ、一向要領ヲ得ナイノデ
シテ國民ニ擔稅力ガアルヤ否ヤ、國民ガ此
ノ稅ノ負擔ガ出來ルカドウカト云フコトガ
現在ノ我國ノ經濟界ニ於テ私ハ重大問題ト
思フ、先般統計局長ヲ呼ンダ際ニ、一體國民
ノ所得ハ幾ラアルカト云フコトヲ質問シタ
スガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ト主稅局長ト
五億カラノ食運ヒガアル、或ハ又國民ノ生
活ノ上ニ於テ何等不安ガナイ、物資ガ非常ニ
缺乏シテ居ツテ、國民ガ非常ニ現在苦シン
局トシテハ、主稅局長ハ二百五十五億モア
レハ或ハ相當ナ餘裕ガアルカモ知レヌガ、
先づ第一ニ物資ノ缺乏シテ居ルト云フコト
ニ付テ國民生活ノ上ニ於テ不安ガナイ、是
モ相當ニ考慮シタ、斯ウ云フ御答辯デアル
ガ、此ノ點ヲモットハツキリ一ツ御教ヲ願
ヒタイ

ノ推移ノ狀況ヲ見テ、各年ノ國民所得ノ推移ヲ推定シテ見ル、其ノ方法ハ大正十四年ニ内閣統計局ニ於テ國民所得ヲ計算シ、更に昭和五年ニ於テ國民所得ヲ計算シタ場合ニ於テ、大正十四年ヨリ昭和五年ノ間ニ納マツテ居ル各年ノ所得ヲ推計スル場合ニ致シタ方法デアツテ、先づ日本トシテ現在ノ所、實際ニ國民所得ヲ調査シナイ各年分ニ付テハ、此ノ方法ニ依ルノガ一番妥當デアラウト思フ、隨ヒマシテ私共ハサウ云フ計算方法ニ依ツテ國民所得ヲ推計シテ居ルノデアリマスガ、ソレニ依リマスレバ最近ノハ二百五十五億圓ニナル、斯ウ云フコトダケ申上ゲテ置イタノデゴザイマス。

○板谷委員 私ガアナタニ御尋シタノハ、先般二百五十五億アツテ、平均ガ一七%ニナ

ルト云フヤウナ御話デアツタガ、何モ是ハ平均デ出ス筋合ノモノデナイ、ソコデ今回

ノ税制改正ニ付テ國民經濟ノ狀況、產業界ノ狀況、國民ノ生活ニ及ボス影響等、色々ノ方面カラ檢討シタト云フ御答辯ニナツテ居ル、物資ガ非常ニ缺乏シテ居ル、國民ガ非常ニ苦ンデ居ル、生產力擴充、低物價政

策ト云フモノヲ第一義トシテヤラナケレバナラス此ノ時代ニ於テ、アナタハ之ヲ斟酌シテ此ノ改正案ヲ作ツタト云フ御答辯ニナ

○大矢政府委員 此ノ度ノ税制改革ニ於キマシテハ此ノ點ニ觸レタモノカト存ジマス、御話ノヤウニ最近色々ナ方面ニ於テ

資ガ缺乏シテ、相當國民生活ニ於テモ困難ヲ來シテ居ルト云フ事實ガアルノハ、私共モ十分承知シテ居ルノデアリマス、併シナ

ガラ一面ニ於テ會社ノ利益率ノ例年ノ狀況ヲ見マシテモ、拂込資本ニ對スル利益率ハ、是

ガ昭和九年ニハ八%餘ニナリ、十年ニハ九%餘ニナリ、十一年ニハ九%九ニナリ殆ド一〇%、十二年ハ一二%、十三年ハ又一二%——十二年ヨリモ一寸越シテ居リマスガ、斯ウ云フ風ニナツテ居リマシテ、十二

年度以降相當增稅モ行ハレテ居ルニモ拘ラズ、ヤハリ會社ノ拂込資本ニ對スル收益率モ相當殖エテ來テ居リマス、ソレカラ御手

許ニ差上ゲマシタ参考資料ヲ御覽下サイマシテモ、第三種所得ノ額ハ毎年々々相當増

加シテ居リマス、隨ヒマシテ稅收入ノ上ニ於キマシテモ、最近數年ハ相當大キナ自然

増收モ得テ居ルト云フヤウナ狀況デアリマスノデ、我國ノ經濟界ノ狀況ハ、斯ウ云フ

點ヲ見マスルト決シテ弱ツテ居ルモノデハルガ、ドウ云フ御檢討ヲナスツタカ、先程

マシテモ、尙ほ幾分國民ニ負擔ハ願ヘルデハナカラウカ、斯ウ云フ考察ヲ下シテ居ル次第ゴザイマス。

○河野委員 關聯シテ一寸——國民所得ト租稅トノ關係デアリマスガ、是ハ只今主稅局長カラ御答辯ガアリマシタ中ニモアリマシタヤウニ、第三種所得ノ收入カラ國民所得ノ計算方法ト云フモアヤウデアリマス、物的調查ノ方法、或ハ人的調査ノ方法ト大別シテ居ルノモアルヤウデアリマス、色違ツテ居ルノデアリマシテ、或ハ學者ニ依リマシテハ物的調查ノ方法、或ハ人的調查ノ方法ト云フノハ所謂生産統計デアリマシテ、是ハ一ツノ工業ナラシタヤウニ、第三種所得ノ收入カラ國民所得ヲ寧ロ概算シテ行クノガ、日本ノ國民所得ノ計算方法ダト私ハ思フ、是ハソレダ

ドウ云フ率ニナツテ居ルカト云フハ極メテ意味ノナイコトダト思フノデアリマス

ニ對スル俸給ナンカモ經費ニハ見ナカツタ

ノデアリマス、要スルニ其ノ國ノ國民全體

サルコトガ宜イノデアツテ、例ヘバ外國ニ

モノデハナクテ、其ノ會社ガ事業ヲヤツテ

スカラ、會社ノ經營デヤツテ居ル場合ニ會

今度ノ增稅ノ率トシテハ一七%ダカラ高ク

ナイトカ、斯ウ仰シヤルケレドモ、私ハ是

ハ全ク架空ノ數字デアツテ、寧ロ全收入カ

ラ國民所得ヲ計算シテ行ツテ、一定ノ率ヲ

以テ國民所得ヲ推定シテ居ルノダカラ、是

ハ甚ダサウ云フ答辯ハイケナイコトデヤナ

イカトス様ニ思フノテスガ、當局ノ考へ方

ハ如何デスカ

○大矢政府委員 是ハ私前二回ニ瓦リマシテ相當詳細ニ御答シテ居ル積リゴザイマスガ、今河野サンカラ重ネテ御尋デアリマシタカラ、ハツキリ御答シテ置キマス、國民所得ノ調査ハ、此ノ前ニ統計局長ノ此ノ席デノ御答ニ依リマシテモ、我國ニ於キマシテハ極メテ「ラブ」ナモノデアリマス、アレヲ以テ的確ナル國民所得ノ調査ガ出來テ居ルモノトハ稱シ難イカト思ヒマス、是ハ獨リ我國バカリデハナイ、私ハ今日英、米、獨、佛各國ノ國民所得ノ調査モ、其ノヤウニ正確ナモノハ出來テ居ナイノデハナイカト思ハレルノデアリマス、尙ホ各國ニ於テ

國民所得ノ調査ヲ致ス方法ソレ自體ガ又色

ノ收入ガアルカト云フコトヲ見テ行ク方法

デアリマシテ、是ハ或ハ國債カラ得ル利子

モ所得ニ計算サレマス、ソレカラ個人間ノ

貸借關係カラ生ジテ來ル所得モ所得ニ見ラ

リマス、一面ニ於テハ又人の調査ノ方ハ、

各人ニ付キマシテ實際個々ノ者ガドレダケ

ノ收入ガアルカト云フコトヲ見テ行ク方法

デアリマシテ、是ハ或ハ國債カラ得ル利子

モ所得ニ計算サレマス、ソレカラ個人間ノ

貸借關係カラ生ジテ來ル所得モ所得ニ見ラ

リマス、斯ウ云フコトデアリマシテ、是等ノ

モノハ一國ノ物的生產ノ方面カラ言ヘバ無

意味ナコトニナルノデアリマス、然ルニ或

國ハ物的方法ニ依リ、或國ハ人的方法ニ依

リ、斯ウシテ居ル、而モ其ノ調査ノ方法ニ

色々精粗ガアルノデアリマスカラシテ、

リ、斯ウシテ居ル、而モ其ノ調査ノ方法ニ

アル、亞米利加ガ何千億弗アルト言ツテ

見タ所ガ、サウ正確ナモノデゴザイマ

セヌ、隨テ之ニ對スル國民所得ノ割合ガ亞

米利加ハ二十デ佛蘭西ガ一十八ダカラ

ラシテ亞米利加ニ對シテマダ餘程低イノ

ダ、佛蘭西ニ對シテハ尙ホ著シク低イノダ

ハ申上ゲラレナイ、又日本ノハ今回ノ增稅

前ハ百分ノ十五、增稅後ハ百分ノ十七ダカラ

シテ亞米利加ノ方が負擔が輕イ、斯ウ云フコト

ト云フコトモ申サレナイ、或ハ學者等ニ於

キマシテハ隨分色々ナ方面ニ於テ居ルヤウ

製造事業、或ハ航空機製造事業ト云フヤウ
要トスル最モ重要ナモノニ付キマシテハ、
ソレハ、單行法ヲ以チマシテ、五年或ハ七
年ト云フ風ニ免稅期間ヲ設定シテ居ルノデ
アリマス、此ノ程度ニ至ラナイモノニ付キ
マシテモ、所得稅法、法人稅法等ニ於キマ
シテ、比較的生産擴充ヲ必要トスル方面ノ
事業ニ付キマシテハ、開業ノ年及ビ翌年ヨ
リ三年間所得稅、法人稅ヲ免除スル規定モ
置イテ居ルノデアリマシテ、大體斯ウ云フ
方面ニ於キマシテ、最モ生産擴充ヲ必要ト
スル方面ニ對スル措置ハ相當講ジテ居ル積
リデアリマス、社内留保ニ對スル課稅ガ六
割以上モアツテ、ソレデ生産擴充ガ出來ル
カ、斯ウ云フ御話デアリマスケレドモ、普
通ノ法人ハ、此ノ度ハ御承知ノ通り法人稅
ノ稅率ト致シマシテ百分ノ十八ノ課稅ニナ
ツテ居リマス、之ニ地方團體ノ財源トナル
營業稅マデヲ加ヘテモ百分ノ二十四ニナル
ノデアリマスカラ、此ノ程度ノ――資本三
十割ノ利益ヲ擧ゲテ居ルト云フ法人ノ場合
ダト存ジマス、恐らく從來ノ所得稅法ニ於
テ最高緩和ノ規定ガアル、其ノ緩和ノ適用
ヲ受クル法人ニ付テカト存ジマスルガ、是
ニ對シテ六割、七割、或ハ十割以上モ利益
ヲ擧ゲルト云フコトデアリマスカラ、一般
國民ガ相當重キ稅ヲ負擔シテ居リマス際ト
致シマシテハ、此ノ程度ノ課稅ハ已ムヲ得

ナイト存ジマス、又斯ノ如ク一面ニ相當高率ノ收益ヲ擧ゲテ居ル法人ニアリマシテハ、其ノ半額或ハ六割程度ノ課稅ヲ致シマシテモ、アトニ相當ノ額ガ殘ルノデアリマスカラ、他ノ一般ノ法人トノ振合ヲ考ヘテ見テモ、別ニ其ノ方面ノ生産擴充ニ著シイ支障ガアルモノトハ考ヘラレナイト存ジマス

ナラバ、能ク此ノ臨時資金調整法トノ按配ヲ
十分執ツテ貰ヒタイ、ソレカラ給與停止令ガ
發動ノ結果、高率課稅ヲ爲スニ於テハ有ニ
ル名目ニ於テ濫費ヲヌル、是ハ事實現ニ行ハ
レテ居ル、其ノ結果物價騰貴ノ爲メ九・一八
ノ賃銀デハ生活ガ出來ナイ、是ハ現在ニ於テ
其ノ通リデアル、隨テ百二十億ノ貯蓄ノ線
ニシテ皆ハヌ、思フ、又一面毒貢刀、形儀ヲ

ノ際ニ税金ヲ想定シテ、其ノ想定シタル税金ヲ損金ノ中ニ計上スルト云フ事柄ハ是ハ少シク間違ツタ事柄デアラウト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマス、アナタハ多年民間ノ事業ニモ御關係ニナツテ居ツテ、能ク會社ノ計算ノ實情モ御分リナツテ居ル、アナタハ現在大臣トシテ役人トナツテ、斯ウ云フ御答辯在大臣トシテ役人トナツテ、斯ウ云フ御答辯

ナイト存ジマス、又斯ノ如ク一面ニ相當高率ノ收益ヲ擧ゲテ居ル法人ニアリマシテハ、モ、アトニ相當ノ額ガ殘ルノデアリマスカラ、他ノ一般ノ法人トノ振合ヲ考ヘテ見テモ、別ニ其ノ方面ノ生産擴充ニ著シイ支障ガアルモノトハ考ヘラレナイト存ジマス。○板谷委員 私ガ先ニ申上ゲタ所謂彈力性ハ何處ニアルノカ、上ニアルノカ下ニアルノカト云フ質問ニ對スル十分ナル御答辯ガ得ラレナカツタノデアルガ、一割以下ノモノニハ段々輕ク課ケテ、上カラ取ルト云フノデアリマスガ、恐ラク一割以上ノ配當ハ配當制限令ニ依リ、或ヘ其ノ他ノ事情ニ依ツテナクナルノデハナイカト思フ、ソコデ私ハ税ノ收入ニ大ナル狂ヒガ生ジテ來ルノデハナイカト云フトコトヲ申上ゲタケレドモ、ソレニ對スルハツキリシタ御答辯ガナイカラ、ソレハソレデ宜シイ、ソレカラ臨時資金調整法ニ依ソテ生産擴充ノ資金ノ調達ガ益、強化サレテ來ル、是ハ幾ラカ緩和ノ方法ヲ御執リニナツテ居ルノデスガ、現在ニ於テハ段々強化サレテ居ツテ、生産擴充ノ資金ニ非常ナ支障ヲ來シテ居ル現狀デアリマスガ、ソレハドウデスカ

ナラバ、能ク此ノ臨時資金調整法トノ按配ヲ
十分執ツテ貰ヒタイ、ソレカラ給與停止令ガ
發動ノ結果、高率課稅ヲ爲スニ於テハ有ニ
ル名目ニ於テ濫費ヲヌル、是ハ事實現ニ行ハ
レテ居ル、其ノ結果物價騰貴ノ爲メ九・一八
ノ賃銀デハ生活ガ出來ナイ、是ハ現在ニ於テ
其ノ通リデアル、隨テ百二十億ノ貯蓄ノ線
ニシテ皆ハヌ、思フ、又一面毒貢刀、形儀ヲ

ノ際ニ税金ヲ想定シテ、其ノ想定シタル税金ヲ損金ノ中ニ計上スルト云フ事柄ハ是ハ少シク間違ツタ事柄デアラウト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマス、アナタハ多年民間ノ事業ニモ御關係ニナツテ居ツテ、能ク會社ノ計算ノ實情モ御分リナツテ居ル、アナタハ現在大臣トシテ役人トナツテ、斯ウ云フ御答辯在大臣トシテ役人トナツテ、斯ウ云フ御答辯

ナラバ、能ク此ノ臨時資金調整法トノ按配ヲ
十分執ツテ貰ヒタイ、ソレカラ給與停止令ガ
發動ノ結果、高率課稅ヲ爲スニ於テハ有ニ
ル名目ニ於テ濫費ヲスル、是へ事實現ニ行ハ
レテ居ル、其ノ結果物價騰貴ノ爲メ九・一八
ノ賃銀デハ生活ガ出來ナイ、是ハ現在ニ於テ
其ノ通りデアル、隨テ百二十億ノ貯蓄ノ線
ニモ沿ハヌト思フ、又一面購買力ノ膨脹ヲ
來シタル現狀デ將來益々是ガ甚シクナルト
思フ、此ノ見解ハドウデスカ。

金ヲ損金ノ中ニ計上スルト云フ事柄ハ是ハ少シク間違ツタ事柄デアラウト思フ、斯ウトシテ御答辯デアリマス、アナタハ多年民間ノ事業ニモ御關係ニナツテ居ツテ、能ク會社ノ計算ノ實情モ御分リナツテ居ル、アナタハ現ス在大臣トシテ役人トナツテ、斯ウ云フ御答辯ヲナサラナケレバナラスト云フ、ソコニハ私ハ御察シヲスルガ、法人ノ稅金ヲ損金トシテ控除スル御取扱ハ、他ノ委員モ言ツタヤウニ多年ノ習慣デアツテ、決算後ニ稅ガ課カツツ來ルノデアツテ、是ハ新ニ想定シテ居ルノデハナイ、是ハ御承知ノ通リデアル、大部分ノ會社ハ即チ決算後ニ於之ヲ帳簿ニ拂出シ、又記入ヲスル、是ハ大シ多年ノ習慣デアル、所ガアナタガ仰セラレルヤウニ、百万圓ノ資本ニ對スル十万圓ノ利益ガアルナラバ、一割デアル、是ハ大シタコトハナイノデアリマスガ、百万圓ニ對シテ六七十萬圓以上モ拂フト云フコトニナレバ、即チ稅ニ稅ガ課カルト云フ結果ニナル、恐らくハ各會社ガ前期分ノ稅金ヲ損金ニ計上シテ、其ノ殘額ヲ利益金トシテ配當スルコトニナルダラウト思フ、假令政府ガ利益ノ中カラ稅金ヲ拂へト仰シヤツテモ、計算ノ上ニ於テハ即チ損金トシテ斯ウ云フ經理方法ヲ採ルト思フ、所ガ其ノ場合ニ於テ利益率ガ假ニ三割ノ時ニ於テハ、會社ノ經理上益金ノ八割八分ノ稅金ヲ課セラレテ居ル、是ハ大キナ話デスガ、假ニ利益率ガ五割ノ場合ニハ一期以上ノ稅金ガ課カルトニナル、損金ニ見ナイト云フコトガ急激ナ課税トナル、是ハアナタガ先程稅制調査會ノ答申案ヲ尊重スルト云フコトヲ言ヘレタガ、アナ答申案ニモ、此ノ條項ガ書カレテ

居ルノデアリマスガ、相當此ノ點ヲ緩和ナ
サル必要ガアルノデハナイカ、其ノ御所見
ヲ承リタイ

○櫻内國務大臣 板谷君ノ御意見ニ付テ私
ノ見解ヲ申上ゲマス、實ハ極ク露骨ナコト
ヲ申シマスガ、私任官シテ此ノ案ヲ出シマ
ス前ニ此ノ税ヲ調べタ時、アナタト私ハ同
ジ意見ヲ持ツテ居ツタ、ソレデ色々之ヲ論
議シテ見マスト、ドウモ結局私ノ意見ガヤ
ハリ從來ノ舊習ニ囚ハレテ居ル意見ダト云
フコトヲ發見シタ、ソレデ極ク單純ニ申シ
マスト、板谷サンノ關係ノ會社ハ立派ナ會
社デアリマスカラ別デアリマスケレドモ、
先ヅ大體ノ會社ハ、殊ニ今回一割配當ヲ致
シマスト、ソレニ要スル所ノ税金ヲドウ云
フ風ナ計算ヲ立テ行クカト云ヒマスト、
先ヅ來年ニ持越シテ、來年拂ツテ即チ其ノ
次ノ期ニ拂ツタ時ニ損金出シテ、サウシテ
拂ツテ行ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ
有力ナ會社、儲カツテ居ル會社ハ、税金引
當金ト云フモノヲ取リマシテ、其ノ期ニ於
テ之ヲ控除シテ、即チ是ハ想定シタモノデ
アリマスガ、想定シタ費用ヲ計上シテ、其
ノ残額ヲ利益金處分金ニ持ツテ行ツテ居
ル、斯ウ云フ風ナ狀態デアリマス、ソレデ
ドウモ今回ノヤウナヤリ方ヲスルト、從來
何年トナクヤツテ居ル計算法ノ根柢ガ變ツ
テ來テ、ドウモ不都合デハナイカ、ドウシテ
モ理窟ニ合ハヌ、斯ウ云フ議論ヲ私ハ主張
シタノデアリマスガ、
〔委員長退席、小山委員長代理著席〕

リマス、ソレデ鬼ニ角是ハ利益ニ應ジテ税
ヲ課スルノデアリマスカラ、茲デ利益ガ此
ノ會社ニ幾ラ出タ、其ノ出タ利益ヲ處分ス
ル時ニ、此ノ利益ニ對シテ幾ラノ税ヲ課ケ
ルノダ、斯ウ云フ風ニ相成ルノデアリマス
カラ、其ノ利益處分ノ中ニ税ヲ加ヘテ行ク
ト云フコトガ、先づ適當デアラウ、サウシ
テ其ノ利益ヲ出スノハ、税ヲ引イタ残リガ
利益ダ、斯ウ云フ見方、是ハ從來ノ見方デ
アリマスケレドモ、此ノ度ノハ即チ利益ニ
依ツテ税ヲ課ケルノデアルカラ、其ノ利益
ト云フモノヲ出シテ、丁度利益配當デアル
トカ、或ハ重役賞與デアルトカ、退職手當
金デアルトカ云フモノヲ出スト同ジヤウニ
此ノ利益金ノ處分ノ所ニ是ダケ儲カツタカ
ラ、第一番ニ税金ヲ幾ラ、配當ヲ幾ラ、ソ
レカラ賞與金ヲ幾ラ拂フ、積立ヲ幾ラスル
ト云フ風ニヤル、此ノヤリ方ガ先づ適當デナ
イカ知ラン、私ハ色々研究シ、色々論議致シ
マシタ結果先づは決シテ不當デハナイ、
適當デアル、斯ウ云フ風ニ信ジタ譯デアリ
マス、ソコデ今ノ板谷サンノ御話ノ通り、
然ラバ是ハドウ云フコトヲ意味スルカ、增
税ヲ意味シハセヌカ、是ハ私ハ板谷君ト同
意見デアリマス、税金ヲ利益ノ處分ノ上カ
ラ出スト云フコトニナリマスト、即チ其ノ
金額ニ對スル分ダケハ、幾ラカ税ガ増シテ
來ル結果トナリマス、ナゼナラバ其ノ税ダ
ケヲ經費ニ拂ヒマスレバ、其ノ經費ニ拂ツ
タモノニ對シテハ税金ガ掛ラナイノデアリ
マス、今回ハソレガ利益金處分ノ方ニ出テ
ノ期ニハ負擔シナイ、翌期ニ於テ負擔スル
カト言ベバ、其ノ百万圓ノ所得ニ對シテ六十
万圓ノ課税ハ何時負擔スルカト言ベバ、其
ノ受ケル、ソコデ當期ノ所得ニ對スル六十
万圓ノ課税ハ、既ニ負擔シテ
ノ期ニハ負擔シナイ、
斯ウ云フ譯デアリマシテ、アナタノ仰シヤ
イマシタ六割ノ負擔ト云フノハ、當期ノ所
得百万圓ヲ計上スル場合ニ、既ニ負擔シテ
居ルノデアリマス、ソレヲモウ一遍其ノ百
万圓ノ中カラ出スヤウナ計算ニナルト、非
常ニ高イモノニナリマスケレドモ、一事業
年度ニ對シテ税ハ一遍以上支拂フコトハゴ
テ統制ヲ強化シナケレバナラスト云フヤウ
斯様ニ考へマスガ、此ノ建前ガ必ズシモ不

當デハナイ、又見様ニ依ツテハ此ノ方ガ順
當ナヤリ方デハナイカ知ラン、斯ウ云フコ
トニ結論ヲ得マシタノデ、私モ之ニ賛成シ
テ、斯ウ云フ風ニナツタ次第デアリマス、
ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス

○大矢政府委員 一寸數字ニ互ルコトヲ一
言私カラ御答シテ置キタイト思ヒマス、先
程所得ニ對シテ税ガ六七割掛ルカラ、隨テ
翌期ニ三割程度ノ利益ヲ得テモ、殆ド其ノ
大部分ハ税ニ持ツテ行カレル、斯ウ云フ御
話デアルノデアリマスガ、併シ是ハ能ク御
考へ下サレバ得心ガ行カレルカト存ズルノ
デアリマス、當期ニ於キマシテ資本金百万
圓ノ會社が百万圓ノ利益ヲ舉ゲタ、其ノ爲
ニ六十万圓ノ税ヲ拂ツタト致シマスト、其
ノ前期ニモ同ジヤウナ利益ヲ舉ゲテ居リマ
スト、ヤハリ六十万圓ノ税金ヲ拂フノデア
リマスカラ、當期ニハ百万圓ノ所得ノ外ニ
前期ノ税ニ屬スル分ノ六十萬圓ハ支拂ツテ
居ルノデアリマス、隨ヒマシテ事業自體カ
ラハ百六十萬圓ノ利益ヲ上ゲタ、税務ノ計
算ニ於テハ前期分ノ所得ニ對スル所得税ハ
損ニ見ラレルカラ、ソコデ百万圓トナツテ、
其ノ百万圓ノ所得ニ對シテ六十萬圓ノ課税
ヲ受ケル、ソコデ當期ノ所得ニ對スル六十
万圓ノ課税ハ何時負擔スルカト言ベバ、其
ノ期ニハ負擔シナイ、
斯ウ云フ譯デアリマシテ、アナタノ仰シヤ
カト云フコトヲ申上ゲタノハ、御承知ノ通
ラ、アナタノ辯解ヲ聽イテモ仕方ガアリマ
セヌガ、大藏大臣ハ失禮ダガアナタノ主張
ガ通ラヌノハ、アナタハ餘リ弱カツタノデ
ナイカ、アナタハ役人カブレシタノデハ
ナカト云フコトヲ申上ゲタノハ、御承知ノ通
ラ、ダカラ若シ此ノ委員會ニ於テ各委員ノ
諸君が修正スルト云フコトニ付テハ、アナ
タノ主張ガ是ハ損金ニ見ルベキモノデアル
ト云フヤウナ御主張ヲ一遍ナサツタストレ
バ或ハ修正案が出タナラバ其ノ際ニハ御考
慮ヲ願ツテ同意ヲシテ貴ヒタイ

○櫻内國務大臣 稅制調査會ノ一部ノ意見
ニハ、サウ云フコトガアツタカトモ思ヒマ
スガ、併シナガラ政府トシテハ此ノ案ノ建
前ハ、ドウシテモ是ガ正當デアル、斯様ニ
考へテ居ルノデアリマシテ、御意見ノヤウ
ナコトガ出マシテモ、政府トシテ之ニ御同
意申上ゲルコトハ出來ナイ次第アリマス
カト、
○板谷委員 大藏大臣ニ對スル質問ハマダ
ナコトガ出マシテモ、政府トシテ之ニ御同
意申上ゲルコトハ出來ナイ次第アリマス
カト、
○櫻内國務大臣 ドウゾ……

○板谷委員 ソレデハ商工大臣ニ此ノ際御
伺致シマズガ、アナタハ民間ニオ居デニナツ
タ當時ニ於テ、屢々御考ヲ述ベラレテ居リマ
スガ、現在民間ニオ居デニナツタ當時ト意
見ガ變ツテ居リマス、現在ノ經濟狀態ニ於
テ統制ヲ強化シナケレバナラスト云フヤウ

ニ、意見ガ變ツタヤウナコトヲ仰シヤル、
成程戰時經濟體制ヲ整フル上ニ於キマシテ、
或ル程度ノ必要ハアリマセウ、アリマセウ
ガ併シ現在ノ物資缺乏ヲ解決スルニハ、
統制ノ力ニ依ルベキモノデナイ、言フマヂ
モナク物資動員計畫ニ依ツテ之ヲヤラナケ
レバナラヌ、又物資ガ段々増シテ來タナラ
バ、其ノ統制ヲ強化スル必要ハナイ、ソコ
デ私ガ御伺シタイコトハ、統制ノ強化ノ結
果、所謂極度ニ達スルト國營カ國家管理ト
云フコトニナル、所ガ現在有ユル方面ニ於
テ統制ガ強化サレテ、或ハ國策會社、特殊
會社ト云フモノガ出來テ居ル、官僚ガ其ノ
衝ニ當ツテ居ル跡ヲ顧ミルト云フト隨分失
敗ガ多イ、私ハ此ノ統制強化ノ極度ト云フ
モノガ、露西亞ノ組織ノヤウナコトニナリ
ル、アナタハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレ

制ヲ強化シテ行クヨリ外仕方ガナイ、詰リ
低物價政策デ生産擴充ヲシテ、サウシテ度
度申上ゲル通リニ、水炭相容レザルヤウナ
政策ヲ能ク調和シテ、此ノ時局ヲ乘切ルト
云フヨリ外仕方ガナイ、商工省トシテドウ
シテモ此ノ統制經濟ヲ運用シテ行ク上ニ於
テハ、自然々々ニ今日ノ統制ヲ強化スルト
云フ結果ニナルヨリ外ニハ仕方ガナイ、之
ヲ弱化シテ、後ノ方ニ戻シテ、サウシテ物
資ノ増産ヲ圖ツテ、ソレデ若シ低物價政策
ガ實行シ得ルナラバ、サウ云フコトモ考ヘ
ラレマスケレドモ、低物價政策ヲ實行スル
ノニハ、ドウシテモサウシナケレバナラヌ、
斯ウ云フ積リデ統制ヲ強化スルヨリ外仕方
ガナイ、其ノ方針デ政府ハ進ムノデアルト
云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

リト申上ゲテ置キマス
フヤウナ積リヲ以テ、即チ「イデオロギー」ニ
依ツテ統制ヲ強化スルト云フヤウナ積リデ
居ルノデハナイト云フコトヲ、茲ニハツキ

ニ御苦心ニナツテ居リマスガ、率直ニ國民ノ考ヘテ居ルコトヲ申上ゲマスト、政府ノ物價統制ニ對スル實行能力ニ對シテ、國民ハ或ル一種ノ疑惑ヲ持ツテ居ヤシナイカ、隨テ政府ノ威令ト云フモノガ行ハレテ居ラヌノデハナイカト思フ、總理大臣ガ仰シヤツタヤウニ、國ガ亡ビルト云フ風ニハ勿論考ヘテハ居リマセヌガ、經濟界ガ動搖シテ先ハドウナルカト云フノデ、非常ニ不安ヲ持ツテ居ル、ダカラ先刻道家君モ色々御心配ニナツタコトデアリマスガ、此ノ際アナタガ民間ノ意見ヲ尊重シ、民間ノ意見ヲ容レルト云フコトデアルナラバ、官僚統制ト云フモノハ或ル程度マデ止メテシマツテ——勿論自由經濟主義ニ戻ル譯ニハイカヌデアリマセウガ、物ヲ殖ヤスニハドウ

○藤原國務大臣 斯^ウ云フ風ニ御説明申上
ゲタイト存ジマス、私ハ統制經濟ヲ運用ス
ル上ニ於キマシテ、今日政府ノ實行致シテ
居リマスル色々ノ組織ノ上ニ於テ、動モス

カヌデアリマセウガ、物ヲ殖ヤニハドウシタラ宜イデセウカ、増産計畫ヲ行フニ付ハ、如何ナル方法ヲ執ツタラ宜シイカ、是ニアナタハ屢々仰セニナツテ居リマスガ、

ノ通リデアリシテ、一昨年マデ實業界ノ現役トシテ働イテ居リマシタケレドモ、一般ノ經濟政策及ビ其ノ他經濟問題ニ付テ、其ノ現役ニ働イテ居リマスル間ハ、始終自分ノ意見ヲ公表シテ居ルコトハ能ク御承知ノ通リデアリマスガ、併シ其ノ間ニ此ノ統制問題ニ付テ統制ヲ強化スルカ、之ヲ弱化スルトカ云フコトニ付テハ、一度モ私ノ意見ヲ發表シタコトハナイト存ジテ居リマス、ソレデ民間カラ此ノ度豫備役ノ私ガ入閣致シマシテ此ノ重大ナル責任ヲ負ウテ、サウシテ此ノ國家ノ財政經濟ヲ能ク調べテ見マシテ、今日ノ時局ヲ乘切ルト云フコトニ付テ、ドウシタラ宜カラウカト云フコトヲ考ヘマシテ、ドウシテモ是ハ統

○藤原國務大臣 ソレハ私ハ承知致シマセ
ヌガ、私ハ今日ノ低物價政策ノ下ニ時局ヲ
乘切ルノニハ、ドウシテモ統制ヲ強化シテ
行クト云フ結果ニナル、斯ウ信ジテ居リマ
ス、併シナガラ先刻第一段ニ御尋ニナリマ
シタ通り、統制ノ爲ニ統制ヲスル、斯ウ云
トシテ、統制ニハ限度ガアル、統制ニ統制
ヲ加ヘテ、之ヲ強化シテ行ツタナラバ、國
ハ亡ビルト云フコトヲ仰シヤツタ、其ノ當
時吾々ハ總理大臣ハ如何ニモ賢明ナ方デ、
經濟界ノコトニモ明イノヂヤナイカト大イ
ニ敬服シタ、アナタハ此ノ總理大臣ノ御
意見ニ御同意デアリマスカ、ドウ御考ニナ
ツテ居リマスカ

レハ民間ニ國税天皇ノハルト云フニテガ澤山アルト存ジマス、ソレガ爲ニ民間ニ於テ色々ナ苦痛、非難ガ多カラウト存ジテ居リマス、ソレ故ニ成ベク民間ノ聲ヲ容レテ、サウシテ民間ノ苦痛ヲ少クシテ、此ノ統制經濟ノ運用ヲ滑カニシテ行キタイ、斯ウ云フノガ私ノ希望ナノデアリマス、詰リ不必要ナル摩擦ヲ生ジテ居ルト云フヤウナコトガ若シアリトスレバ、ソレハ遺憾ナコトデアルカラ、私不肖ナガラ民間カラ入ツテ、民間ノ實情ヲ能ク知ツテ居ル者デアルカラ、此ノ運用ニ付テハ出來ルダケ民間ノ苦痛トカ、不幸トカ云フモノヲ少ク致シタイ、斯ウ云フ希望デ總テノモノヲ計畫シ、又考ヘテ居ル次第アリマス

カツタケレドモ、今ノ税制改正ノ結果、自己
資金ニ依ル所謂生産擴充ノ資金ト云フモノ
ガナクナツテ、サウシテ借金シテヤツタ方
ガ宜イト云フヤウナ結論ニナル、是デハ日
本ノ將來ノ事業界ト云フモノハ、非常ニ不
堅實ニナルト云フコトヲ御話ヲシタ、ダカ
ラ此ノ生産擴充ヲ行フニ付テハ、國民ニ相
當ノ餘力ヲ殘シテ、先づ第一ニ政府ノ方針
トシテハ、生産擴充、低物價政策ヲ斷行シ
テ、又經濟界ノ動搖ガ治マルノヲ待ツテ、
然ル後ニ増稅ヲヤツタラドウカ、軍事費ニ
六億圓入レルトノ御話デアルガ、私ハ本年
度ノ自然增收ガ、果シテ政府ノ豫期シテ居

調べテ見マシテ、今日ノ時局ヲ乘切ルト云
フコトニ付テ、ドウシタラ宜カラウカト
云フコトヲ考ヘマシテ、ドウシテモ是ハ続

行クト云フ結果ニナル、斯ウ信ジテ居リマス、併シナガラ先刻第一段ニ御尋ニナリマシタ通り、統制ノ爲ニ統制ヲスル、斯ウ云

斯ウ云フ希望デ總テノモノヲ計畫シ、又考
ヘテ居ル次第アリマス

然ル後ニ増税ヲヤツタラドウカ、軍事費ニ
六億圓入レルトノ御話デアルガ、私ハ本年
度ノ自然增收ガ、果シテ政府ノ豫期シテ居

ノ意見ヲ發表シタコトハナイト存ジテ居
弱化スルトカ云フコトニ付テハ、一度モ私
統制問題ニ付テ統制ヲ強化スルトカ、之ヲ

ニ敬服ヲシタ、アナタハ此ノ總理大臣ノ御意見ニ御同意デアリマスカ、ドウ御考ニナツテ居リマスカ

不必要ナル摩擦ヲ生ジテ居ルト云フヤウナコトガ若シアリトスレバ、ソレハ遺憾ナコトデアルカラ、私不肖ナガラ民間カラ入ツ

本ノ將來ノ事業界ト云フモノハ、非常ニ不
堅實ニナルト云フコトヲ御話ラシタ、ダカ
ラ此ノ生産擴充ヲ行フニ付テハ、國民ニ相

其ノ現役ニ勤イテ居リマスル間ハ、始終自分ノ意見ヲ公表シテ居ルコトハ能ク御承知ノ通リデアリマスガ、併シ其ノ間ニ此ノ

ハ亡ビルト云フコトヲ仰シヤツタ、其ノ當時吾々ハ總理大臣ハ如何ニモ賢明ナ方デ、經濟界ノコトニモ明イノデヤナイカト大イ

テ、サウシテ民間ノ苦痛ヲ少クシテ、此ノ統制經濟ノ運用ヲ滑カニシテ行キタイ、斯ウ云フノガ私ノ希望ナノデアリマス、詰リ

資金ニ依ル所謂生産擴充ノ資金ト云フモノ
ガナクナツテ、サウシテ借金シテヤツタ方
ガ宜イト云フヤウナ結論ニナル、是デハ日

ノ通リデアリマシテ、一昨年マデ實業界ノ現役トシテ勵イテ居リマシタケレドモ、一般ノ經濟政策及ビ其ノ他經濟問題ニ付テ、

御意見承認する旨を記す。時年八歳。當時國務大臣會ニ於テ現在ノ總理大臣ハ、當時國務大臣トシテ、統制ニハ限度ガアル、統制ニ統制ヲ加ヘテ、之ヲ強化シテ行ツタナラバ、國

ガ澤山アルト存ジマス、ソレガ爲ニ民間ニ
於テ色々ナ苦痛、非難ガ多カラウト存ジテ
居リマス、ソレ故ニ成ベク民間ノ聲ヲ容レ

カツタケレドモ、今ノ税制改正ノ結果、自己
フ譯デハナイガ、生産擴充ハ如何ナル方法
ニ依ツテヤルカ、アナタハオ居デニナラナ

調べテ見マシテ、今日ノ時局ヲ乘切ルト云
フコトニ付テ、ドウシタラ宜カラウカト
云フコトヲ考ヘマシテ、ドウシテモ是ハ続

行クト云フ結果ニナル、斯ウ信ジテ居リマス、併シナガラ先刻第一段ニ御尋ニナリマシタ通り、統制ノ爲ニ統制ヲスル、斯ウ云

○板谷委員 アナタハ物價問題ニ付テ非常
斯ウ云フ希望デ總テノモノヲ計畫シ、又考
ヘテ居ル次第アリマス

然ル後ニ増税ヲヤツタラドウカ、軍事費ニ
六億圓入レルトノ御話デアルガ、私ハ本年
度ノ自然增收ガ、果シテ政府ノ豫期シテ居

ル程アルカドウカト云フコトヲ、非常ニ疑問
ニ思ツテ居ル、從來ハニ億、三億アツタカモ
知レヌガ、今ノヤリ方デ行ツタラ自然增收
ハ減リヤシナイカ、ダカラ軍事費ニ六億圓
入レルト云フナラバ、半分位ハ國民ノ資力
ヲ緩和スル意味ニ於テ、適當ニ按排ナサツ
タラドウカト思フ、アナタハ經濟界ノ事情
ヲ能ク御分リニナツテ居リマスガ、私ノ今
申上ゲル意見ニ對シテドウ御考ニナリマス
カ

苦心ヲセラレテ、此ノ増稅案ヲ編成セラレ
タノデアリマスカラ、吾々ハ之ニ賛成シテ、之ヲ調
節シテ行クト云フノガ一國ノ政治デハナイ
カト思フ、サウ云フコトニ付テ大藏大臣ハ
イ、色々ナコトヲ苦心慘憺ヲシテ低物價政
策ヲヤツテ行カウト云フ譯ニアリマス。
○板谷委員 アナタハ増稅サレルトソレダ
ケ産業資金ガ減ズルトカ、或ハ生産擴充ニ
對シテモ相當ノ支障ガアルト云フヤウナ意
味ノ御答辯ニナツテ居ルガ、アナタモ民間
カラ役人ニナラレテ役人カブレシテ、結局
サウ云フ御氣持ニナツタノデハナイカト思
フ、此ノ點ハ此ノ程度ニシテ置キマシテ、
更ニ御伺シタインハ物價政策ノ上ニ於テ
配給機構改革ノ點デアル、御承知ノ通り多
年ノ間産業組合ト商業組合トハ摩擦相剋ヲ
起シテ争ツテ居ル、ソコデ此ノ度産業組合
ニ對シテモ或ル程度稅が課カルコトニナツ
タ、其ノ理由トシテハ産業組合ハ所謂相互
ノ協同主義ヲ以テ臨ンデ居ルノデアツテ、
農村ノ生產團體トシテ其ノ重大ナ使命ヲ持
ツテ居ルト云フコトハ言フマデモナイ、所
ガ經濟ニ幾ラカ關係シテ居ルト云フ所カラ、
ノ機構ノ改革ニ付テ御承知ノ通り有ユル問
題ニ付テ農林省ト商工省トハ争ツテ居ル、
モ知レナイガ、所謂利益デアル、ソコデ此
剩餘金ト云フモノハ經濟ノ活動ニ依ル利
益、是ハ見ヤウニ依ツテハ營利的デナイカ
私ヲシテ率直ニ言ハシムルナラバ、從來ノ
商工省ハ農林省ニ引摺ラレ、其ノ農林省ハ
產業組合ニ引摺ラレテ居ルヤウナ傾向ガア
ル、ダカラ今回ノ配給機構改革ニ付テ其ノ
分野ヲ明カニシ、所謂相互協同主義カラ言

ツタヌ、何デモヤレルコトニナルノデハナイン
カト思フ、御承知ノ通り最近産業組合ガ保
险事業ヲヤラウトシテ、中止ハサレマシタ
ケレドモ、恐ラク何カ別ノ形ニ於テヤル方
針ヲ以テ進ムト思フ、是ハ分野ヲ明カニシ
テ、將來摩擦ノナイヤウニアナタハ一ツ大
英斷ヲ以テ、農林大臣ト對等ノ立場ニ於テ
御解決ニナツクタラドウカト思フ、而モ配給
機構ト云フ今改革シナケレバナラヌ重大ナ
問題ガアル、之ニ對スル御意見ヲ伺ツテ置
キタイ

○藤原國務大臣　此ノ産業組合ト商業組合
トカ、從來ノ民間ノ經濟機構等ノ間ニ多年
摩擦ガアリマシテ、ソレガ爲ニ動モスレバ
種々ノ問題ヲ惹起シテ居リ、又サウ云フ問
題ヲ挾ンデ商工省ト農林省トノ間ニ、種々
ノ意見ノ衝突ト云フヤウナコトガアツタコ
トモ能ク承知致シテ居リマス、併シ今度
私任官マダ日ガ淺クシテ、其ノ内容ニ付テ
能ク承知致シマセヌケレドモ、兎ニ角今日
ノ斯ウ云フ重大ナル時局デアリマシテ、此
ノ時局ヲ乘切ルト云フコトニ付テハ政府ハ
全體ノ機構ヲ擧ゲテ、轟地ニ國家ノ爲ニ努
力シナケレバナラナイ時デアリマス、今日
ノ時局ハ平時トハ違ツテ容易ナラザル時局
デアリマスカラ、板谷サンノ御指摘ニナリ
マシタヤウナコトニ付テハ、十分ニ努力致
シタイト考ヘテ居リマス

〔小山委員長代理退席、委員長著席〕

○板谷委員 私ハ別ニ産業組合、商業組合ノドツチニ贊成シテドウト云フノデハナイガ、アナタガ捨身ニナレバ此ノ大問題ヲ解決出來ルト思フノデ捨身ニナツテ貴ヒタイ、是ハ多年ノ問題デ中々容易ニ解決シナイ問題デアルガ、配給機構ノ改革ヲヤラウト云フシノ時機ニ於テアナタハ出來ルダケ、微力々々ト仰シャルガ、アナタハ實業界ニ於ケル權威者デアツテ、體驗・經驗ヲ持ツタ偉イ方デス、何モサウ卑下ナサル必要ハナカラ、捨身ニナツテ此ノ際此ノ問題ノ解決ヲ願ヒタク、サウセヌト何時マデ經ツテモ此ノ相刺摩擦ハ絶エヌ、同ジ國民デアリナガラ争フト云フコトハ、國論ノ統一ト云フ點ニ於テモ甚ダ遺憾ナコトデアルト私ハ思ヒマスノデ、是ハ是非一つ希望シテ置キマス、商工大臣ニ對スル質問ハ此ノ程度ニシテ引續イテ大藏大臣ニ御尋致シマス

株式配當ニ對スル控除ノ點ハ、各位カラ本會議ニ於テモ委員會ニ於テモ色々御意見ガアツタノデアリマスガ、私ハ尙ホ政府ノ御答辯ニ疑ガアルノデ之ヲ質シテ置キタトイト思ヒマス、御承知ノ通り從來ノ二割ガ四割トナツタノハ、株式取得ニ要シタ負債利子ノ代リトシテ、一率ニ控除シタモノノデハナイト私ハ思フ、即チ法人ト個人ノ二重課稅ヲ緩和スルト云フ意味ト、又公社債、銀行預金利子トノ負擔ノ不均衡ヲ避ケテ、產業員會ニ於テ問題ニナツタノデアリマスガ、同シテハ二割控除ヲ全廢スルコトハ、如何ニ資本利子ニ對シテ、一方デハ高額所得者ニ對シテハ四割ノ控除ヲ致スノミナラズ、モノト思フノデアリマス、然ルニ是モ屢々委員會ニ於テ問題ニナツタノデアリマスガ、同

モ負擔ノ不均衡デハナイカト思フ、假ニ舊所得稅法ト今回ノ改正案ヲ比較シテ見ルト、假ニ二十万圓ノ所得ノ者ハ二倍七分ノ增徵ニナリ、又五十万圓ノ所得ノ者ハ三倍二分ト云フ計算ニナル、如何ニモ急激ナ增稅ダト思フ、糸ニ當ルモノノ手取ハ二分九厘六毛、定期預金利子三分三厘ハ二分四厘七毛五糸ニナリ、株式ハ五分五厘ノ配當ヲ受ケルモノトスレバ、手取ガ二分七厘五毛ニシカナラヌノニ、五十万圓ノ所得トスルナラバ、公債定期預金ハ別ニ變ラヌガ、株式ノ五分五厘ノ手取ハ一分六厘五毛ト云フ結果ニナル、御承知ノ通リ生産擴充ニ付テハ、言フマデモナク無論大衆のニ各方面カラ株式ヲ集メル必要モアリマスガ、日本ノ從來ノ法人ハ所謂大口ノ投資ニ依ツテ成立ツテ居ル仕事ガ多イ、所ガ斯ウ云フ結果デアルト、產業資本ニ對スル投資ガ非常ナ壓迫ヲ受ケルト云フ結果ニナリハシナイカト思フ、ソレカラ又ニ負債利子ヲ引クト云フコトニ付テ、此ノ委員會デモ色々御意見ガ出タノデアリマスガ、利子ヲ引ク方法其ノ他ト云フモノハ中々實行出來ルモノデナイ、主稅局長ハ、將來新シク株式ニ投資スルガ爲ニ借金ヲシタ場合ニハ、其ノ借金ノ利息ハ控除スルト云フ制度ニナリマスカラ、其ノ適用ヲ受ケヤウトスル人ハソレニ對シテ相當ノ用意ヲシテ掛カルコト存ジマス、是ハ株式取得ニ要シタ借金デアルカドウカハ、常識デ判斷シテ付ケ得ラレルモノト思ヒマス、斯ウ云フ御答辯デアル、是ハ稅務官吏ニ認定權ヲ險千萬ナコトハナイ、是ハ事實ニ於テ非常ニ困難デアリ、又隨テソコニ色々ナ情實ガ

起ルコト思フノデアリマス、デアルカラ
或ハ從來ノ通ニ二割引ニスルカ、但シハ又
第二種所得ノヤウニ選擇主義ニ依ルカ、何
等カヤハリ緩和ノ方法ヲツ御考ニナル必要
ガアルデハナイカト思フ、株券ニ對スル利子
デアルト云フ判斷ハ、稅務官吏ノ認定ト云
フコトデアルナラバ、是ハ非常ナ情實モ行
ハレ、事實ニ於テ私ハ不可能デアルト思
フ、又例ヘバ其ノ株ヲ見返抵當トシテ金ヲ
借リテ居ル場合ニ於テ、其ノ借金ト云フモ
ノハ必ず始終動イテ居テ一定シテ居ルモノ
デナイ、デアルカラ此ノ點ニ對スル御意見
ハドウデスカ、是モ屢々質問ニ出タコトデア
リマスガ、ドウモ主税局長ノ御答辯ガ要領
ヲ得マセヌカラ、私ハ重ネテ伺ヒマス

ヒマシテ此ノ度公社債、銀行預金等ヲ綜合課税スルニ當リマシテハ、ヤハリ負擔緩和ノ趣旨ヲ以チマシテ四割控除ヲ致スト云フ建前ヲ採ツテ居リマス、尙ほ事變下ノ金融界ノ特ニ微妙ナ點モ考慮致シマシテ、源泉選擇ノ制度モ、是ハ暫定措置アリマスケレドモ、併セ採ツテ居ルノデアリマス、此ノ事由ニ付キマシテハ大臣カラモ屢々御答シテアル通りデアルノデアリマシテ、此ノ度ノ配當利子所得ニ對スル課税ノ方法ノ變更ハ、所謂產業資本ニ酷ニシテ金融資本ニ厚クスルモノデハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ私ハ社債、銀行預金ノ如キモノヲ金融資本ト稱シ、株式ヲ産業資本ト稱スルコトニ付テモ、多少疑ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、社債モ株式ト同ジヤウニ産業資本ト見テ宜イデハナカラウカト思ヒマス、又ト同時ニ、又社債ニ俟ツ所モ多イノデアリマシテ、社債モ株式ト同ジヤウニ産業資本ノ消化ト云フノハ非常ニ大キナ効キヲ爲シテ、今日産業界ノ活動ノ原動力トナツテ居ルトモ見ラレマスノデ、國債ノ消化ニ支障ヲ來スヤウナコトガアツテハ産業界ノ一大事ダト考ヘマス、此ノ意味ニ於キマシテ銀行預金、公社債ニ對スル課税ハ、ヤハリ産業界自體カラ見テモ、十分ニ考慮シナケレバナラヌモノダト存ジマス、産業資本、金融資本ト云フ言葉ノコトヲ強ヒテ争フ譯デハアリマセヌケレドモ、兎ニ角公社債、銀行預金等ニ對スル課税ニ付キマシテモ、十分ニ産業界ノ事情ヲ考慮シテ、斯ノ如ク致シテ居ルト云フコトヲ申上げテ置キタイト存ジマス

ソレカラ株式ハ五分五厘配當シテ居ル云ト云フコトデアリマスケレドモ、是ハ今日ノ所謂時局産業ト云フヤウナモノハ、五分五厘ノ配當デハナク、モツト高イ配當率ダト思フノデアリマス、國家總動員法ニ於キマシテモ、初メノ配當ハ六分、漸次毎事業年度一分ヅツノ増配ハ認メテ、一割マデハ認メヨウ、隨テ株式配當五分五厘ト云フコトヲ前提トシテ計算スルノハ、斯ノ如ク利益配當ノ漸次向上シテ行クモノニ對シマシテ、サウ云フ前提ノ下デ國債、社債、銀行預金ノ如ク低利子ノモノト比較シテ其ノ厚薄ヲ論ズルト云フノハ、根本ニ於テ大キナ誤謬ヲ犯シテ居ルモノト考ヘルノデアリマス

ハ、ソコニ負擔力ノ相違ガアルノデアリマスカラ、其ノ兩者ヲ區分スルノハ、負擔力ニ相應スル課稅ノ趣旨ガラ言ツテ適當カト存ジマス、尙ほ事業ヲ經營スル者ハ悉ク自己資金ノミズ株式ヲ持ツテ居ルモノデハアリマセヌ、或ル程度借入金デ以テ經營スル者モアルノデアリマス、斯ウ云フ方面ニ對シマシテ借入金ノ利息ヲ經費ニ見ル措置ヲ執リマスト、事業經營上非常ニ便宜ニナル、ソレダケヤハリ事業界ノ進展ニ寄與スル、斯ウ云フ結果ニナルコトカト存ジマス○板谷委員　主税局長ハ税ヲ取ル方ダカラ色々解説ノ御話ガアツタガ、大臣ハ此ノ税制調査會ノ答申案ニハ二割控除ヲ認メル、又利息ヲ見ルナラバ全部ノ負債ヲ認メル、委員ノ多數ガヤツタノカ或ハ少數カ、其ノ點ハ分リマセヌガ、之ニ對シテアナタガ此ノ法案ヲ検討ナサル時分ニ此ノ點ノ御主張ハドウデアツタノデスカ

○櫻内國務大臣　今御話ノ點ハ税制調査會ノ少數意見トシテアツタト云フコトヲ承ツテ居リマス、勿論私ガ檢討致シマシタノハ案が出来タ後デアリマス、併シ此ノ問題ニ付テハ最初カラニ割控除ヲ廢メテ、借入金ノ利息ヲ引クモノダト云フ風ナ固イ考ヲ持ツテ居リマス、大正九年原内閣ノ時ニ、所謂控除率ナシニ金額綜合課稅ニスルト云フ問題ガ起リマシテ、實ハ私ハ高橋大藏大臣、ソレカラ原總理大臣ニ向ツテ、若シサウキ庫ニ入レテ居ル者ハ恐ラク半數モナイデアラウ、アトノ人ハ總テ銀行カラ金ヲ借りテ居ル、自分ノ金デ株券ヲ持ツテ、ソレヲテ仕事ヲシテ居ル、然ルニ借金ノ利息ヲ少

シモ見ズニ、全部ソレヲ收得金トスルト云
フコトニナレバ、吾々假リニ株ヲ持ツテ居
ルトスレバモウ株ヲ持ツテ仕事ハ出来ヌ、
即チ金ヲ溜メナケレバ仕事ガ出来ヌト云フ
コトニナルノデアツテ、金ヲ溜メル爲ニ仕
事ヲスルト云フ風ナ事柄ハ行ヘナイ、即チ
多クノ企業家ハ仕事ガシタイ、仕事ヲスル
人ト金ヲ持ツテ居ル人トハ自ラ違フノデア
ツテ、即チ仕事ヲスル人ハ借金ヲシテドン
ドン仕事ヲ大キクシテ行ク、其ノ内ニ資産
ガ出来ルノデアルカラ、ドウシテモ是ハ銀
行ノ利子ハ引カナケレバナラヌ、斯ウ云フ
議論ヲ實ハ閣議室ノ隣リニ行ツテ、山本條
太郎君ト今泉嘉一郎君デアリマシタカ、夜
ノニ時マデモ私ハ話シテ居ツタヤウナ譯デ
アリマス、私ハ其ノ時ノ意見ハ今日尙ホ捨
テテ居リマセヌ、ソレデ色々内閣ニ陳情
シ、閣僚諸公ニモ話合ツテ、ソレデ二割ヲ
控除シテ貰フコトトナリ、又貴族院ニ於テ
二割ト云フコトニナツテ、最初ハ四割控除
スルコトニナツタノデアリマスガ、ドウモ
今日デモドウシテモ利息ト云フモノハ引ク
ベキコトガ當リ前デアル、殊ニ況ヤ今回ノ
如キ税制ヲ行ヒマシテ、累進税率ニナレバ
上ノ方ニナリマスト相當高ク取ラレマス
ガ、是ガ若シ借金ノ利息ヲ引カヌデ、借金
ノ利子ヲ拂フト致シマスト、税金ト利息ト
デ、先ヅ七朱、八朱位ノ配當デハ、二三十
万圓位ノ收得ノアル人ハ全然足リナクナル
結果ニナルト私ハ思ツテ居リマス、隨ヒマ
シテ所得税ノ性質カラ言ヒマスト、實際ノ
收得金ノアル人ハ、是ハ多ク取ラレテモ仕方
ガナイ、收得金ノ少い人ハソレニ準ジテ少
イ税金デ然ルベキモノデアル、斯様ニ考へ
ルノデアリマシテ、私ハ此ノ二割ト云フモ

ノヲ引クト云フ事柄ハ廢メテ、サウシテ借
金ノ利子ヲ控除スル、即チ株券ヲ取得スル
ニ要スル所ノ利子ヲ控除スルト云フ方ガ私
ハ正當デハナカラウカ、斯様ニ信ジテ居リ
マシタノデ、此ノ問題ニ對シマシテハ私ハ
何等ノ反駁意見ヲ加ヘズ、之ヲ認メタ譯デ
アリマス

○小山委員 關聯シテ一寸……株式二割控
除デアリマスガ、成程借金シタ人カラ利息
ヲ引ク、借金シナイ者カラハ利息ヲ引カ
ヌ、ソレハ擔稅力ガソコニアルカラ……斯
ウ仰セラレマス、併シナガラ現在ノ制度デ
ハ借金ヲセズニヤル人ト、借金ヲシタ人ト
ヤハリ區別ガアリマスガ、此ノ稅法ガ施行
サレルヤウニナリマシタナラバ、今マデハ
堅實ニ自分ノ財産ヲ保持スル爲ニ、或ハ堅
實ナ事業ヲスル爲ニ、借金ヲセズニ株ヲ持
ツテ居ツタ人モ借金スルコトニナルカモ分
ラヌ、斯ノ如キハ堅實ナル家庭ノ財産ヲ保
持スル所以デモナケレバ又會社ヲ堅實ニス
ル所以デハナイ、ドウセ稅金ガソレダケ引
カレルノダカラ借金ヲシテ置カウ、或ハ借
金ヲ假裝ショウ、斯ウ云フコトニナリマシ
タナラバ、是ハ大變デス、ソニモ稅收ノ缺
陷ガ起ツテ來ハシナイカ、大藏省^デ大體豫
定シタ稅收ヨリモツト減ルノヂヤナカラウ
カ、斯ウ云フ結果ニナルノデハナカラウカ
ト思フノガ一ツ、ダカラ今度ノ稅制ハ寧ロ
借金ヲシテ株ヲ持ツト云フコトヲアベコベ
セヌ、サウスルト五千圓以下ノ收入ノ者デ
株ヲ持ツテ居ル者ハ、借金ノ利子ヲ引カレ
所得稅ハ課リマセヌ、一般所得稅ハ課セマ
ル恩典ニ與ラナイ、デスカラ其ノ點ニモ不

合理ガアル、同ジク株ヲ持ソテ借金ヲシタ者ハ利息ヲ引カレル、借金シナイ者ハ利息ヲ引カレヌ、斯ウ云フコトニナルヨリハ、ヤハリ其ノ株ニ對スル關係デアリマスカラ、二割控除トシテ、サウ云フモノヲ全部均一三處理シタ方ガ宜イデヤナイカ、借金ノ利息ヲ引カウトシテモ、果シテ其ノ爲ノ借金デアルカドウカ、所謂認定問題デ色々面倒ナ問題ヲ起スヨリハ、二割控除ノ方ガ簡単ニシテ明瞭デアリハシナイカ、理窟モ通ツテ居ハシナイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘルノデアリマスガ、如何デスカ

○大矢政府委員 本案ガ施行サレタ場合ニハ、借金ヲシテ株ヲ持ツコトヲ獎勵スルヤウニナリ、不堅實ニナルデハナイカ、斯ウ云フノデアリマスルガ、是ハ私ハ堅實ニ投資シテ居ル場合ニハ、借金シテ居ルモノハ其ノ利息ヲ引クノハ當然ダト思フノデアリマス、或ハ小山サンノ仰セニナルノハ何カ投機市場ニデモ手ヲ出シテ居ル人ノコトヲ豫想シテ居ラルモノカト思ヒマス

○小山委員 イヤ、サウヂヤアリマセヌ

○大矢政府委員 サウデナケレバ、堅實ナル借金ヲシテ株ヲ持ツテ居ル場合ニ、其ノ借金ノ利息ヲ引クカラ、負擔が輕クナルカラ投機的ノモノニ走ル……

○小山委員 サウ云フ意味デヤアリマセヌ

○大矢政府委員 斯ウ云フ譯ハドウモ出テ來ナイ、ソレダケノ所得シカナニカラ、所得ノアルダケハ全額課稅サレテ行ク、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、私ハソレハ其ノ負擔力ニ應ジタ課稅ニナルノダ、是ガ爲ニ不堅實ナ株ノ持チ方ヲ獎勵スルヤウニハナリハシナイ、現在ノ如ク借入金ノ利息ハ少しモ引カナイ場合ニハ、堅實ナル投資ハ到底

出来ナイノデアリマシテ、寧ロサウ云フ方面ノ投資ヲ樂ニシ得ル途ヲ開イテヤル、斯ウ云フ風ニ考ヘマス。ソレカラ五千圓マデハ借入金ノ利息ヲ經費ニ見ナイガ綜合所得稅ニ於テノミ見ル、斯ウ云フ御話デアリマス、分類所得稅ハ五千圓以下ノ人モ、五千圓ヲ超ユル所得ノアル人モ一樣ニ適用ヲ受ケルノデアリマシテ、民間ノヤリ繰リノ經濟ハ御承知アリマス、ト云ノガ大所得者、小所得者ニ付テモ同様デアリマス、但シ分類所得稅ニ於キマシテモ、借入金ノ利息ヲ見タラ宜イデヤナインカト云ノハ、私ツノ立派ナ御意見デハ、源泉課税スルコトニシテ居リマスルノデ、借入金ノ利息ヲ見テ此ノ源泉泉課税スル場合ニ、其ノ分ヲ差引クト云ノコトハ實行難ナノガ、一ツデアリマス、併シ是ハ是非實行シナケレバナラヌ性質ノモノデアレバ、是ハ何カノ方法デヤル必要ガアルカト思ヒマスケレドモ、大體投資ノ狀況等カラ見マシテ、サウシテ税率モ百分ノ十程度ト致シマスルト、一面「コスト」トモ見ラレル分モアルノデアリマシテ、平均一割程度ノ課稅ヲ受ケルト云フコトヲ前提ニシテ投資シテ行ク、斯ウ云フコトニナリマスカラ、經濟上ノ實情カラ見テ、ソレ程支障ハナイデハナカラウカ、而シテ是ハ五千圓以下ノ人ノミニ限ラズ、五千圓ヲ超エル所得者ニ付テモ、分類所得稅ニ於テハ一樣ノ扱ヒヲシヨウ、斯ウ云フ譯デアリマス。

○小山委員 ソレハ詰リ分類所得稅ハ課カリマス、綜合所得稅ハ課カラス、綜合所得稅ノ場合ニ利息ヲ引クノデアリマスカラ、斯ウ云フ結果ニ見ナイガ綜合所得稅ニ於テノミ見ル、斯ウ云フ御話デアリマス、分類所得稅ハ五千圓以下ノモノハ引イテヤラヌ、五千圓以上ノモノハ引イテヤル、斯ウ云フコトニナレバ、ソコニ詰リ小所得者ヲ虐待スルト云フ結果ニナリハシナイカ、斯ウ云フ意味ナガ、私共カラ申シマスト、詰リ相當ノ株デアリマス、ソレカラ主稅局長ハサウ云フ民間ノヤリ繰リノ經濟ハ御承知アリマス、云フ結果ニナリハシナイカ、斯ウ云フ意味ナガ、私共カラ申シマスト、詰リ相當ノ株ヲ持ツテ居ツテ二割控除デアレバ、其ノ儘ニシテ置クガ、併シ借金ノ利息ヲ引クト云フコトニナリマスレバ、ソレハ借金ヲシテ買ツタ方ガ宜シイ、或ハ持ツテ居ルモノヲ借金ニ入レタ方ガ宜シイ、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、ヤハリ皆借金ヲ假想スルコトモ出來レバ、或ハ事實借金ヲスルコトモ出來ル、サウ云フコトハ決シテ所謂脱稅ヲ獎勵スル結果ニコソナレ、堅實ナ投資家ト云フモノヲ堅實ニ導ク所以デハナカラウラウ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマシテ、ソコハ一ツ餘程御研究ヲ願ヒマス。

○大矢政府委員 分類所得稅ニ於テハ借入金ノ利息ハ引カナイ、綜合所得稅ニ於テノミ引クノハ大所得者ノミヲ優遇スルコトニ結果ニ於テナルノデハナカラウカト云フ仰セデアリマスルガ、私共ハ綜合所得稅ハ所得額ガ多額ニアリ、ソコニ負擔力ガアルカラ特ニ累進税率デ課稅シテ行ク、所ガ實際法ト此ノ株ヲ擔保ニシテ借金ヲスル關係ニ付テハ、ドウ云フ風ニ今考ヘテ居ラレルノデアリマスカラ

○中島委員 關聯事項デ：臨時資金調整法ト此ノ株ヲ擔保ニシテ借金ヲスル關係ニ付テハ、ドウ云フ風ニ考ヘテ居ラレルノデアリマスカラ

○大矢政府委員 是ハ要スルニ臨時資金調整法デ其ノ資金ノ用途ガ認マラレテ、銀行カラ貸出スト云フコトニナリマスレバ株ヲ擔保ニ致シマシテモ、或ハ其ノ外ノモノヲ担保ニ致シマシテモ、信用ニ致シマシテモ、取ルト云フコトガ此ノ二割控除ヲ止メテ借金ノ利息ヲ買ウテ又ソレヲ旨クヤツテハ儲ケ「マージン」ヲ取ツテハ繰返ス、鞘取、利鞘ト云フヲ買ウテソレヲ賣飛バシ、ソレカラ又株ヲ

○中島委員 私ハサウ云フ風ナコトハ問ウ

○田中政府委員 御指名デゴザイマスカラ

御答致シマスガ、臨時資金調整法ト此ノ關係ノ運用ノ問題デアリマスガ、サウ云フ投機資金ハ貸サナイモノト考ヘテ居リマス、併シ實際ニ於テハ貸シテ居ルデヤナイカト云フ前提ノ下ノ御話デアリマスガ、實際ニテ株ヲ持ツ方ガ得ダト云フヤウナコトニハ絕對ニナラナイト考ヘテ居リマス
○中島委員 私等ノ知ツテ居ル人ニ現在借りテヤツテ居ル人ガアル、採算ヲ取ツテ見ルト其ノ方ガ事實ニ於テ得ダト云フコトデアリマス、本法案ハソレガ一番ノ弱點デハナイカト私ハ思フ、ナラナイト言ウテモ、ソレハナツテ居ル、又現行法ガ改正サレテ改正法案ガ通過シタラバ、洵ニ便利ニナルト言ウテ彼等ハ欣喜雀躍、殆ド自分等ノ別天地ガ展カレタト言ツテ居ル、事實サウデス

○大矢政府委員 要スルニ見方ニ多少相違
ガアルト思フノ利鞘ヲ取ツテ行クト云フコト
ニナツテ來ルノデス、是ハサウ云フコトノ
獎勵ニハ確ニナルト思フ
ニ角借金シテ轉賣シテ行ク、一ツノ上リ下
リノ株自體ノ利鞘ヲ取ツテ行クト云フコト
元本取得ニ要シタ借入金ノ利息ヲ所得ノ計
算上經費ニ見ルト致シマスレバ、中島サン
ノ仰セノヤウナ方面モナイトハ申シマセヌ
ケレドモ、併シナガラソレガアル爲ニ借金
ノナイ者ニモ二割控除ヲ存置シテ置カナケ
レバナラスト云フ理由ハ毫モナイ、寧ロ判
定ガ付クナラバ、中島サンノ仰セニナルヤウ
ナ場合ニハ其ノ借金ノ利息ヲ經費ニ見ナイト
云フ方法ヲ執ツテ行クベキデハナカラウカ
ラナイ今日ト致シマスト、株式ニ對シマシテ
ト存ジマス、税率ハ段々重クナツテ負擔ノ均
衡ト云フモノガ特ニ考慮セラレナケレバナ
二割控除ヲ、借金ノナイ人ニ對シマシテモ存
置シテ置クト云フノハ如何カト考ヘル次第デ
アリマス、一面ニ於テ元本取得ノ爲ニ借入
金ヲシテ居ル人モ相當アルノハ、是亦私ナ
ドヨリモ皆様ノ方ガ遙ニ能ク御存ジノコト
カト存ジマス、此ノ方面ニ對シマシテハ今度
ノ稅制改正ハ確ニ適切妥當ナモノデアル、
問題ハ中島サンノ仰セニナルヤウナ分子ガ
多少アルガ、ソレガ著シク其ノ弊ニ堪ヘナ
イモノデアルカドウカ、サウ云フ弊ガアル
場合ニ、之ニ對シテ如何ナル防止方法ヲ租
稅上講ジタラ宜イカト云フ問題ニ歸著スル
ノデハナカラウカト思ヒマス、私共ト致シ
マシテハ先づ負擔ノ均衡上カラ致シマシテ、
此ノ案ノヤウニスルノガ適當デアラウ、斯
ウ云フ風ニ考ヘル次第デアリマス

成デアリマス、私共ノ申シマシタ點ニ付テ
其ノ弊ノアルト云フコトハ確ニ認メラレタ、
主税局長ハ此ノ點ニ付テ修正ニ致ズルト云
フコトヲ述ベラレタモノデアルト私ハ諒承
致シマス、ソレナラバ此ノ借金ノ云々ト云
フコトヨリモ、ヤハリ現行法ノ如クニ二割
控除トカ三割控除シテ行ツタ方ガ曖昧デナ
クテ宜イ、實際ノ稅務官吏ノ認定ニ依リマ
スト、此認定ガ悉ク借金ハ認ヌナイ方ヘ傾
イテシマフノデス、ソレカラ主税局長モ御
承知ノ通り、現在ノ稅務署ノ狀態ヲ見マシ
タナラバ戰慄スペキ狀態デアル、其ノ戰慄
スペキ狀態ト云フモノハドウ云フ狀態デア
ルカト申シマスト、此ノ一二年間ニ於キマ
シテ殆ド恩給ヲ持ツテ居ル人ハ半減シタ、
或ハ十分ノ一ニ減ツタ所モアル、或ル都下
ノ稅務署ノ如キハ二十五人恩給ラ持ツテ居
ル人ガ居ツタノガタツタ五人ニナツテシマ
ツタ、サウシテ去年、一昨年採ツタ人ダケ
デ稅務ヲヤツテ居ル始末デ、アトハ軍需工
業ヘドンヽ行ツテシマツタ、殘ツテ居ル
人々ハ經濟關係、法規、典例、解釋ト云フ
モノハ餘リ知ラナイ、其ノ人々ガ此ノ法案
全體ヲコナシテ行ケルカ行ケヌカ、是ハ大
問題デアルト思フ、今度徵稅費ヲ取ツテ人
員ヲ殖ヤスコトニナツテ居リマスガ、是亦
貧弱ナル八十圓見當ノ月給取デヤレルカド
ウカ問題デアル、サウ云フ人々ニ持ツテ行
ツテ借金ノ控除ヲ言ウタ所デヨウ調べ得ル
カナイト云フコトニナツテシマフ、結論ト
シテ茲ニ私共ノ唯一ノ恃ミトシテ居ル所
ハ、臨時資金調整法ガ完全ニ施行セラレ

テ、所謂臨時資金調整法ノ目的通りニヤツテ行ケバ、投機取引其ノ他ニ付キマシテモ抑ヘテ行ケルデセウ、是亦不安ナ状態ニアルトスレバ、ソコマデ大藏省ノ目ガ届カヌシ、日本銀行ノ目ガ届カヌトスレバ、此ノ改正法案ノ今論點トナツテ居ル點ガ頗ル私共ハ心配ニ堪ヘナイノデス、今主税局長ハ中島委員ノ仰シヤラレル所ハ幾分カアル、著シク濃厚デナイト云フコトヲ認メラレタコトヲ以テ私ハ満足シマスルガ、餘程是ハ考ヘテ戴カナケレバナラスト思フ、又財界ノ實情ニ通ゼラレ、我黨ノ重鎮トシテ居ラレル所ノ藏相ニ於カレマシテモ亦此ノ點ハ認識セラレンコトヲ希望致シマス、

○堀切委員長 モウ意見ガ雙方能ク分リマシタカラ此ノ程度デ——アトハ是ハ理論デハ解決出来ナイ、投票デモシテ解決致スヨリ外ナイノデスカラ、其ノ點ハ此ノ程度デ宜シイト思ヒマス——板谷君、マダ續ケラレマスカ

○板谷委員 モツトハツキリ致シタイト思ヒマス

○大矢政府委員 私ハ委員長ノ今ノ御言葉ニ依リマシテ、此ノ點ニ付テハ深ク申上ゲヌ積リデアリマスガ、但シ結論ト致シマシテ、今回提出シタ案ヲ以テ最モ適當ト認メルト云フコトダケハ再度申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ今稅務署ノ仕事ノコトニ付テ色々御話ガアリマシタ、確ニ最近ノ稅務署ノ實情ニ於キマシテハ、或ル程度仰セニナツタヤウナ事情モアルノデゴザイマス、隨ヒマシテ今度ノ稅制改正ニ於キマシテモ斯ワ云フ點モ十分ニ考慮致シタノデアリマス、所得稅ノ體系モ斯ノ如ク改メマシテ、出來ルダケ源泉デ比例稅デ課稅シヨウ

ト云フ趣旨モソコニ出テ居ルノデアリマシテ、勤勞所得者ノ課稅人員ハ二百八十九万ニナツテ居ルノデアリマスガ、是モ殆ド源泉デ俸給支拂ノ際ニ課稅スル、ソレカラ配當利子ニ付キマシテモ、分類所得稅デ總源泉課稅デスル、斯ウ云フ風ニナリマシテ、從來支拂ノ所デ支拂調書ヲ提出シテ、各稅務署ハ全部千圓以上ノモノニ付テ綜合シテ課稅シテ居ル、其ノ間ニ色々通報漏トカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデアリマシテ、今後殊ニ産業ノ發達ニ連數ガ增加シテ行キマシテ、現情デモ尙ホ今御話ノアリマシタヤウナ状況モアルノデアリマスガ、將來ノコトヲ思ヒマスト云フト、從來ノ如ク總テ綜合課稅スルノハ「ペーパー。」¹プラントシテハ沟ニ結構デアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ實行方法カラ行キマスト、ドウシテモ是ハ適シナイ、茲ニ一大英斷制度ヲ執ツタノデゴザイマス、隨ヒマシテヲ揮ツテ課稅方法、納稅方法ニ改善ヲ加ヘナケレバナラスト云フコトガ非常ナ大キナ動機ニナツテ、分類所得稅ノ制度源泉課稅ノ制度ヲ執ツタノデゴザイマス、多少色々五千圓以下ノ給料所得者、配當利子所得者ハ總テ源泉デ天引デ納稅シテソレデ済ム、斯ウ云フコトニナツテ非常ニ事務方簡捷ニナル、サウシテ又納稅者ノ苦痛ヲ感ズルコトガ少クナル、是ハ今度ノ稅制改正ノ一つノ眼目ニナツテ居ル次第アリマス、多少色々基礎控除トカ、家族控除トカ、理論ニ徹シ少クナル、是ハ今度ノ稅制改正ノ一つノ眼目ニナツテ居ル次第アリマス、多少色々

泉デ俸給支拂ノ際ニ課稅スル、ソレカラ配當利子ニ付キマシテモ、分類所得稅デ總源泉課稅デスル、斯ウ云フ風ニナリマシテ、從來支拂ノ所デ支拂調書ヲ提出シテ、各稅務署ハ全部千圓以上ノモノニ付テ綜合シテ課稅シテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅トカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデアリマシテ、今後殊ニ産業ノ發達ニ連數ガ增加シテ行キマシテ、現情デモ尙ホ今御話ノアリマシタヤウナ状況モアルノデアリマスガ、將來ノコトヲ思ヒマスト云フト、從來ノ如ク總テ綜合課稅スルノハ「ペーパー。」¹プラントシテハ沟ニ結構デアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ實行方法カラ行キマスト、ドウシテモ是ハ適シナイ、茲ニ一大英斷制度ヲ執ツタノデゴザイマス、隨ヒマシテヲ揮ツテ課稅方法、納稅方法ニ改善ヲ加ヘナケレバナラスト云フコトガ非常ナ大キナ動機ニナツテ、分類所得稅ノ制度源泉課稅ノ制度ヲ執ツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ色々アリマシテ、誤謬ヲ重ネ、納稅トカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデアリマシテ、今後殊ニ産業ノ發達ニ連數ガ增加シテ行キマシテ、現情デモ尙ホ今御話ノアリマシタヤウナ状況モアルノデアリマスガ、將來ノコトヲ思ヒマスト云フト、從來ノ如ク總テ綜合課稅スルノハ「ペーパー。」¹プラントシテハ沟ニ結構デアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ實行方法カラ行キマスト、ドウシテモ是ハ適シナイ、茲ニ一大英斷制度ヲ執ツタノデゴザイマス、隨ヒマシテヲ揮ツテ課稅方法、納稅方法ニ改善ヲ加ヘナケレバナラスト云フコトガ非常ナ大キナ動機ニナツテ、分類所得稅ノ制度源泉課稅ノ制度ヲ執ツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ色々アリマス、誤謬ヲ重ネ、納稅トカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデアリマシテ、今後殊ニ産業ノ發達ニ連數ガ增加シテ行キマシテ、現情デモ尙ホ今御話ノアリマシタヤウナ状況モアルノデアリマスガ、將來ノコトヲ思ヒマスト云フト、從來ノ如ク總テ綜合課稅スルノハ「ペーパー。」¹プラントシテハ沟ニ結構デアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ實行方法カラ行キマスト、ドウシテモ是ハ適シナイ、茲ニ一大英斷制度ヲ執ツタノデゴザイマス、隨ヒマシテヲ揮ツテ課稅方法、納稅方法ニ改善ヲ加ヘナケレバナラスト云フコトガ非常ナ大キナ動機ニナツテ、分類所得稅ノ制度源泉課稅ノ制度ヲ執ツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデゴザイマス、多少色々

多少サウ云フ點ガアリマスケレドモ、稅務ノ實際ノ狀況カラ見マシテ、今後ノ行キ方致シマシテ成ベク手數ヲ掛ケナイ、徵稅ダトカ、計算ノ違ヒトカ、或ハ住所ノ變更者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ、コトモアツタノデゴザイマス、多少色々

昭和十五年三月一日印刷

昭和十五年三月三日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局